

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課
福祉人材確保対策室 御中

厚生労働省
令和6年度補助事業

介護のしごとと魅力発信等事業

事業報告書



朝日新聞社

2025年4月30日



これからのKAIGO



はっけん！ケアのこころ ケアのしごと



「これからのKAIGO ～はっけん！ケアのこころ ケアのしごと～」

過去数年間掲げてきたプロジェクト名「これからのKAIGO」を、
メインターゲットである子ども層に向けたメッセージを掲げました。

これからの介護業界を担う、小中高生が、介護のしごとに主体的に接する機会を通じて、
ケアのこころを養い、介護のしごとの魅力を『発見する』。本事業の主旨・ゴールを端的に表しており、
このプロジェクト名の下、子ども、保護者、教職員、そしてアクティブシニアに対して、事業を推進いたしました。

1

事業対象者の選定、企画委員会の実施



事業のターゲット



ターゲット設定

- 本事業のメインターゲットを「こども層」、「保護者・教職員（ミドル層）」、サブターゲットに「アクティブシニア層」に設定いたしました。
- ターゲットに合わせた施策で、効果的な情報発信を行っていきます。

① メインターゲット こども層



- 「ケアのこころ」を育てる
- 小中高生のなりたい職業に

介護に触れる機会の少ない小学生から、まだ進路が定まっていない10代学生に向けて教育現場との連携を図る。介護・福祉を知ってもらうことから、「ケアのこころ」「助け合いのこころ」を育てることで将来のなりたい職業の選択肢として関心を持ってもらう。

② メインターゲット 保護者・教職員



- 子どもや生徒を応援できる
- 自らもキャリアチャレンジ

子どもを教育する立場にある保護者、教職員に向けて、福祉・介護を子どもと一緒に学ぶ機会を作り、子どもや生徒たちの進路選択の応援意向を向上させる。同時に、即戦力となり得るミドル層として、自らのキャリアチャレンジも促す。

サブターゲット アクティブシニア層



- 就労意欲の後押し
- 地域貢献を叶える

働くことに意欲的なアクティブシニアに、地域貢献や自分の得意とするものが生かせる職業として、介護の仕事という選択肢を提供する。

企画委員会詳細



企画委員会

学識経験者・職能団体、介護事業者・実践者、有識者で構成する企画委員会を設置。年3回会議を実施し、効果的な広報と正しい情報発信に努めました。

対 小中高生及び教職員

小中高生のインサイトや教職員アプローチの知見、福祉系高校のネットワーク



<教職員アプローチの知見>
片山健志氏
寺子屋朝日 編集長



<小中高生のインサイト>
吉田由紀氏
朝日学生新聞社編集部長

有識者

全国の自治体等の取組に詳しい有識者



町亞聖氏
フリーアナウンサー、ジャーナリスト

介護事業者・実践者

全国の取組事例に詳しい実践者



菊地月香氏
社会福祉法人
同愛会理事長



大崎雅子氏
社会福祉法人
海望福社会
理事長・施設長



高瀬比左子氏
NPO法人未来をつくる
kaigoカフェ代表

※上記から5名程度を検討委員に選任予定（順不同）

企画委員会詳細

<開催日>

- 第1回令和6年7月31日（月）10:00～11:30
 - 第2回令和6年11月18日（月）13:00～14:30
 - 第3回令和7年3月26日（木）15:00～16:30
- ※いずれもオンラインでの開催

<企画委員>

- ・大崎雅子氏（社会福祉法人海望福祉館 理事長）
- ・高瀬比左子氏（特定非営利活動法人未来をつくるkaigoカフェ代表）
- ・町亞聖氏（フリーアナウンサー、ジャーナリスト）
- ・菊地月香氏（社会福祉法人同愛会 理事長）
- ・吉田由紀氏（朝日学生新聞社副編集長）
- ・片山健志氏（寺子屋朝日編集長）

<オブザーバー>

- ・厚生労働省様
社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 室長補佐 横溝 豊様
社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室 介護人材定着促進専門官 金山 峰之様
社会・援護局 福祉基盤課 マンパワー企画係 係長 佐藤 幸様
社会・援護局 福祉基盤課 マンパワー企画係 田邊 一貴様
社会・援護局 福祉基盤課 マンパワー企画係 瀧川 凜様
- ・PwC コンサルティング合同会社様

<事業主体>（朝日新聞社メンバー）

- ・メディア事業本部ソーシャルプラットフォーム部 吉田 智紀、安藤桃子、松下朋子、小高めぐみ

企画委員会詳細

<開催日>

第1回 令和6年 8月2日（金） 13:00～14:30

■参加者(企画委員)

・大崎雅子氏、高瀬比左子氏、町亞聖氏、菊地月香氏、吉田由紀氏、片山健志氏

■主な議題

・事業内容全体紹介、各施策に対する意見ヒアリング

■企画委員からの主なコメント

・こども向けサマースクールでは、「ロボット」などを切り口に関心を高め集客にも成功しました。対象者がどんなところに関心を示すのかを常に意識することが大切です。従来の介護の魅力発信のあり方に、新たな発信方法があると感じました。親子で一緒に楽しんでもらったことが良く、ちょっとした工夫がすごく大事です。

・小学生、中高生へのアプローチにしっかりとした企画が上がってきています。紙面を読んで行動に移すことを期待したいです。地元の社会福祉施設などに問い合わせるなどの行動につなげたい。子供向けの体験を行っている施設も多いです。

・事業者としても教職員は味方になってほしいが、近づきがたい存在であり、より理解を深めてほしい層です。リアルな話をしていくことも重要です。雇用環境、給与、福利厚生も教職員や保護者は関心があります。好事例もたくさんあるので、リアリティを持ちながら伝えていくことが重要です。

・都道府県の福祉人材センターなどへの登録にどうつなげるかが課題です。

・次世代の「労働力」として見るのではなく、目指してもらいたい職場とするべきであり、それに応えられる現場でなくてはなりません。介護の仕事の社会的評価をどれだけ高められるか、子どもたちにどれだけ魅力を語っても「保護者」「教職員」へ正しく理解してもらうのが大切です。保護者が介護現場に進むのを止める場合もあります。「介護に対する理解が少なく、介護を知らない先生も非常に多いです。作文コンクールを高校生などにも広げるのも良いです。より課題が可視化できるでしょう。

企画委員会詳細

第1回企画委員会

■ 企画委員からの主なコメント（続き）

・介護業界には若い人の感性・感覚、新しい発想が必要です。若い人たちが介護職を目指してくれることが業界を変える力になり、クリエイティブが求められます。一方で、命と向き合う仕事でもあり、クリエイティブな部分だけではなく、死と向き合う仕事でもあることを伝えるべきです。

・若い人は介護の現場だけでなく、祖父母や親世代との生活が想像できていないことが多いです。肉体的な厳しさが強調されがちですが、コミュニケーション力や観察力が非常に必要で、見たこと聞いた情報を処理することが非常に重要な仕事です。カッコいいロールモデルをいかに紹介できるか、リアルな姿を届けられるかが重要です。

・他の団体でも出張授業や先生向けの施策はありますので、朝日新聞社が行う意味をどう持たせるか、棲み分けが必要です。自治体でも「介護」作文コンクールを開催していますが応募数が少なく、どのような意図で応募につなげていくかが課題です。先生向けに社会福祉施設のPRを行っている事業者もあり、都道府県単位でもやっていることが多いです。差別化や連携の方法を考える必要があります。

・出張授業も都道府県や市町単位で行っていますが、できていない地域もあります。できていないところに「なぜやれていないのか」、「教材やどのようなツールがあればできるのか」を問いかけ、アプローチの方法を提供することで、より福祉に関心を持つ人が増えます。

・介護・福祉に関わる人が仕事に就ききっかけを調査したところ、学生時代の体験や、身内に高齢者や障がい者がいたことが上位を占めました。触れるきっかけがあった人や、身近に福祉に触れる機会があった人が仕事に就く傾向があります。さらに福祉の魅力を発信することが重要であり、市町村単位でも広がっていくことが望まれます。

企画委員会詳細

<開催日>

第2回 令和6年11月18日(月) 13:00~14:30

■参加者(企画委員)

・大崎雅子氏、高瀬比左子氏、町亞聖氏、菊地月香氏、吉田由紀氏、片山健志氏

■主な議題

・事業進捗の報告、各施策に対する意見ヒアリング

■企画委員からの主なコメント

・豊富なコンテンツを同時進行されており、中身が充実していると感じた。

デジタル教材は「おしごとほくぶつかん」にて展開ということだが、今回の対象である「子ども」は継続的なアプローチが大事なのではと感じる。学校での出張授業などの展開については、「今後も継続したい」という声をいただくことも多い。一般の方の興味関心を広げることが大切、「ケア」の大切さを社会の中でどう考えていくか。

・継続的に続けることが大切と感じている。以前より議論のあった「事業が啓発にとどまってよいのか」という点に関しては引き続き検討が必要。出張授業にもいくつか参加させてもらったが、コロナ禍を経てオンラインなど手法も幅広くなっていると感じる。「都道府県には実施できない内容」を国としてどう組み立てていくか、も引き続き検討したい点。また介護現場にタッチする立場としては引き続き人材不足は感じている。

・改めて幅広い展開だと感じた。寺子屋朝日では11月にウェビナーを準備中。「ケアのこころ」というキャッチフレーズがたいへん重要だと感じており、介護の仕事そのものの発信も重要ながら広い意味での魅力発信も大切。地域のなかにどんな施設があるのか、など地域を知る学習があつての介護の学び、など介護を深く・広く学ぶことも大事なのではないか。

企画委員会詳細

第2回企画委員会

■ 企画委員からの主なコメント（続き）

・今後「高齢者福祉」だけでは立ち行かなくなることはたしか。地域の中でこども食堂など含めて幅広い世代の交流の場があって、地域でさまざまなチャレンジをしてもらうことも大切なのは。そういった子どもたちに出演いただいたの展開も今後ぜひ検討していただきたい。

・大学生の実習WEEKにあたり対応していた。寺子屋朝日ウェビナーの登壇者がみなさん魅力的で楽しみ。「地域共生社会」多様な人々を巻き込む力が大事になってくるかと考えている。小中学生から「福祉」に興味を持っていただくことが大事と考えているので、今回の事業はたいへん興味深い。アクティブシニアがそれぞれのキャリアを生かして介護に携わってくださる形を今後も期待したいと思っている。世代に応じたアプローチ・発信が大事。

・新聞社は広く発信することが得意な媒体だと理解しているが、一回限りの発信、機会提供ではなく（たとえば出張授業）長期にわたり接点を創り出すことはできないか。長期的に魅力を発信していける機会づくりが大切だと感じている。

企画委員会詳細

<開催日>

第3回 令和7年 3月26日(水) 15:00~16:30

■参加者(企画委員)

・大崎雅子氏、高瀬比左子氏、町亞聖氏、吉田由紀氏、片山健志氏

※菊地月香氏は欠席のため別途ご説明

■主な議題

・事業報告、各施策に対するご意見

■企画委員からの主なコメント

・Reライフイベントでの介護相談ブースで「実際にどうすればよいのか、までご提示できたらよかった」との報告に同意。各地域の窓口にお問い合わせもらうなどの案内が多くなってしまったので、個別のしかく取得であったり、地域ごとの相談会の実施などご提案できたらよかった。

・継続的に介護に触れる機会が必要だと感じた。今後、学校と介護事業者との連携プログラムなどつくっていけるとよいのではないかと考えている。

・出前授業に応募いただけるような意識が高い先生とのつながりを意識できるとよい。ネットワークをつくって継続的に発信できると今後のイベント集客にもつながりそう。

・出前授業もひな型をつくり多くの場所で実施、検証するのもよいのでは→人手不足の事業所は多いので喜ばれるのではと思う。

・作文の内容のレベルが高く素晴らしかった。自分の言葉で書くことの大切さを改めて感じた。

・子どもたちは「介護」「ケア」をかわいそうとは思わず、学んでいると感じた。読んでいて未来を明るく感じた。

・出張授業については全部の学校で実施するくらいの広がりがみられるとよいのではと思った。こつこつ継続することも大切だと感じる。

・教職員のかたの「介護」に関する意識をたかめていくことはとても大事だと感じる。当事者意識をもってもらうのはどうしたらいいか、一緒に考えたい。

・「介護職を増やしたい」という意図は理解できるものの、「介護とわたし」だと自分ごと化が難しいのはその通りだと思う。

企画委員会詳細

第3回企画委員会

■ 企画委員からの主なコメント (続き)

- ・「ケアの心を育む」という打ち出しのほうを受け入れられそうな気がする。その結果、介護職への興味関心も高まるのでは。たとえば「ヤングケアラー」は教職員にすごく刺さりやすいワードだと思う
- ・学校にもっと取り入れられるには、「学校側の手間をはぶくこと」がとても大事。出張授業に関して職業教育は引き続き求められていると感じた。
- ・作文コンクールはネーミングの再考など含め検討できればと思う。作品については身近に介護職の大人がいるひとと、いないひと、で大分意識の差があるのではないかと感じた。身近に介護がない子どもたちもどうしたら興味を持ってもらえるのか、は考えてみたい。(例示など)
- ・教員向けセミナーの集客が厳しかった点については、先生からすると「介護」が自分ごと化されていないことを感じた。
- ・先生向けの情報発信は「つづけること」も大事だと感じた。先生たちのマインドセットの重要性。
- ・これからの時代に向けた世代へのアプローチは素晴らしい。周辺の影響力のある方に伝わったこともよかった。
- ・デジタル教材について介護単体だと預かってもらいにくいけれど、高齢化社会など公民的なアプローチだと扱ってもらいやすいというのは新たな視点だった。

2

事業内容



事業全体概要



これからのKAIGO ～はっけん！ ケアのこころ ケアのしごと～

企画委員会

学識経験者・職能団体、介護事業者・実践者、有識者で構成する企画委員会を設置。年3回会議を実施し、効果的な広報と正しい情報発信に努めました。



ポータルサイト「これからのKAIGO」

パソコン用／スマートフォン用それぞれに対応した、情報発信の拠点。

https://www.asahi.com/ads/korekarano_kaigo/



1 全国の小中高 出張授業 8 か所



2 小学生向け デジタル教材の開発



3 小学生向け作文コンクールの開催 介護のしごとについて、親子で学び考える機会



介護の
仕事体験会
も開催

4 高校生介護技術コンテストを起 点とした中高生アプローチ



5 教職員向けウェビナーでの 直接アプローチ



6 アクティブシニア向け 日本最大級の アクティブシニアコミュニティの活用





1. 小中高生向けの出張授業

「ケアのこころ」を身につける授業の開催

弊社グループ会社における教育機関とのつながり・授業実施のノウハウを活用し、全国の小学校・中学校・高校合計8か所出張授業を開催しました。各地域の介護事業者の方や、本事業（介護職発信事業）で採択された社会福祉法人等の事業者とも連携し「ケアするこころ」を育み、介護のしごとの魅力について伝える授業をいたします。



- 開催時期：2024年12月～2025年2月
- 実施回数：全国8か所
小学校5か所、中学校2か所、高校1か所
- 実施方法：各学校の総合学習等で実施
- 授業内容：
 - 小学校
介護事業者による事例紹介や対話型グループワーク等
 - 中学校
介護・福祉が生まれた背景、「仕事としての福祉・介護」について事業者や若手職員による講義
 - 高校
介護実践者による講義、キャリア教育

介護職発信事業で採択された団体や職能団体の専門家を講師役にお招きしました。

出張授業を通して、介護のしごとの役割・社会的意義ややりがいについて理解を深め、「ケアするこころ」を育みます。また、講師による一部の授業は撮影し映像として保存、介護のしごとのキャリア教育授業の実践例として納品し、希望する教育現場で利用可能にしました。

事業内容



1. 小中高生向けの出張授業

出張授業 実施学校

学校名	住所	実施日	曜日	授業時間	学年	学級数	参加数	講師
仙台市立中野栄小学校	宮城県仙台市宮城野区栄3-12-1	1月15日	水	11:30~12:15	4	3	75	未来をつくるkaigoカフェ高瀬様
千葉市立真砂西小学校	千葉県千葉市美浜区真砂4-5-1	12月10日	火	11:15~12:00	4	3	101	加藤幸夫様 ※KAiGOPRiDE
練馬区立高松小学校	東京都練馬区高松3-16-1	12月9日	月	9:40~10:25	5	4	124	塚越典子様 ※KAiGOPRiDE
名進研小学校	愛知県名古屋市守山区緑ヶ丘853-1	1月27日	月	13:15~14:00	5	3	83	山崎朱美様 ※KAiGOPRiDE
東植田小学校	大分県大分市田尻499-1	12月4日	水	13:05~13:45	4	3	99	吉岡俊昭様

学校名	住所	実施日	曜日	授業時間	学年	学級数	参加数	講師
藤沢市立第一中学校	神奈川県藤沢市鵜沼神明5-10-9	1月20日	月	14:30~15:20	中2	6	231	吉岡俊昭様
姫路市立夢前中学校	兵庫県姫路市広畑区才226-1	2月3日	月	14:25~15:15	中1	4	163	満永啓太様 ※KAiGOPRiDE

学校名	住所	実施日	曜日	授業時間	学年	学級数	参加数	講師
香川県立高松南高等学校	香川県高松市一宮町531	12月12日	木	12:15~13:05	高1	1	30	空野太陽様 ※KAiGOPRiDE

全国の生徒・教職員合わせて約950名に授業を行いました。

※5つの学校で、一般社団法人KAiGO PRiDE様と連携し、アンバサダーの方に講師をお願いしました。

出張授業 参加校 募集!

介護から学ぶ「思いやり・ささえあい」はぐくもう！ケアのこころ

インクルーシブ（「だれかを排除せず」に）中高生が活躍できる社会の日本では、人々の「豊かな生活」のために介護が大きな役割を担っています。介護に関わる職や能力を通して、「思いやり・ささえあい」の大切さを考える授業です。全国の中学校へ出張授業を行います。

実施日 2024年11月～2025年2月

実施校 詳細は募集要項をご覧ください。

対象校 特別支援学校・盲学校・聴覚障害者学校・知的障害者学校・発達障害者学校・障害者福祉施設・障害者福祉センター・障害者福祉会館・障害者福祉センター・障害者福祉センター・障害者福祉センター

研修内容 1. 介護ってなんだろう? 2. 事例の紹介 3. グループワーク

講師 「仕事として介護・福祉」に関わる事業者や職員

主催 / 障日小学生新聞 障日中高生新聞
本プログラムの企画・実施・運営は、障日小学生新聞・障日中高生新聞が中心となり、KAiGO PRiDE様と連携して実施しています。*



1. 小中高生向けの出張授業

吉岡俊昭様
12/4 大分



塚越典子様
12/9 練馬



加藤幸夫様
12/10 千葉



空野太陽様
12/12 高松





1. 小中高生向けの出張授業

未来をつくる
kaigoカフェ様
1/15 仙台



吉岡俊昭様
1/20 藤沢



山崎朱美様
1/27 名古屋



満永啓太様
2/3 姫路



事業内容 出張授業アンケート



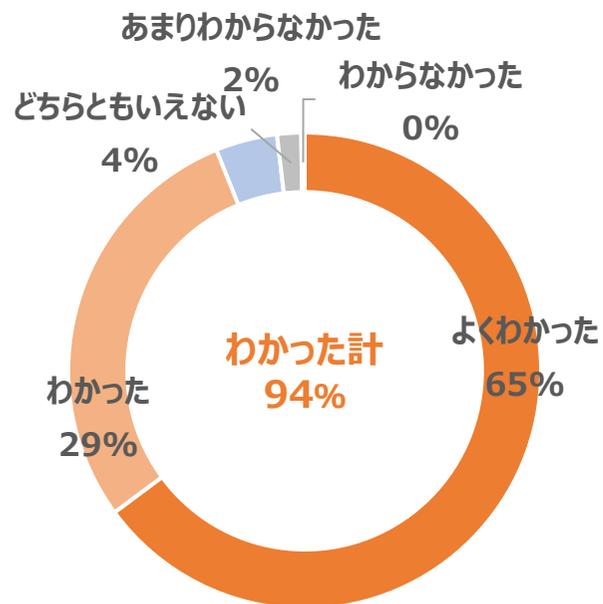
1. 小中高生向けの出張授業

小学生

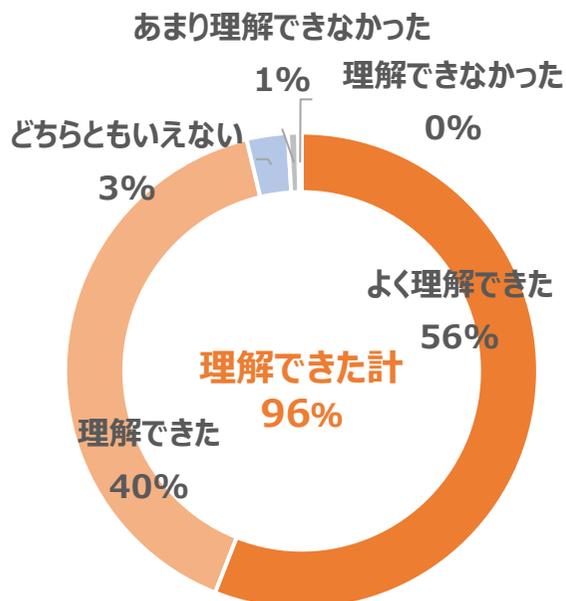
【小学生】生徒アンケート回収数：427

＜性別＞ 男性178、女性200、答えない33、無回答16 ＜学年＞ 4年生245、5年生182

出張授業の内容はわかりましたか



授業を受けてみて、介護のしごとについて理解できましたか



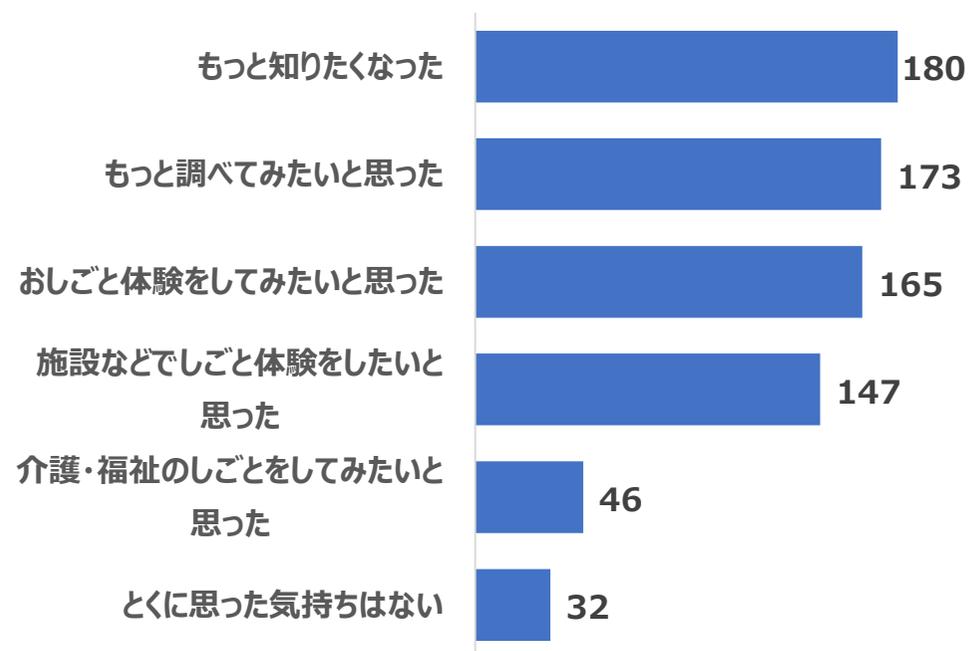
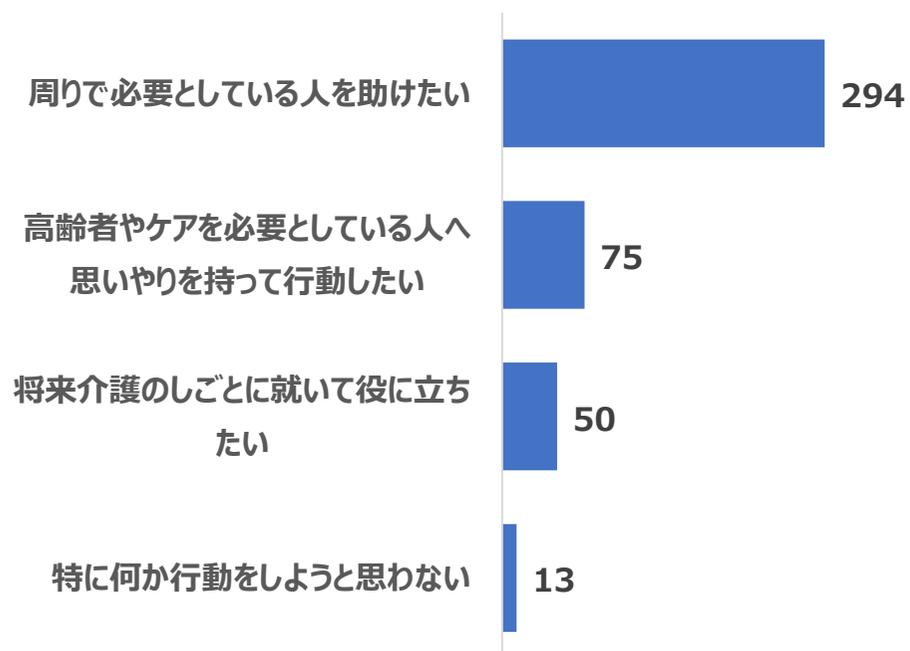


1. 小中高生向けの出張授業

小学生

授業を受けてみて、介護やケアを必要とする人にたいして、どのような行動を試してみようと思いましたか（複数回答可）

授業を受けてみて、介護・福祉のおしごとについてどのような興味・関心を持ちましたか（複数回答可）





1. 小中高生向けの出張授業

小学生

本日の授業の感想を教えてください（自由回答サマリー）

1. 介護の重要性と感動

- 多くの生徒が、介護の仕事がいかに重要で思いやりが必要かを理解し、感銘を受けたと述べています。特に、介護者が高齢者に寄り添い、優しく接する姿に感心し、「かっこいい」と感じたという声が多くありました。

2. 新たな発見と学び

- 授業を通じて、介護の仕事には大きく分けて2つの種類（訪問介護と施設介護）があることを学んだ生徒が多く、さらに具体的な業務内容や一日のスケジュールについてもっと知りたいという意見が多く寄せられました。

3. 介護への興味と体験希望

- 生徒の多くが、実際に介護の仕事を体験してみたいと感じたことが分かります。特に、お年寄りの手伝いや介護施設の見学、介護体験を通じて仕事の具体的な内容を知りたいという希望が多く出ています。

4. 介護を通じた思いやりの心

- 授業を通して、思いやりや支え合いの重要性を再認識した生徒が多くいました。特に、困っている人を見かけたら助けたい、周りの人に優しく接したいという気持ちが強くなったという意見が多数見受けられました。

5. 具体的なエピソードへの関心

- 授業で紹介された「かきもってけおばあさん」や「リュックサックおじいさん」などの具体的なエピソードに興味を持ち、もっと他のエピソードや介護の現場での体験談を知りたいという声が多く寄せられました。また、介護の仕事の大変さややりがいについても詳しく知りたいという意見がありました。



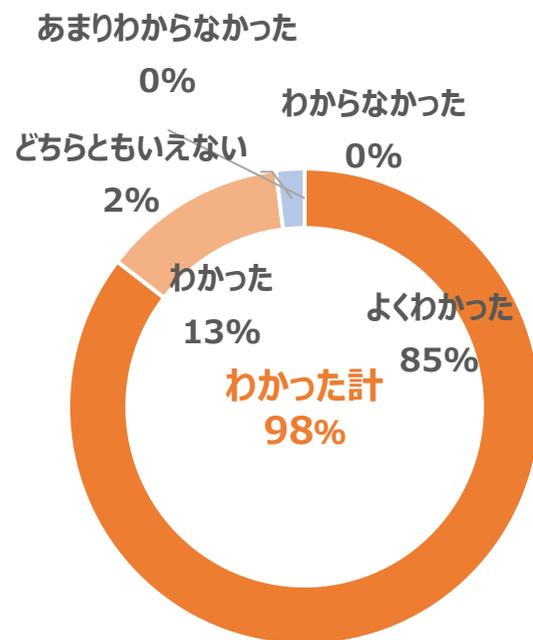
1. 小中高生向けの出張授業

中学生

【中学生】生徒アンケート回収数：340

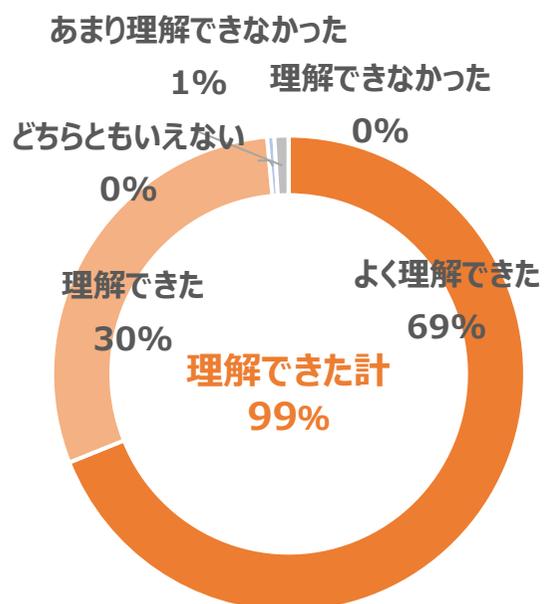
〈性別〉男性179、女性141、答えない15、無回答5 〈学年〉1年生134、2年生206

出張授業の内容はわかりましたか



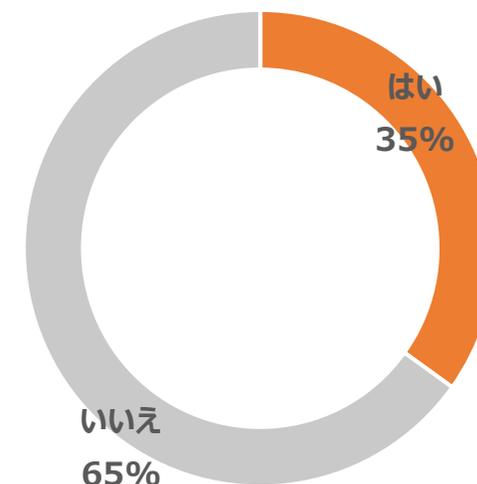
※有効回答者ベース

授業を受けてみて、介護のしごとについて理解できましたか



※有効回答者ベース

身近に介護を必要としている人、または介護をしている人はいますか



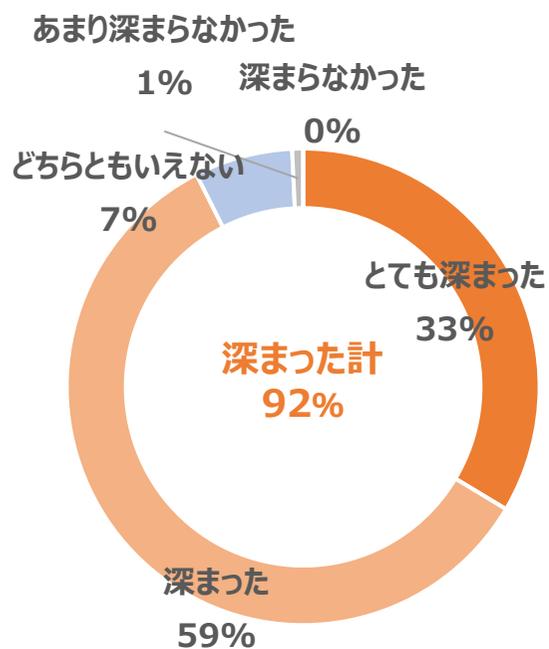
※有効回答者ベース



1. 小中高生向けの出張授業

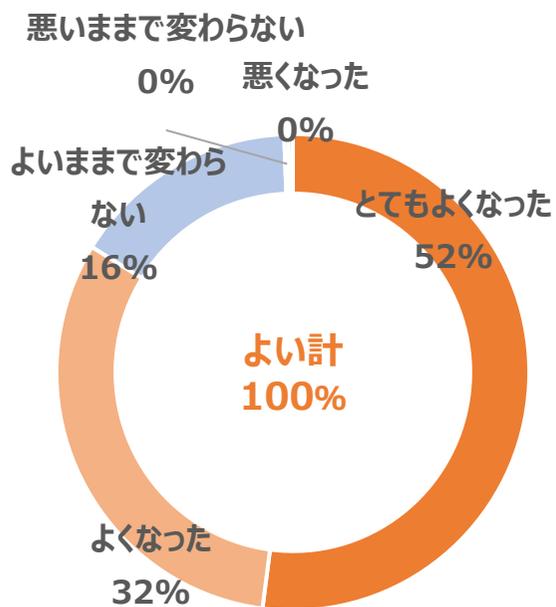
中学生

授業を受けてみて、介護・福祉のしごとについて理解が深まりましたか



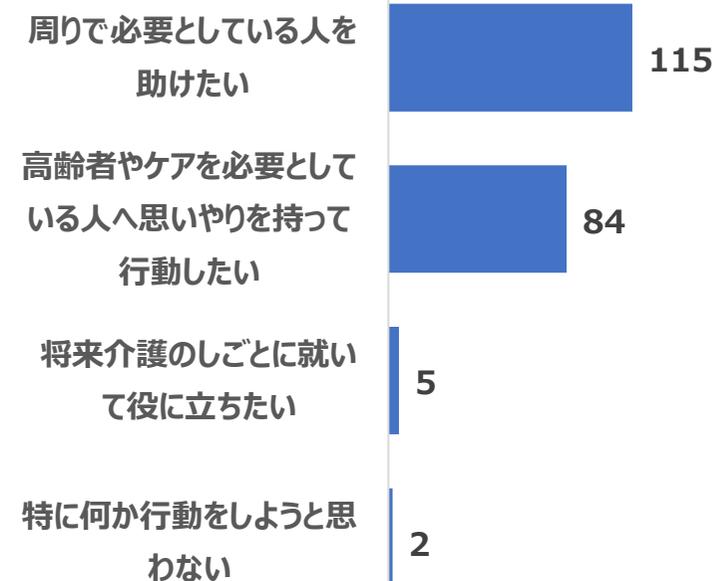
※有効回答者ベース

授業を受けてみて、介護・福祉のしごとのイメージが変わりましたか



※有効回答者ベース

授業を受けてみて、介護やケアを必要とする人にたいして、どのような行動を試みようと思いましたか（複数回答可）



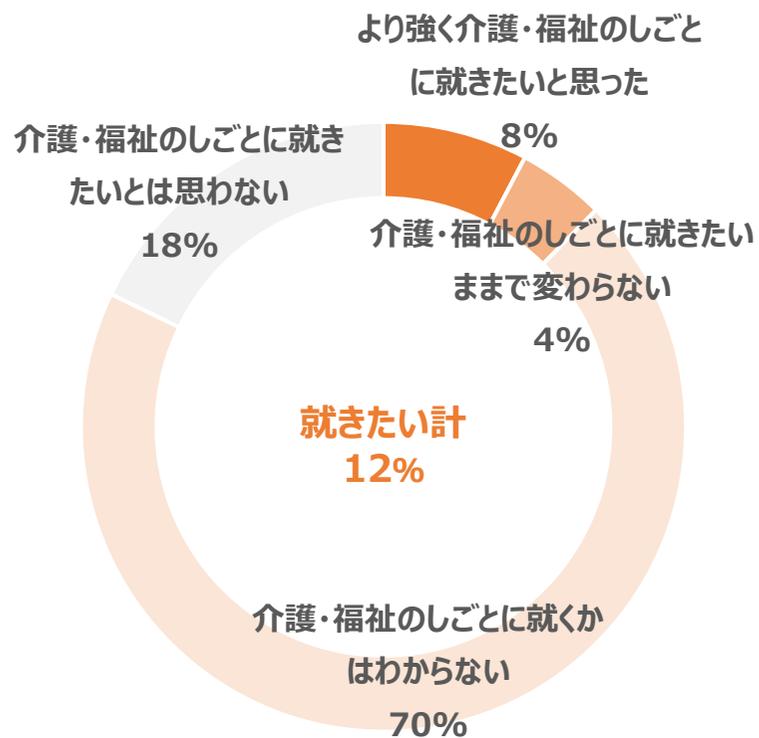
※有効回答者ベース



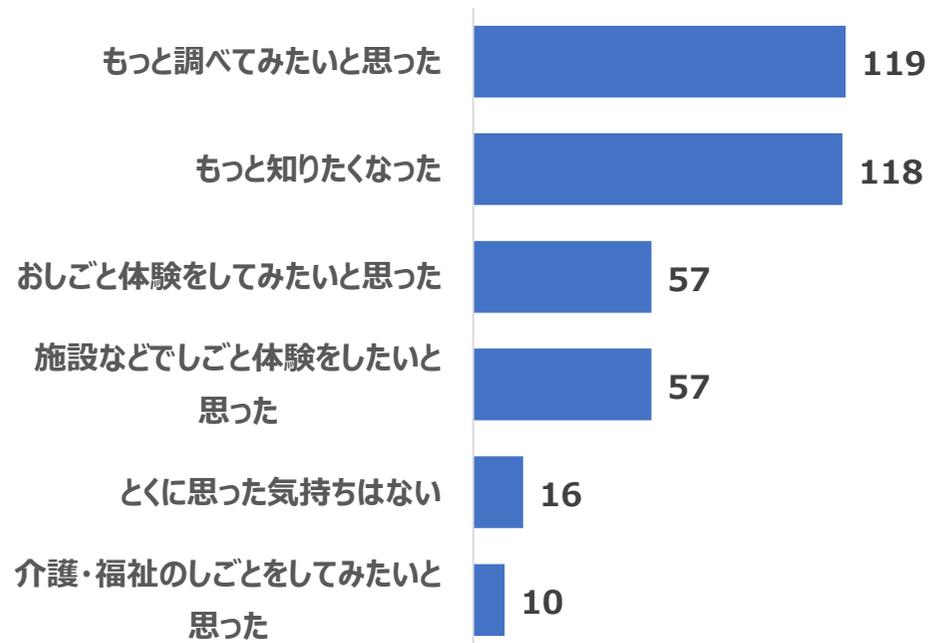
1. 小中高生向けの出張授業

中学生

授業を受けてみて、将来介護・福祉のしごとに就くことへの意識の変化はありましたか



授業を受けてみて、介護・福祉のおしごとについてどのような興味・関心を持ちましたか（複数回答可）





1. 小中高生向けの出張授業

中学生

授業を受けてみて、介護のしごとにおいて大切なことは何だと思いましたか（自由回答サマリー）

1. 相手の意思と願いの尊重

- 介護では相手の「何がしたい？」「どこに行きたい？」という希望を聞き、自分の意見を言いやすい環境づくりが重要です。相手のしたいことを実現するために工夫し、その人の願いを「最後の最後まで」かなえようとする姿勢が大切だと多くの回答が示しています。

2. コミュニケーションと心の交流

- 多くの回答者が「コミュニケーション能力」の重要性を指摘しています。単に話すだけでなく、相手の気持ちをくみ取り、心でつながることが大切だと認識されています。特に「しっかりと聞く」「言えない人の思いを引き出す」などの積極的なコミュニケーションが重視されています。

3. 思いやりと寄り添う姿勢

- 「相手によりそってあげる」「思いやりの気持ち」「やさしさ」を持つことが介護の基本だと多くの回答が示しています。単なる介助ではなく、心から相手を大切に思う気持ちで接し、その人の人生に寄り添う姿勢が重要だと認識されています。

4. 支え合いの関係性の構築

- 介護は「支え合う」関係であり、「支える人と家族のような関係」を築くことが大切だと多くの回答が指摘しています。「支える事もあれば、支えてもらう事もある」という相互関係の理解や、相手を「同じ一人の人間として接する」という対等な関係性が重視されています。

5. 創造力と工夫する姿勢

- 「クリエイティブが大切」「一つ工夫するだけで喜んでくれる」「どう工夫して叶えてあげるか」など、創造力と工夫する姿勢の重要性が認識されています。「-を0にするんじゃなく、-を+にする」という発想や、相手の人生をより豊かにするための発想力が介護には必要だと理解されています。



1. 小中高生向けの出張授業

中学生

本日の授業の感想を教えてください（自由回答サマリー）

1. 介護・福祉に対するイメージの変化

- 力仕事や大変というマイナスイメージから、人の最期まで寄り添い笑顔にできる「カッコいい仕事」へと認識が変化。身体的ケアだけでなく心のケアも含む奥深さへの理解が深まりました。

2. 「介護は恩返し」という言葉の影響

- 講師の「介護は恩返し」という言葉が多くの生徒の心に響き、親や祖父母への感謝の気持ちを再認識。日常の「当たり前」を大切に、将来自分も介護の役割を担いたいという意識が芽生えました。

3. 認知症への理解と共感

- 具体的なエピソードから認知症の人の気持ちや家族の苦しみを理解。特に「大切な人や好きなものは心に残る」という事実で感動し、認知症を身近な問題として捉え直す視点が生まれました。

4. 実体験に基づく介護の実際

- 「お風呂好きのおじいさん」などのリアルなエピソードが印象深く残り、介護の現場の多様性を理解。利用者の希望を叶える創造的な取り組みに感銘を受け、介護の仕事の奥深さを実感しました。

5. 自分にできる介護・思いやりの実践

- 「これからはおじいちゃんに挨拶をしよう」など具体的な行動目標が生まれ、日常での思いやりの重要性を再認識。介護は専門家だけでなく自分にもできることがあるという気づきが広がりました。



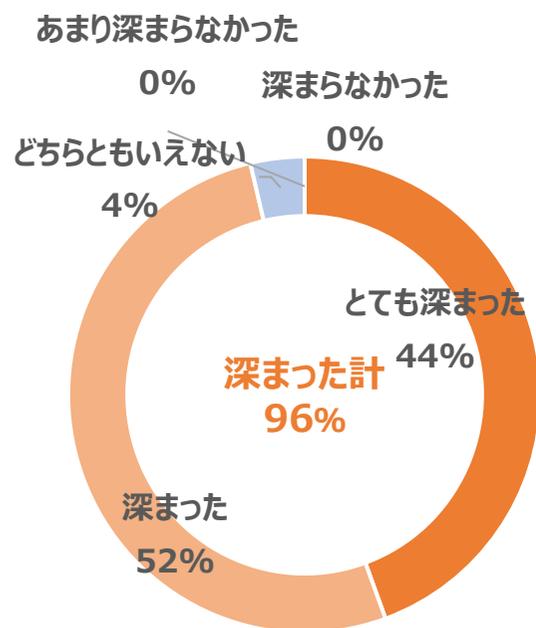
1. 小中高生向けの出張授業

高校生

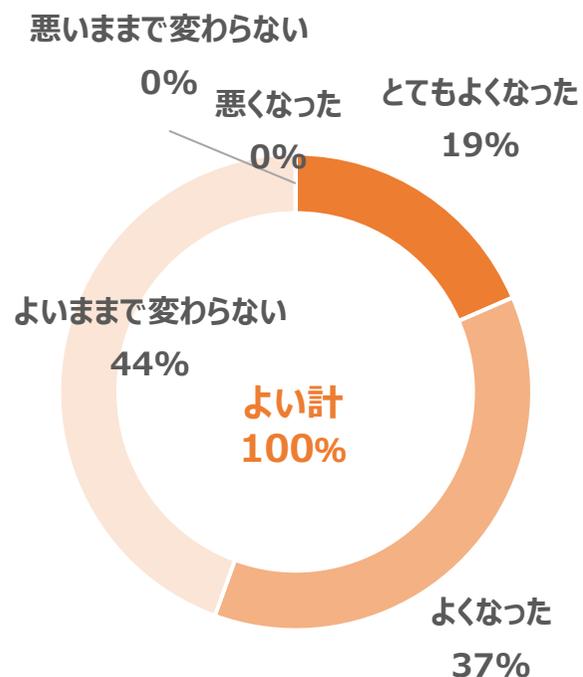
【高校生】生徒アンケート回収数：27

＜性別＞ 男性5、女性27、答えない1 ＜学年＞ 1年生27

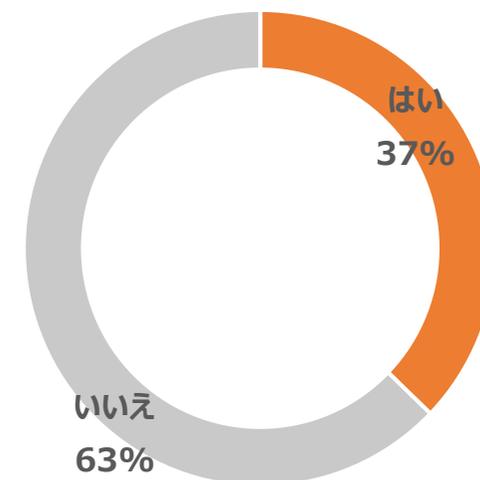
授業を受けてみて、介護・福祉のしごとについて理解が深まりましたか



授業を受けてみて、介護・福祉のしごとのイメージが変わりましたか



身近に介護を必要としている人、または介護をしている人はいますか

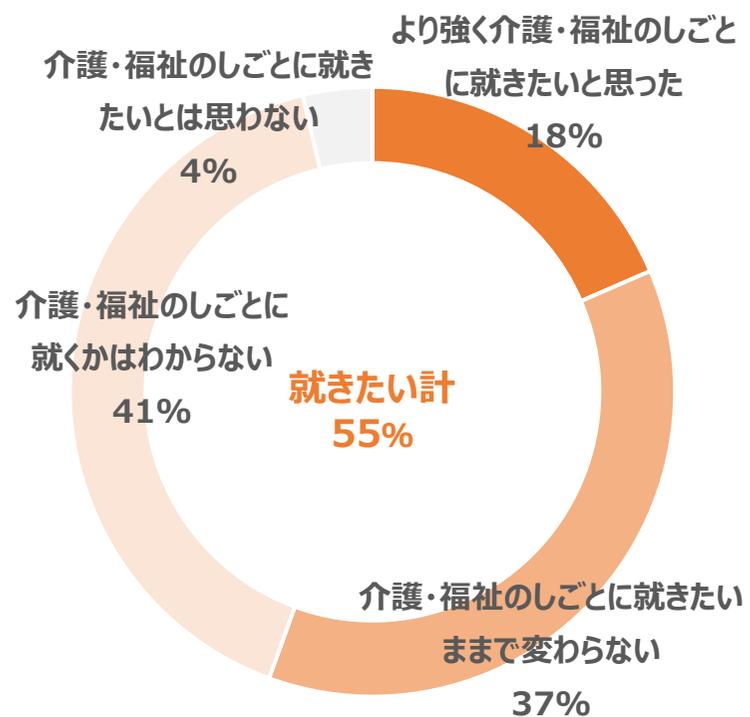




1. 小中高生向けの出張授業

高校生

授業を受けてみて、将来介護・福祉のしごとに就くことへの意識の変化はありましたか





1. 小中高生向けの出張授業

高校生

授業を受けてみて、介護のしごとにおいて大切なことは何だと思われましたか（自由回答サマリー）

1. 利用者のその人らしさを尊重する姿勢

- 利用者の個性と尊厳を大切に「その人らしさを追求する」ことが最も重要とされています。利用者の意見をしっかり聞き、できることを見つけ、意欲を下げない言葉かけや支援を心がけることの大切さが強調されています。

2. 「明日」を前提としない命の尊重

- 「明日があるとは限らない」という認識を持ち、利用者のやりたいことを先延ばしにしない姿勢の重要性が挙げられています。命の尊さを意識し、一日一日を大切にしたい関わりを持つことが介護の本質と捉えられています。

3. 「重要な他者」になる意識

- 単なる支援者としてではなく、利用者や家族にとって「重要な他者」となることを目指す姿勢が重視されています。利用者に歩み寄り、理解し、寄り添うことで信頼関係を築くことの大切さが強調されています。

4. ポジティブ思考とクリエイティブな姿勢

- 介護に対するネガティブなイメージをポジティブに転換する思考が重視されています。「誰よりもパワフル、誰よりもクリエイティブ」という意識を持ち、困難な状況でも前向きに対応する姿勢が大切とされています。

5. 多職種連携と利用者の可能性を引き出す支援

- 利用者の可能性を最大限に引き出すために多職種連携を行う重要性が指摘されています。「できることを出来なくさせない」という視点から、利用者ができることは本人にやってもらい、自立を支援する姿勢が大切と考えられています。



1. 小中高生向けの出張授業

高校生

本日の授業の感想を教えてください（自由回答サマリー）

1. 介護の魅力とプライドの再発見

- 介護を「カッコいい仕事」と再認識する視点が多く語られました。ネガティブな3Kのイメージから、ポジティブな「パワフル、クリエイティブ、寄り添う」という新たな価値観へのマインドシフトが印象的です。「KAIGO PRiDE」の活動が介護の誇りを広める役割を果たしていることが伝わりました。

2. 「重要な他者」になることの意義

- 「重要な他者」という概念が多くの参加者の心に響きました。赤の他人から、利用者や家族にとってかけがえのない存在になるプロセスの重要性が語られ、人との関わりを通じて信頼関係を築く大切さへの気づきが深まっています。

3. いのちの尊厳と「今」を大切にする姿勢

- 「また明日」と気軽に言えない命の重さを再認識する声が多くありました。「明日しようではなく今日できることを」という言葉から、目の前の一瞬一瞬を大切にしている介護の本質を学んだことがわかります。利用者の希望を先延ばしにしない姿勢の重要性が強調されています。

4. 利用者の自立と尊厳を支える姿勢

- 「できる事を強要して出来なくなってしまう」という言葉が心に響いたという感想が見られます。利用者の「その人らしさ」を理解し尊重することの大切さや、適切な自立支援のあり方について、深い学びを得たことがうかがえます。

5. 介護職への新たな気づきと決意

- 介護職を目指す動機は何でもよいが、仕事に誇りを持つことの大切さに気づいた声が多くありました。講師の介護への熱意に触れ、「私もそうになりたい」と思いを新たにされた参加者が多く、介護の学びを続ける決意が強まったことがわかります。



1. 小中高生向けの出張授業

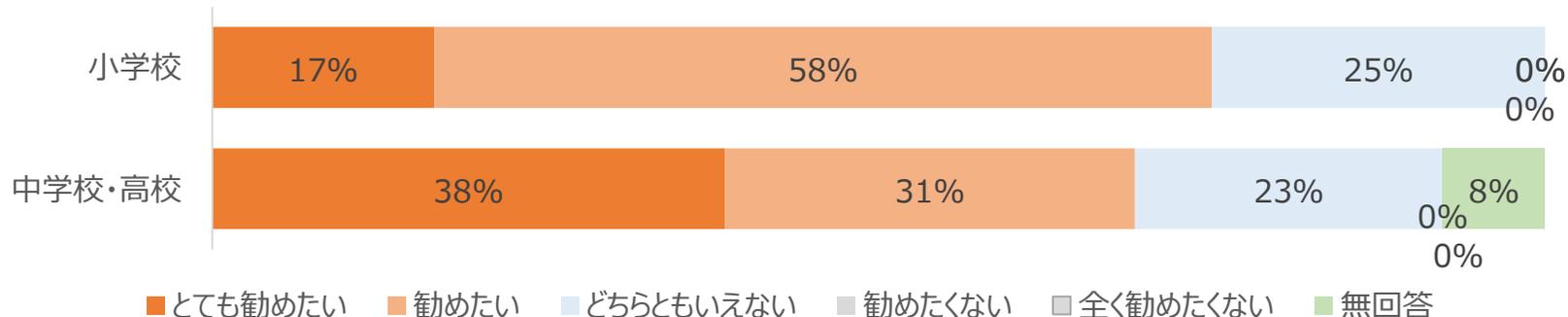
先生

先生アンケート回収数：25

<学校> 小学生12、中学校12、高校1

今回の授業を通じて、児童（生徒）の将来の選択肢として勧めてみたいと思いましたが

勧めたい計

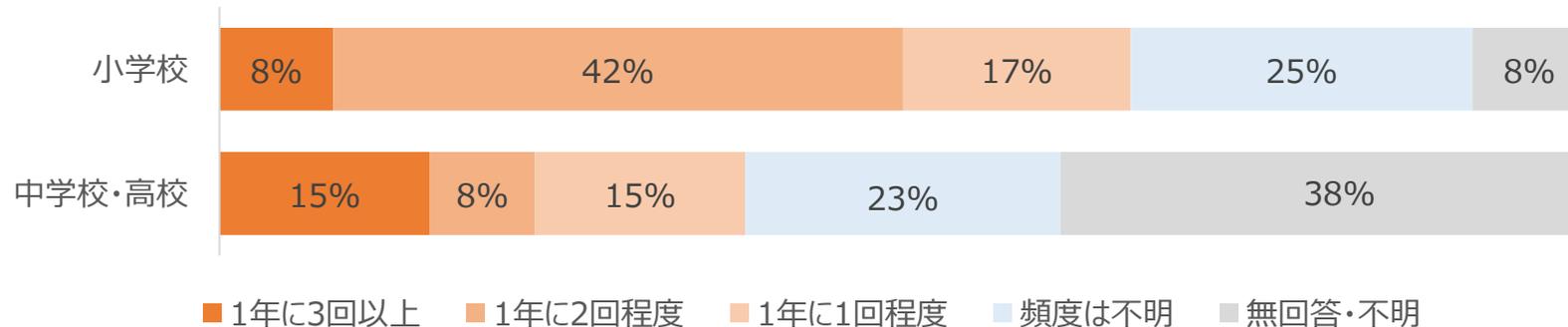


75%

69%

今後の授業でキャリア教育の授業をどのくらいの頻度で増やしたいですか

1年に1回以上計



67%

38%



1. 小中高生向けの出張授業

先生

今日の授業はいかがでしたか。どのようなところが印象に残ったか具体的にお書きください（自由回答サマリー）

1. 現場経験者からの生の声の価値

- 現場で働く介護福祉士から直接話を聞くことで、インターネットや本だけでは得られない思いや願いについて知る貴重な機会となりました。実体験に基づくエピソードが心に響き、「介護＝幸せなこと」という新たな視点や「介護は恩返し」という言葉が印象に残ったようです。

2. 介護の本質と価値観の理解

- 「自分が手足になればいい」「一生に会える時間」など、介護の本質を表す言葉が心に残ったという意見が多くありました。「介護＝恩返し」という考え方や「相手に合わせる」ことを楽しみながらできる姿勢など、介護の価値観について深く理解する機会となりました。

3. 身近な福祉としての認識

- 「みんなにもできる介護がある」というメッセージにより、福祉を身近なものとして捉えられるようになりました。「消しゴムを拾えばそれはもう介護の第一歩」など、日常生活と介護のつながりが示され、自分たちにもできることがあると実感できた様子がうかがえます。

4. 学校生活への応用

- 「できる人がお手伝いする」「一緒にする」「言葉は人を傷つけることも、心を温めることもある」などの教えは、学校生活にも活かせる大切な視点だと感じられています。相手を思いやる気持ちや支え合う心の大切さが、日常の人間関係にも応用できる学びとなりました。

5. 今後の学習への発展

- 授業をきっかけに、「デイサービスとは？」「楽しさ」「やりがい」「自分たちにできること」など、各自がテーマを設定して調べ学習を進める予定です。介護を通じて「相手の気持ちを考える」ことや「人との関わり」についての学びが、学校だけでなく家庭生活にも変化をもたらすことが期待されています。



1. 小中高生向けの出張授業

先生

なぜ今回の出張授業に応募してみようと思われましたか（自由回答サマリー）

1. 福祉学習のきっかけとして

- 総合的な学習の時間で福祉の勉強をスタートする上で、**児童生徒が個々のテーマを見つけるきっかけにしたい**という動機が多く見られました。介護や福祉について基本的な知識を得る機会として、専門家の話を直接聞くことの価値が評価されています。

2. キャリア教育の一環として

- トライやるウィークに向けた職業理解や、仕事に対するイメージ形成、意識付けのために応募したという回答が複数ありました。**介護の仕事の実態やポリシー、やりがいなど、教員だけでは伝えきれない側面を専門家から学ぶ機会**として期待されていました。

3. 人との関わりを学ぶ機会として

- **「人のかかわり」を学ぶキャリア教育の一環として**、お年寄りや身体の不自由な方との関わり方を考える機会にしたいという動機がありました。「共に生きる」感覚を児童生徒に体感させたいという教育的意図が示されています。

4. 思いやりと支え合いの心の育成

- **「思いやり」「ささえあい」という価値観を児童生徒に伝えたい**という教育的意図が多く見られました。介護する側・される側両方の気持ちを考え、「人のために」なる行いを広めるきっかけにしたいという回答が寄せられています。

5. 専門的知識と実体験の共有

- 教員が詳しくない分野であるため、**専門家の知識や実体験を直接共有してもらいたいという動機**がありました。実習では聞けない「介護の仕事」や「やりがい」について、「大変なだけでない部分」を児童生徒に知ってもらいたいという期待が示されています。



1. 小中高生向けの出張授業

先生

これまでの介護のイメージと授業後のイメージを教えてください（自由回答サマリー）

1. 介護に対するイメージの変化

- 「難しいものではなく誰でもできる」という認識への変化が見られました。「つらい」「重労働」というネガティブなイメージから、「**やりがいのある**」「**クリエイティブな**」仕事へとポジティブに転換。講師の明るい雰囲気が大きく影響しています。

2. 相互支援と人間関係の重要性

- 「一緒にする」という考え方が印象に残り、「できないことを助ける」から「共に生きていく」というイメージへ変化。介護者と利用者が互いに支え合う関係性や、「寄り添う」姿勢の重要性が理解されています。

3. 介護の本質的な価値観

- 「**思いやり**」「**感謝**」「**恩返し**」という本質的価値の理解が深まりました。単なるサポートを超えた「豊かな生活のための気遣い」や、一人の人間としての尊重、認知症の方の気持ちを受け入れる大切さへの気づきが見られます。

4. 社会的視点と将来の展望

- 「みんなで助け合える社会」という視点が介護だけでなく全ての人に重要だと認識されています。超高齢化社会のあり方や若者への啓発の必要性など、介護を社会全体の課題として捉える視点が広がっています。

5. 現実と理想のバランス

- 介護の「**大変さ**」と「**楽しさ**」の両面を認識する重要性が指摘されています。「**キツイを楽しめる**」という捉え方や「**やりがいを探せるか**」という主体的姿勢など、現実を踏まえた上での前向きな取り組み方への気づきが表示されています。



2. 小学生向けデジタル教材の開発

キャリア教育指導に応える教材開発

2020年4月にスタートした新学習指導要領で重視されている「生きる力」を育むことでは、子どもたちに早期から将来の仕事に興味・関心を高め、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育むことが求められています。朝日学生新聞社が運営する「おしごととはくぶつかん」では、キャリア教育支援のプロジェクトとして、教員への教材提供をはじめ子供たちが将来の仕事を描くビジョンのお手伝いをしており、この「おしごととはくぶつかん」を活用し、「おとしよりのこと」や「介護のおしごと」に関するデジタル教材を作成し、学校などの教育現場で活用されることを目指しました。

1 教材制作

- 小学生向けの「介護のおしごと」教材を制作。
動画、オリジナルクイズ、豆知識。
- 生徒への教材だけでなく、教員向けの指導案も合わせて作成し、指導方法を導く。

2 特設ページに格納

- 「おしごととはくぶつかん」内に特設ページ作成。
- 学生新聞社ルートで学校にメルマガで案内。
- HPからも教材はダウンロード可能。



おしごととはくぶつかんWEBSITEに特設ページを作成



デジタル教材はワークシート形式でダウンロード可能

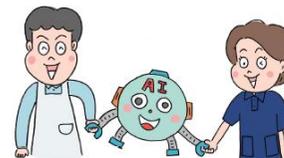


2. 小学生向けデジタル教材の開発

「介護」では単元として扱うのが難しいテーマという教育現場への事前取材のもと、「高齢社会」「社会福祉」「SDGs」といった大きな題材から、介護に焦点をあてていく構成にしました。現場からの声としては、動画は生徒の注目も引きやすく印象に残りやすいので好評で、全体を通して内容がコンパクトにまとまっているので授業がしやすい、という意見がありました。



Q. 介護の仕事はAIに取って代わられないってホント？



Q. 介護の現場で活躍するロボットってどんなもの？



Q. ニュースで聞く「2025年問題」ってどういうもの？



Q. 介護のお仕事にはどんなものがある、どうすれば就けるの？



「かいごのおしごと」

- 動画
- 豆知識
- クイズ
- ワークシート+教員向けの指導案



3. 親子作文コンクールの開催

親子で介護について考え「自分ごと化」

小学生に「介護」に関心をもってもらうことを目的として、「作文コンクール」を開催しました。小学生にはあまり身近でない「介護」について、保護者と一緒に考えコンクール形式の企画にすることで「自分ごと化」として捉え、主体的な関心を促進します。

全国の小学生と保護者に募集
「介護」について考えるきっかけを提供



作文コンクールの開催

都内のサマースクールで
介護のしごと体験会を開催

子どものうちから「介護」について触れる機会を増やし、興味・関心を引き出します。
保護者にとっても子どもと一緒に考えることで、再認識や新たな気づきを与えます。



3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

コンクールに開催にあたり、介護に接する機会のない子ども・保護者に向けて、サマースクールを活用した介護のおしごと体験会を開催いたしました。体験会を通して「ケアのこころ、ケアのしごと」を学び、介護への興味・関心を喚起することで、親子作文コンクールへ応募するきっかけを作りました。

「朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」

■主催

朝日学生新聞社

■共催

東京理科大学 東京工業大学

■開催日程

2024年7月13日（土） 11:00~17:00

■告知

朝日小学生新聞 5段カラー、15段カラー

※イベント全体告知

■入場料

無料

■介護おしごと体験会を実施

「車いす」「介護の話」「クイズ」などの体験会を通して、「ケアのこころ」を育むとともに、親子で介護・福祉の意義を学ぶ機会を提供しました。

サマースクールは、「親子に夏休みの楽しい学びの場を提供する」という目的のもと、2007年に初めて開催されました。これまでに次代を担う子どもたちとその保護者、延べ9.5万人以上が参加し、2024年で17年目を迎えました。





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

介護に接する機会のない子ども・保護者に向けて、サマースクールを活用した介護のおしごと体験会を開催しました。体験会を通して「ケアのこころ、ケアのしごと」を学び、介護への興味・関心を喚起することで、作文コンクールへ応募するきっかけを作りました。

「朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」

■主催

朝日学生新聞社

■共催

東京理科大学 東京工業大学

■開催日程

2024年7月13日（土） 11:00~17:00



■介護おしごと体験会を実施

「車いす体験」「認知症クイズ」「ロボット体験」「アシストスーツ体験」などを通じて、介護のしごとに触れる機会を創出し、**606名**が参加しました。アンケートでは、子供・保護者を合わせて300名以上の回答が得られました。





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」



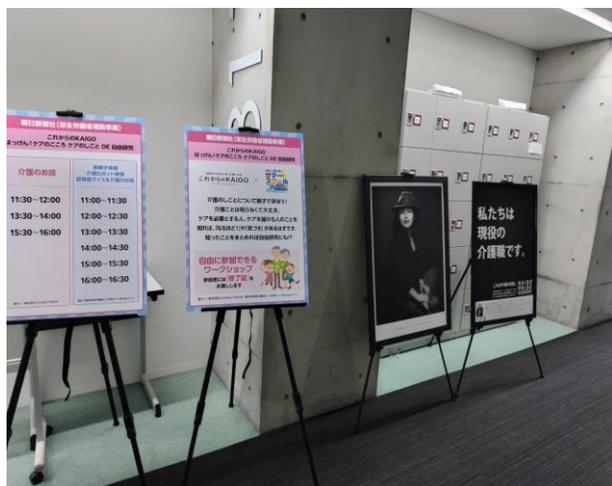


3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」一般社団法人KAiGO PRiDEさんとの連携



サマースクールでは、介護職発信事業の一般社団法人KAiGOPRiDE様と連携し、介護職のお話や写真展示、アシストスーツ体験などの機会をご提供いただき、参加者からも大変好評でした。



TikTok・kaigo_prideより



3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

保護者

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【当日参加者】

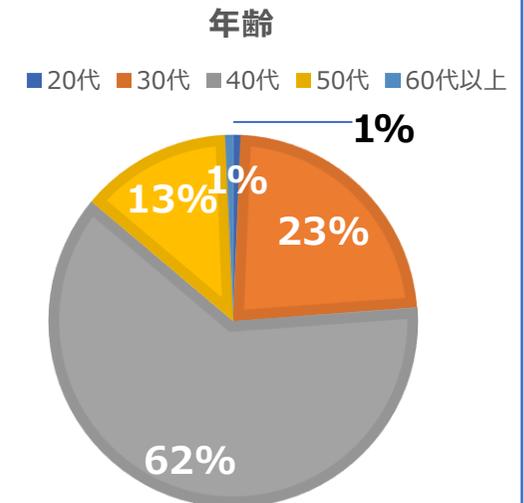
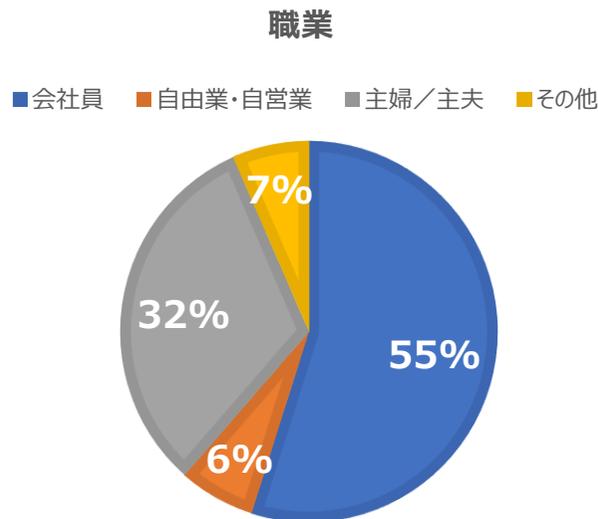
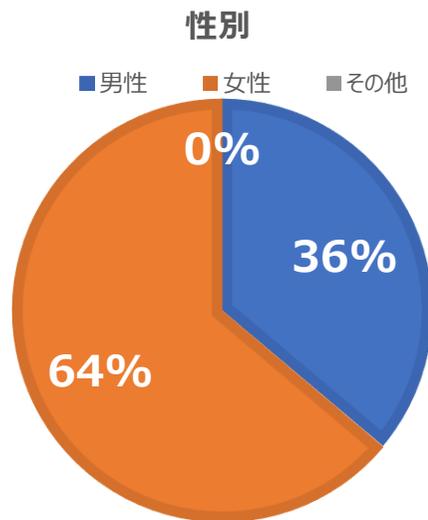
606名

【アンケート回収】

■保護者アンケート：155名

■こども向けアンケート：191名

【保護者 属性】





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

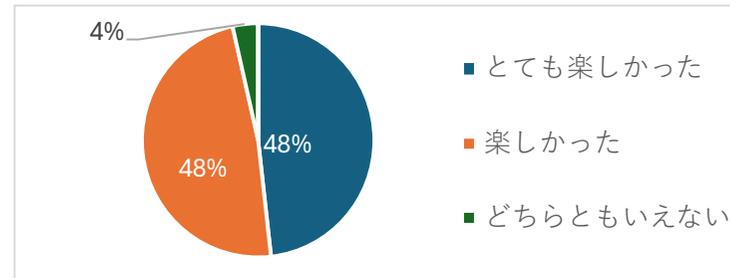
保護者

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【保護者】

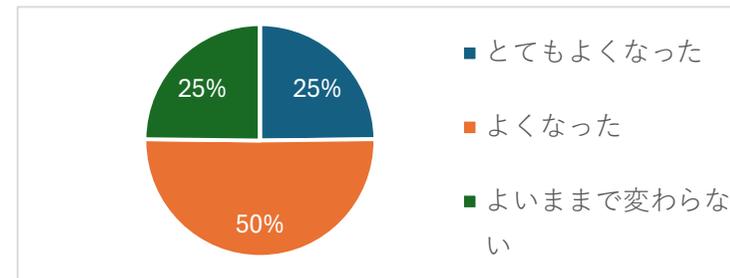
① 今日のおしごと体験やお話しはいかがでしたか

1 とても楽しかった	68
2 楽しかった	68
3 どちらともいえない	5
4 あまり楽しくなかった	0
5 楽しくなかった	0



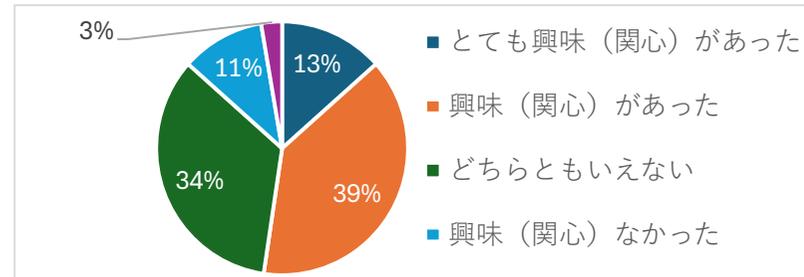
② 今日の体験やお話を通じて「介護」のしごとのイメージは変わりましたか

1 とてもよくなった	34
2 よくなった	69
3 よいままで変わらない	34
4 わるいままで変わらない	0
5 わるくなった	0



③ このブースに参加する前に介護のおしごとについて興味（関心）はありましたか

1 とても興味（関心）があった	20
2 興味（関心）があった	58
3 どちらともいえない	51
4 興味（関心）なかった	16
5 まったく興味（関心）がなかった	4





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

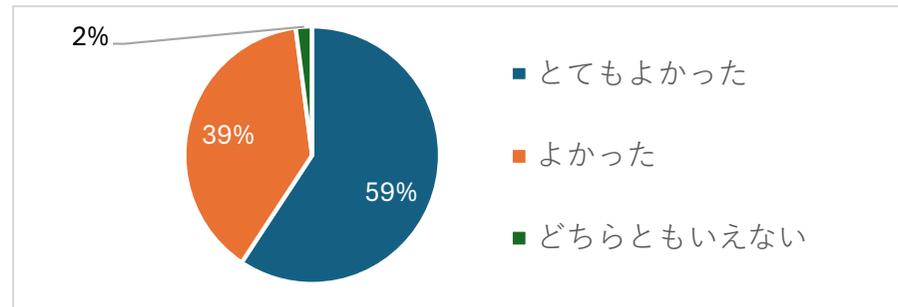
保護者

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【保護者】

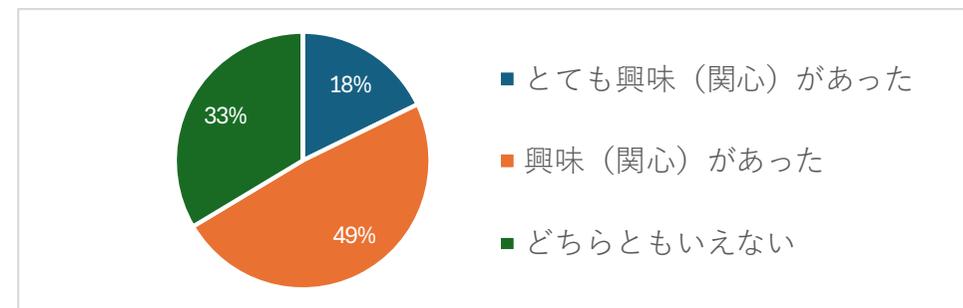
④ お子さんやお孫さんに今日の体験やお話に参加してもらってよかったと思いますか

1 とてもよかった	86
2 よかった	56
3 どちらともいえない	3
4 あまりよくなかった	0
5 よくなかった	0



⑤ 今日の参加を通じて、お子さんやお孫さんの将来の選択肢として興味（関心）をもつようになりましたか

1 とても興味（関心）があった	26
2 興味（関心）があった	71
3 どちらともいえない	49
4 興味（関心）なかった	0
5 まったく興味（関心）がなかった	0





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

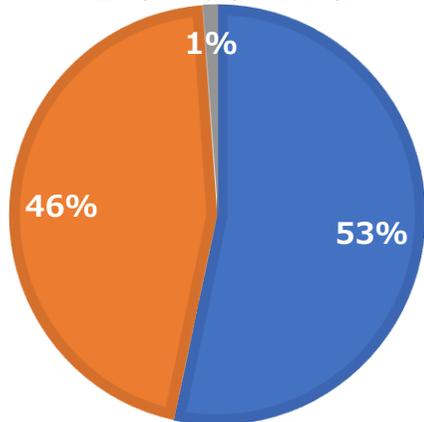
こども

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【こども 属性】

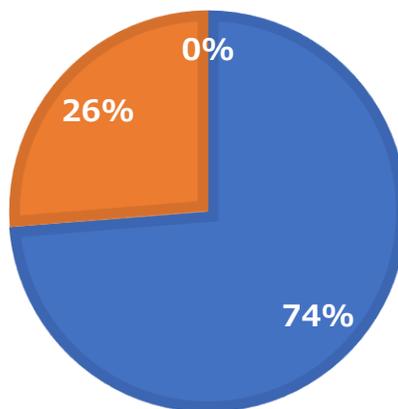
性別

■ 男性 ■ 女性 ■ その他



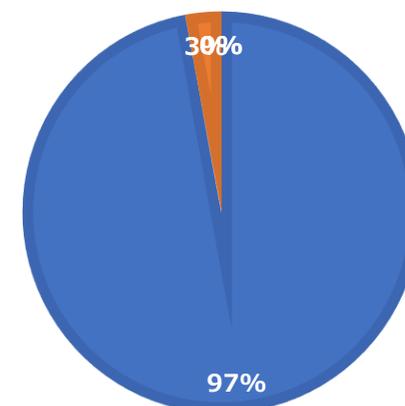
年齢

■ 10代未満 ■ 10代 ■ 20代



職業

■ 小学生 ■ 中学生 ■ 高校生 ■ 大学生





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

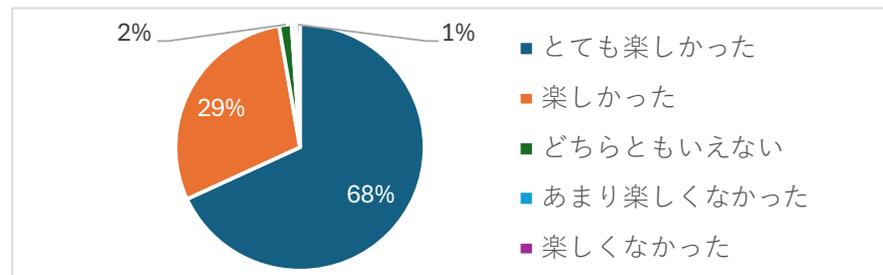
こども

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【お子様】

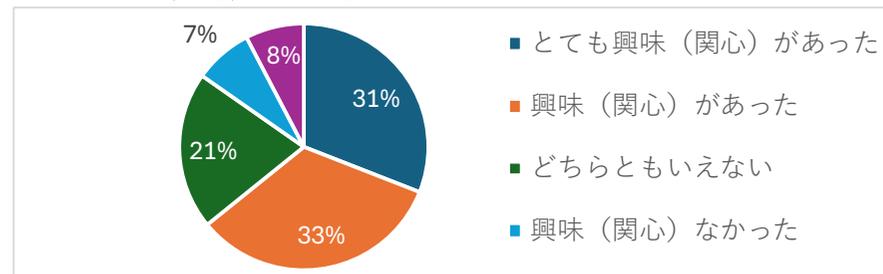
① 今日のおしごと体験やお話しはいかがでしたか

1 とても楽しかった	126
2 楽しかった	54
3 どちらともいえない	3
4 あまり楽しくなかった	1
5 楽しくなかった	1



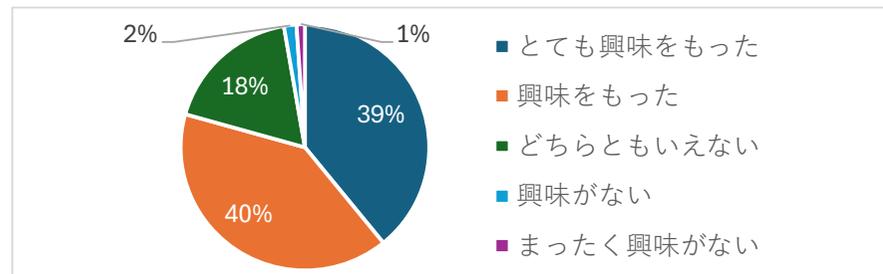
② このブースで参加する前に「介護」のおしごとについて興味（関心）はありましたか

1 とても興味（関心）があった	57
2 興味（関心）があった	61
3 どちらともいえない	38
4 興味（関心）なかった	14
5 まったく興味（関心）がなかった	14



③ 今日の体験を通じて「介護」のおしごとに興味をもつようになりましたか

1 とても興味をもった	72
2 興味をもった	74
3 どちらともいえない	33
4 興味がない	3
5 まったく興味がない	2





3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

保護者

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果 自由回答

【保護者】

NO	今日の「はっけん！ケアのこころ、ケアのしごとDE自由研究」の感想をおしえてください
1	車いすの操作方法が意外と簡単なんだと感じた
2	日常体験できない事を体験できてよかった、介護されている方がとてもやさしかった
3	想像の世界でしか伝えられなかったことを生の声で聞いてよかったです。祖父母が側にいるのでありがたかったです。
4	車イスが思ったよりも操作が簡単そうでした。負担軽減のスーツ、大人ですが私が体験したかった。周囲に飾られた介護職の方たちの写真にプライドを感じ、イメージが大きく変わりました。娘（9歳）は認知症と介護について初めて聞いたそうでよい体験になったようです。ありがとうございました。
5	介護の話は子供には身近ではないが、良く理解できる内容だったと思います
6	介護職のお話で、耳の遠い方へは、言葉だけではなくジェスチャーをつかうという事を聞きました。96歳の祖母がいるのですが、祖母も耳が遠いので非常に参考になりました
7	介護ロボット体験のゲームは楽しかったが、どう介護と結びついているのかわからなかった。パネルからは介護の仕事のやりがい伝わってきた。パワースーツおもしろかった
8	車イスに乗る体験を始めてしましたが身近に利用者がいなく、町中で困っている時にどう声がけをしたらよいか、何が正解なのかわかりませんでした。経験を通じて声がけが出来たらと思います
9	体験自体は楽しんでいましたが（介護ロボット体験）、介護のお仕事に具体的にどうつながるかが子供に伝わっているかは？でした。ですが全体的に楽しかったです
10	いろんな形で介護に携われると思った
11	子供たちは初めて車いすに乗って直進や方向転換の難しさを体験することができてよい学びの機会になったと思います。介護ロボットの体験もとても楽しかったです
12	技術が進歩していることが分かりました
13	今後の日本では必要不可欠な分野なのでもっと知る場が増えればいいと思いました。
14	ポスターがカッコいいです。貴重な体験をありがとうございました
15	車イスで回るのがスムーズだった
16	ケアロボット、アシストスーツなどニュース等で見かけた事があるものを実際、見たり体験できて良かったです。
17	アシストスーツをはじめて見させて頂きました。ありがとうございました



3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

保護者

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果 自由回答

【保護者】

NO	今日の「はっけん！ケアのこころ、ケアのしごとDE自由研究」の感想をおしえてください
18	写真展も面白かった
19	介護の大変な側面だけではなく、科学的にどのような工夫がされていることがわかって良かった。ゲームが楽しめたり、力持ちになれたりしてよかった。並ぶ人数が違い、列がぐちゃぐちゃになっているので整理されればなお良かった
20	娘から見た「老い」の世界はまだ未知です。大叔母が認知症ですが、今年5月に会って楽しく過ごす事ができましたが、「ママやパパとは違うな」と感じたようです。実家は遠方なので高齢者とのかわりが少ない中貴重な体験でした。ありがとうございます
21	いつもおじいちゃんが老人ホームで介護職の皆様大変お世話になっています。本人が人の役に立ちたいと考えるようであれば大学で学びこの道に進むのもよいと思っています
22	介護を楽しく表現するブースで、子どもが笑顔で体験できたことがとても良かったです
23	技術が進んでいると思った
24	パワースーツの体験は大人もしてみたかった。子供はあまり十時間でできなかったとの事
25	介護の現場でカラダを動かす為のゲームがあるのは初めて知り楽しく引導になるのはとても良いと思いました。
26	介護はロボットや機械の力をかりればどんどん楽になってくる、仕事がしやすくなればいいなと思います。
27	ロボットかわいかった。癒されました
28	認知症について、子どもにもわかりやすくクイズ形式になっていて良かったです。車イスにのれる経験は大変さを知れて他社へのやさしさをしれたと思う。
29	子供なりに話を真剣にきいていました。世の中にはこういうものもあるのだと認識できたと思います。
30	介護職をしています。娘（小学生）に日常の仕事の様子をよく話していますが、ロボットや車イス体験、仕事について具体的な質問ができて学びになったようです。
31	小～高校などでもこういった授業があると良いなと思いました
32	AIに変換しにくい仕事でありながら、人手が不足してしまうことと、それに反して需要が伸びる業界としてどのような対策があるのか？
33	楽しんで介護の仕事を知ることができて良かったです
34	正直、最初はこここのブースではわが子は興味をしめさないだろうと思いました。親としては関心を持って欲しいので、どうやったらこここのブースに連れてこれるかと思っておりました。でも体験コーナーを見た子供が自らやってみたくて言い出しました。ゲーム感覚で参加できるのは子供の関心を引くには良いと思いました。
35	お年寄りが楽しく運動できる工夫が体験できました
36	肉体労働がきついというイメージが少し変わった
37	ソウさんの話を聞いて「すごい！」と思いました。ありがとうございました
38	車イスを押したり乗ってみたりすることができて、視界の低さなどいろいろなことを知る事ができた



3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

こども

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【こども】

NO	今日の「はっけん！ケアのこころ、ケアのしごとDE自由研究」の感想をおしえてください
1	わたしも大きくなったら介護のしごとをやってみたくなりました。今回の介護のお仕事を紹介してくれてありがとうございました
2	学校でも同じことを勉強しました
3	かいごの大切さを学びました
4	車イスを操縦するのはとてもむずかしいと思っていたけれど、おもっていたよりかんたんだった
5	人の手伝いをするっていいなと思った
6	「介護」というものをしらなかったから、それをして大切な仕事だとわかった
7	ひいばあちゃんにはジェスチャーを使いながら話す
8	こどもにもわかりやすくせつめいしてくれて少しかいできたとおもう
9	お姉さんがくわしく話しをしてくださったのでわかり易かったです
10	思っていたよりも車イスの操作はかんたんでしたが、手に力の入らない人のために助けなくてはならないことが学べた
11	びょうきの人はたいへんで助けてあげたいと思いました
12	「かいご」のおしごとがとてもやってみたくおもう
13	介護の仕事がとてもむずかしいことや、音がきこえないからジェスチャーをおしえているとってためになった
14	車イスに乗れて楽しかった
15	車イスをおすのが以外とかるかったです
16	くるまイスを体験したとがなかったので今日、くるまイスを体験してそうさがむずかしいということを実感した
17	おともだちのおじちゃんのたいへんさがわかった
18	アシストスーツがおもしろかった
19	とてもたのしくて、かいごのことに興味をもちました
20	かいごのしごとのお話で身振り手振りをくわえるといいのがわかってよかった。じっせんしたい
21	暑くても家の中で運動できるのはすごいと思いました
22	かいごロボットはお年寄りがこまっているときだこすればいいと知れた
23	にんちしょうクイズがぜんぶあってうれしかった
24	楽しかった。車イスは自分で動かす事はやったことがなくてよかった。段差とかあるといいかもしれない



3. 作文コンクールに付随したサマースクールでの介護のおしごと体験会の開催

こども

「介護のおしごと体験会 朝小・朝中高サマースクールat東京理科大学2024」アンケート結果

【こども】

NO	今日の「はっけん！ケアのこころ、ケアのしごとDE自由研究」の感想をおしえてください
25	にんちしょうはついさってきのことがあまりおぼえていられないということを知れて良かったです
26	ぼろんたちと遊べてうれしかった
27	車いすのたいけんがとてもおもしろかったです
28	エアロバイクゲーム、足の運動になった。足が悪い母にはイスを用意してくれてももあげ運動ができていた。楽しくゲームできて運動することができるのに興味をもった
29	とてもたのしかったです。またやりたいです。マロンちゃんがかわいかったです
30	道があるいていておとしよりにふべんなところをさがしたいと思います
31	アシストスーツのやつがめっちゃ重かった
32	車いすがとてもむずかしかった。かいごの話聞けた
33	かいごのべんきょうができてとてもうれしかったです
34	介護についてすごくきょうみをもてた
35	車いすのたいけんして車いすはおぼえることややることがたくさんあることを知りました楽しかったです
36	かいごの仕事ではひくい音の方がきこえやすいことが分かりびっくりしました
37	色々なことをできて楽しかったです
38	楽しかった
39	車いす体験が楽しかったです



3. 親子作文コンクールの開催

「介護とわたし 親子作文コンクール」

- **募集テーマ**
「介護」に関わること、自分の思うことを作文で表現する。
- **対象**
小学生（保護者）
- **告知**
朝日小学生新聞 5段カラー 複数回（予定）
小学校9,000校へメール、サマースクールでの告知等
- **募集期間**
2024年年7月上旬～2025年1月14日（火）
- **作文作品規定**
手書き文章のみ（デジタル不可）
- **作文用紙**
400字詰め原稿用紙、朝日新聞デジタルまたはポータルサイト特設ページから、作文用紙をダウンロード・出力も可能。
- **副賞**
図書カード
- **発表**
ポータルサイト・朝日小学生新聞

例：「大好きなおじいちゃん、おばあちゃんのためにできること」
「お父さん、お母さんに聞いたおじいちゃん、おばあちゃんの介護について」
「お年寄りへの思いやり ～わたしができること～」
「介護施設を見学して考えたこと」等。

「ほっけん!」ケアのこころ、支えるこころ
「介護とわたし」作文コンクール
「ほっけん!」ケアのこころ、支えるこころ「介護とわたし」作文コンクールの作品を小学生から募集します。介護や世帯の助けを必要とする人（お年寄りや体の不自由な人など）について、「助けて」「自分ができること」「こうしたらいいんじゃないか」という思いを作文に書いてください。

■ 募集テーマ
天竺なおいちいちゃんやおばあちゃんのためにできること、介護や福祉について学んだこと、体験したことなどのテーマであれば題材は自由。お父さん・お母さん、家族に話をしたり、本やニュースで知ったりしたこと、自分が体験したことを小学生の自由な感性で作文してください。

■ 対象 全国の小学生
■ 応募期間 2025年1月14日(火)まで ※当日締め切り

■ 応募要項
● 400字詰め原稿用紙1～3枚、手書きのみ ※1枚でも応募可
● 作品の題名のページの裏面に必要事項 ①応募者の郵便番号 ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤学校名
● (所在地、電話番号) / ⑥学年を書いて、朝日小学生新聞社内「介護とわたし」作文コンクール事務局 〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館13F へお送りください。
※応募作品は返却しません。作品は必ず30分程度、10分以内の時間内に提出し、失敬の旨に御注意ください。また、印刷用紙は別途お送りいたします。

■ 賞金賞状
2025年3月中旬 朝日新聞デジタル (https://www.asahi.com/)、朝日小学生新聞紙上を予定
■ 賞金及び副賞 (予定)
● 最優秀賞1点 (賞状と図書カード2万円分) ● 佳作5点 (賞状と図書カード3000円分)
● 優秀賞3点 (賞状と図書カード1万円分) ● 読者賞5団体 (賞状と図書カード2万円分)

■ お問い合わせ
朝日小学生新聞社内「介護とわたし」作文コンクール事務局 TEL.03-3545-5226 (9時10分～17:00)

主催者
公益財団法人朝日新聞社(朝日新聞社)の事業活動の一環として、公益財団法人朝日新聞社(朝日新聞社)が主催する。本事業は朝日新聞社(朝日新聞社)の事業活動の一環として、公益財団法人朝日新聞社(朝日新聞社)が主催する。本事業は朝日新聞社(朝日新聞社)の事業活動の一環として、公益財団法人朝日新聞社(朝日新聞社)が主催する。

実施主体：朝日新聞社(厚生労働省補助事業) 共催：朝日小学生新聞社
朝日新聞社(朝日新聞社)の事業活動の一環として、公益財団法人朝日新聞社(朝日新聞社)が主催する。



全国から
205件の応募



具体的な手法

3. 小学生を対象とした作文コンクールの開催



コンクールでは、全国から力作が205点集まりました。出張授業で伺った学校からの応募もありました。優秀作品を3月15日（土）の朝日小学生新聞にて全国に発信いたしました。

- 応募件数 205件
- 審査員
 - ・厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室 吉田 昌司 室長
 - ・フリーアナウンサー、ジャーナリスト 町 亞聖 氏
 - ・朝日学生新聞社 編集部長 吉田 由紀 氏
- 受賞作品
 - ・最優秀賞 1点
 - ・優秀賞 3点
 - ・佳作 5点
 - ・団体賞 5団体



3. 小学生を対象とした作文コンクールの開催

最優秀賞

「忘れられない時間」 山本結隆 埼玉県 さいたま市立高砂小学校 六年

優秀賞

「ひいおばあちゃんの大っきな愛」 鈴木愛渚 東京都 東洋英和女学院小学部 四年

「ただそばにいること」 伴野 雅 兵庫県 神戸市立西灘小学校 四年

「おじいちゃんの耳」 最上さくら 秋田県 横手市立雄物川小学校 二年

佳作

五十嵐 蘭夏 福島県 会津若松市立一箕小学校 二年

江橋 華 千葉県 印西市立内野小学校 三年

泉 怜毅 東京都 練馬区立高松小学校 五年

瀬織 喜与輔 神奈川県 横浜市立神橋小学校 五年

若狭 早 愛媛県 愛媛大学教育学部附属小学校 一年

団体賞

千葉県 社会福祉法人 ユーカリ優都会 グループホーム・学童保育所 ユーカリ優都びあ

東京都 東京キッズモデル

神奈川県 マナビバキッズ学童保育

富山県 立山町立立山中央小学校

大分県 大分市立東穂田小学校

【結果】

最優秀賞 1名

優秀賞 3名

佳作 5名

団体賞 5団体

ポータルサイトにも結果を掲出しました



4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」 YouTube×SNS動画拡散

昨年度実施した部活応援メディア「ブカピ」を活用した全国高校生介護技術コンテストの密着動画。強豪校2校の地区大会、全国大会出場の様子を密着。若年層に向けて介護について触れるきっかけをつくり、その魅力や人の役に立てる喜びを発信。**介護に一生懸命に取り組む多くの同世代の共感を生み、企画委員や職能団体の方々から、高評価を頂戴しました。**

■ 令和5年度本事業における第三者（職能団体等）のコメントより（抜粋）

- 中学生は、福祉・介護がお年寄りの方と働く職業であることは理解しているが、介護福祉士という介護の「プロ」の仕事内容を具体的に想像できていない。介護のしごとのイメージを抱いてもらうには、技術コンテストなどの「こういうプロになりたい」「こうやってお年寄りの方が笑顔になっていくのだ」と感じてもらえるようなコンテンツを発信していくべきだ。
- 全国福祉高等学校長会としての活動の中で高校生介護技術コンテストがあり、各地区で予選を行い、更には全国大会実施を通して介護の魅力を発信していることを常々発言していた。今回取り上げていただいたのも、これまでお伝えしてきた成果と感じている。



全国高校生介護技術コンテストに密着+過去優勝校卒業生も交えた動画を制作し、
小中高生にとって目指すべき「憧れの先輩」を描きます。

同時に、介護のしごとへのイメージアップをはかり、保護者の応援意向アップにつなげます。



事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」 YouTube×SNS動画拡散

ブカピとは・・・

学校の部活はもちろん、サークル、趣味、サブカルなどを「部活」とくり、一生懸命に取り組む人たちを応援するプロジェクトです。高校生を中心とした層にリーチできることが特徴で、最近は小中学生や保護者からの認知度もあがっています。

ブカピが持つメディア YouTubeチャンネルを軸に、地上波・ラジオ・デジタルなどクロスメディアにコンテンツを展開



地上波番組



YouTube



チャンネル登録者数 **10.2万人**
総再生数**1億回**

インフルエンサー

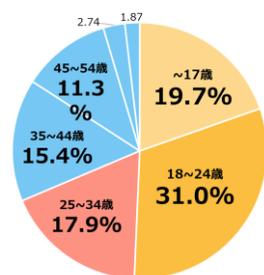


総フォロワー700万人超えの
インフルエンサー「なえなの」が
番組MC

SNS



トータル**9万人超**



- ブカピ視聴者は大きく**現役部活生、保護者・学校関係者**
- 24歳以下の視聴者が**50%**
- ABCテレビは**主要時間帯視聴率No.1!**

「M-1グランプリ」や「芸能人格付けチェック」など大人気の番組を制作しており、視聴者の心を掴むクオリティの動画制作が期待できます。

※ABCテレビの制作番組



ブカピYouTube



事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」 YouTube×SNS動画拡散

ブカピでは「介護のしごと」に対する若年層の関心を増加させるために「高校生介護技術コンテスト」に参加する四国地区の前回準優勝校（高松南高校）を大会前から密着。九州地区の前回優勝校（熊本・城北高校）と同3位（佐賀・嬉野高校）とあわせた計3校を大会中に密着取材を行いました。

大会前に香川・高松南高校を訪問取材、全国大会@栃木・宇都宮を取材し、動画を制作しました。その様子をZ世代に大人気のインフルエンサー・なえなのさんと、神埼清明高校時代に同コンテストで優勝し、母校で実習助手をされている大隈沙希さんにスタジオ出演でVTRをご覧いただき、「介護の魅力」に迫る動画を制作。ブカピSNSでも動画の告知投稿を行いました。

タイアップ動画 | 本



- 出場校の事前取材と全国大会の密着取材をVTRに
- なえなのと卒業生と一緒にVTRを見る
- 卒業生に優勝後のデンマーク研修を経て、現在の仕事でどんな学び・成長につながったか、その体験を語っていただく

- 卒業生が介護技術コンテストで、自分がどのように成長できたか、今後どんな介護のしごとを目指していきたいか、意気込みを語っていただき、後輩たちへのメッセージも寄せてもらった

SNS告知



Z世代をはじめとした若年層が
実際に「介護」に
関心を持つようになる



事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

「部活ONE ブカピ」にて、「介護技術コンテストに挑む高校生に密着第2弾！」を公開。インフルエンサーなえなのさんと過去の優勝校で佐賀神明高校卒業生の大隈沙希さんにご出演いただきました。

介護技術コンテストに密着！第2弾



事業内容

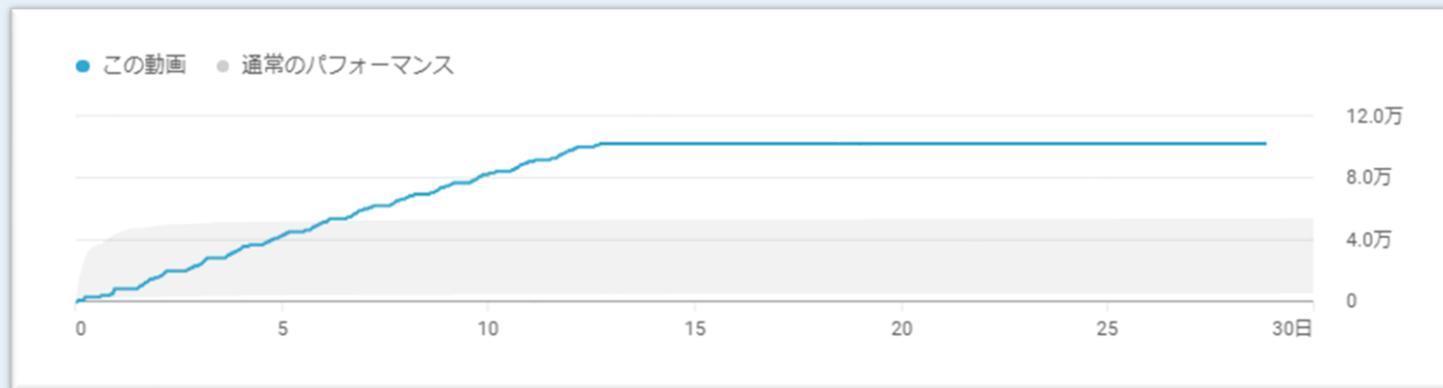
4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

● 総計データ（集計期間：2024年12月20日～25年1月20日）

特に、女性の視聴者が5割を超（チャンネル登録者は男性が8割）、24歳以下の視聴者割合が9割超（チャンネル登録者は24歳以下が4割前後）と通常のタイアップ動画と比べ多い結果になり、若年層に訴求できたと考えます。



視聴回数の推移



視聴回数

102,044

ユニーク視聴者数

81,975

視聴者の性別

女性:53.6% 男性:46.4%

13-24歳の
視聴割合

93.9%

高評価数

763

※事業終了の3/31までには103,379回再生を達成

事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

オーガニック告知投稿 (X, Instagram)



Instagram

2アカウント(バスケット部、スポーツ全般)
フィード投稿×2、ストーリーズ投稿×2

X

1アカウント、通常投稿×1

合計インプレッション数 170,439

インプレッション数 2,694

合計リーチ数 68,415

エンゲージメント数 34

合計いいね数 665

Meta

広告拡散

インプレッション数 3,191,977

合計: 3,365,110 imp

ブカピの各SNSアカウントで、今回のタイアップ動画のオーガニック告知投稿を行いました。Instagramの2アカウントでは、フィード投稿+ストーリーズ投稿を各1回ずつ行い、合計17万インプレッションを獲得。Xの投稿では、2,694インプレッションを獲得しました。特にInstagramについては、ブカピSNSを利用したPR投稿の中では、高い数値を記録しました。広告拡散ではMetaを活用し、3,191,977インプレッションを獲得しました。

事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

➤ ブカピの各SNSアカウントでのオーガニック投稿スクリーンショット



(バスケ専門アカウント: 10.7万フォロワー、スポーツ全般アカウント: 1.6万フォロワー)



X(1.1万フォロワー)

フィード投稿×2



ストーリーズ投稿×2



通常投稿×1



事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

ブカピ動画に関する接触者、非接触者への調査

- 調査背景 : 高齢化社会と介護人材不足と、若年層が介護・福祉に関する情報に触れる機会が少ない。
＜介護技術コンテストと調査の目的＞
本調査では、この動画が高校生、大学生、および中高生の子どもを持つ親にどのような影響を与えているかを測定。
具体的には、動画視聴の有無による、ターゲット層の介護に対する意識変容、興味関心、介護職への推奨意向、業界イメージの変化を分析する。

- 調査目的 : 動画視聴の効果測定
 - ・高校生、大学生の介護に対する意識・態度変容の評価
 - ・親の子どもへの介護職推奨意向や業界イメージの変化の把握

- 調査課題 :
 - ①動画視聴後の介護に対するイメージの変化
 - ②動画が介護分野への興味・関心に与えた影響
 - ③動画が介護職志望の検討に寄与したか
 - ④動画によって介護について友人や家族と話したくなったか
 - ⑤動画が介護についてのボランティア活動や学習参加意欲に寄与したか
 - ⑥親における動画視聴後の子どもへの介護職推奨意向の変化
 - ⑦親における介護業界のイメージ変化
 - ⑧動画内容の好意度と理解度の測定

事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

調査結果の要約

1

動画視聴後の 介護に対する イメージの変化

- ✓ **子どもにおいて、動画視聴により、介護職に対するポジティブなイメージが向上し、ネガティブなイメージが軽減される傾向がみられた。**
 - 高校生・高専生の動画視聴層は、動画非視聴層と比べて「やりがいがある」が46pt、「多様な働き方がある」が10pt、「社会にとって必要な職種がある」「家庭と仕事を両立できる」が8pt高く、「ポジティブイメージ・計」は4pt高い。
一方、「大変そう」「仕事が多い」の動画視聴層のスコアは、動画非視聴層と比べて20pt以上低い。
 - 専門学校生・短大生・大学生の動画視聴層は、動画非視聴層と比べて「やりがいがある」が10pt高く、「大変そう」「仕事が多い」が50pt以上低い。

2

動画が介護分野への 興味・関心に与えた 影響

- ✓ **子どもにおいて、動画視聴により介護の仕事への興味・関心が高まった。**
 - 高校生・高専生、専門学校生・短大生・大学生いずれにおいても、動画視聴層は介護職への興味に関するあてはまり度が、動画非視聴層と比べて全項目高い。
特に、専門学校生・短大生・大学生の動画視聴層でのリフトアップが顕著である。
 - 「介護のしごとについて興味関心を持った」のスコアは、各非視聴層と比べて、専門学校生・短大生・大学生の動画視聴層では27pt、高校生・高専生の動画視聴層では21pt高い。

3

動画が介護職志望 の検討に寄与したか

- ✓ **子どもの動画視聴層において、介護のしごとに従事してみたいという意欲が高まっており、介護職志望の検討に寄与する可能性が示唆された。**
 - 高校生・高専生、専門学校生・短大生・大学生いずれにおいても、動画視聴層は「介護のしごとに従事してみたいと思った」へのあてはまり度が、動画非視聴層と比べて高い。
 - 特に、専門学校生・短大生・大学生の動画視聴層でのリフトアップが顕著であり、動画非視聴層に比べて31pt高い。
 - 高校生・高専生の動画視聴層においても、動画非視聴層と比べて12pt高い。

事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

調査結果の要約

4

動画によって
介護について
友人や家族と
話したくなったか

- ✓ **子どもの動画視聴層において、介護のしごとについて友人や家族と話したいという意欲が高まった。**
 - 高校生・高専生、専門学校生・短大生・大学生いずれにおいても、動画視聴層は「介護のしごとについて友人や家族と話したいと思った」へのあてはまり度が、動画非視聴層と比べて高い。
 - 各非視聴層と比べて、専門学校生・短大生・大学生の動画視聴層では21pt、高校生・高専生の動画視聴層では15pt高い。

5

動画が
介護についての
ボランティア活動
参加意欲に
寄与したか

- ✓ **子どもの動画視聴層において、「介護のしごとについてボランティア活動に参加してみたいと思った」という意欲が高まる傾向がみられた。**
 - 高校生・高専生、専門学校生・短大生・大学生いずれにおいても、動画視聴層は「介護のしごとについてボランティア活動に参加してみたいと思った」へのあてはまり度が、動画非視聴層と比べて高い。
 - 特に、専門学校生・短大生・大学生の動画視聴層でのリフトアップが顕著であり、動画非視聴層と比べて19pt高い。
 - 高校生・高専生の動画視聴層においても、動画非視聴層と比べて8pt高い。

6

親における
動画視聴後の
子どもへの
介護職推奨意向の
変化

- ✓ **動画視聴した保護者は、動画非視聴の保護者に比べて、子どもに介護職を勧めてみたいという意向が高い。**
 - 保護者の動画視聴層は、「介護のしごとについて、あなたの子どもに勧めてみたいと思った」が27%で、動画非視聴層と比べて12pt高い。

事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

7

親における介護業界のイメージ変化

- ✓ 動画視聴した保護者は、動画非視聴の保護者に比べて、介護のしごとに対して「多様な働き方がある」「やりがいがある」といったポジティブなイメージを持つ傾向が強く、介護業界に対するイメージが向上していると考えられる。
 - 保護者の動画視聴層は、動画非視聴層に比べて「多様な働き方がある」が17pt、「やりがいがある」が13pt、「家庭と仕事を両立できる」が10pt高い。
 - 一方、「大変そう」「社会にとって必要な職業である」「仕事量が多い」といったネガティブなイメージは、動画視聴層のスコアの方が動画非視聴層のスコアに比べて低い。特に「大変そう」のスコア差が顕著である。

8

動画内容の好意度と理解度の測定

- ✓ 動画内容に対して、子ども・保護者ともに過半数が好意を示しており、特に高校生・高専生からの評価が高い。子どもにおいて、理解度は、「学生でも介護や福祉に関与できる機会がある」「介護のしごとは人とのつながりを作れる仕事である」「介護のしごとは家族にはできないプロの技術がある」が高い一方で、「介護のしごとは自分のためにもなる仕事である」が相対的に低い。
 - 動画内容に対する好意度は55%と、過半数が好意的な反応を示している。特に高校生・高専生は好意度が65%で、専門学校生・短大生・大学生や保護者と比べて高い。
 - 理解度に関しては、「学生でも介護や福祉に関与できる機会がある」「介護のしごとは人とのつながりを作れる仕事である」「介護のしごとは家族にはできないプロの技術がある」が高校生・高専生で9割以上、専門学生・短大学生・大学生で8割以上。子どもにおいて、「介護のしごとは自分のためにもなる仕事である」は他の項目に比べるとやや低い。

本調査結果から、動画コンテンツは若年層の介護に対する意識改革や興味喚起に有効であり、将来的な介護人材の確保に貢献する可能性が示唆されました。

今後は、動画内容の改善※や、より広範な層へのリーチ戦略を検討することで、更なる効果が期待できます。

※特に「介護のしごとは自分のためにもなる仕事である」という点は、子どもにおいて相対的に理解度が低かった一方、子どもの介護従事意向者は、この点の理解度TOP1が全体に比べて特に高かったため、この点の理解が介護従事意向に繋がることも示唆されます。「介護職は自分のためにもなる仕事であること」が、子どもにもわかりやすく伝わるように動画内容を改善することで、より有効なアプローチができるようになる可能性があります。

事業内容

4. 中高生をターゲットにした「全国高校生介護技術コンテスト」動画

「全国高校生介護技術コンテスト」優勝校の北海道石狩翔陽高校のデンマーク研修に密着し、介護・福祉の先進国で学ぶ生徒たちの姿を追いました。彼女たちが何を学んでどんなことを思ったか動画にまとめ納品しました。

優勝校デンマーク研修密着動画を納品





5. 教職員向けイベントの開催

教職員に向けた「介護とキャリア教育」ウェビナー

教職員に対して「介護とキャリア教育」をテーマに、弊社の教育領域・データ領域でのアセットを活用した教員IDプラットフォームを活用したウェビナーを開催しました。介護の実習などでは、さまざまな課題に直面します。周囲との円滑なコミュニケーションにより、冷静かつ論理的に考察して、直面する困難や課題の解決方法を見つけ出す力は、キャリア教育と密接に関わっていると言えます。教職員に「介護とキャリア教育」の理解を深めてもらい、学生の介護分野への参入を後押しするきっかけを作ることを目的に事業を実施しました。



朝日新聞の教育領域・データ領域でのアセットを活用した教員IDプラットフォーム「寺子屋朝日forTeachers（先生コネクトに名称変更）」を活用し、教職員を対象にしたウェビナーを実施いたしました。

開催概要

- 日時 : 2024年11月20日
19:30~20:50
- 会場 : オンラインにて実施
- 応募方法 : ID会員向けメルマガ配信など
- 視聴数 : 当日参加150名目標
後日アーカイブにて**7万~10万回再生想定**
- 採録 : 後日寺子屋朝日HPに採録記事を掲載 (**1万PV**)



セミナー（内容）

- 時間 : 約75分
- テーマ : 「介護とキャリア教育」
- 出演者案 : キャリア教育有識者、介護事業者・実践者、ファシリテーター寺子屋朝日編集長
- 内容 : キャリア教育の大切さと、介護・福祉業界の事例、取り組み好事例など

※ウェビナー後にWEBアンケートの実施、アーカイブ配信の告知を行います



2022年4月~2023年10月で累計47件のウェビナーを実施し、のべ10,500人程度の視聴者が参加



5. 教職員向けイベントの開催



朝日新聞社の教員向けサイト

先生コネクト に2025年2月～名称変更

小中高校で働く教員、学校職員、教育委員会、教育関連の省庁、団体関係者をターゲットとしたWEBサイトです。教員の課題解決に役立つ情報・サービスを提供しています。

会員登録制の教員向けウェブサイト

教員視点で日々の授業や校務に役立つ情報を発信する会員登録制ウェブサイト。校長などの学校管理職や、教務部・ICT担当など幅広い教員が登録。教育委員会の登録も**400名**を超える。

#GIGAスクール #探究 #部活動
#教職員トピック解説 #ICT用語解説



詳細な教員情報をDB化

学校内での教員の役割や決裁権など、マーケティング活動に必要な情報も会員情報として蓄積。顔の見える教員に情報を届ける手段として活用可能。

氏名	住所
メールアドレス	勤務校
教員歴	職階
校務担当	担当教科


会員数
 約**10,700名**


小：中：高
3：2：3

会員向けウェビナーを定期的に開催

有識者、教員など多彩なキーパーソンによるウェビナーを継続的に開催。平均申込者数は約200名。ICT活用、探究を中心に幅広いテーマで開催しており、企業ニーズにあったテーマ設定・人選をご提案可能。



会員登録数： **約10,700名** (24年2月時点)



5. 教職員向けイベントの開催



教職員に向けた「介護とキャリア教育」ウェビナーを開催し、先生方への理解を深める取り組みを行いました。

開催概要

- 日時 : 2024年11月20日（水）19:30～20:50
- 会場 : オンラインにて実施 ZOOM
- 応募方法 : ID会員向けメルマガ配信など
- 視聴数 : 当日参加約50名
後日アーカイブにて配信
- 採録 : 後日寺子屋朝日HPに採録記事を掲載

セミナー（内容）

- 構成 : 第一部 講演 第二部 クロストーク
- テーマ : 「生徒に伝えたい介護のしごと リアルを知りキャリア教育に生かす」
- 出演者 : 千葉商科大学 人間社会学部 教授 和田義人氏
社会福祉HERO'S 3名
榎田啓さん（京都府 みねやま福祉会）、谷口洋一さん（山口県 ひとつの会）、
田中楓さん（京都府 南山城学園）
ファシリテーター寺子屋朝日編集長 片山健志

※ウェビナー後にWEBアンケートの実施、アーカイブ配信の告知

セミナーの申し込みは合計78名。そのうち43名（～最大50名）が参加しました。

全国社会福祉法人経営者協議会「社会福祉HERO'S」



田中楓さん 谷口洋一さん 榎田啓さん



千葉商科大学 人間社会学部
和田義人教授

事業内容



5. 教職員向けイベントの開催

告知について

介護は明日に希望をつなぐ仕事だ キャリア教育ウェビナー 登壇者を紹介



「寺子屋朝日for Teachers」では11月20日(水)午後7時30分から、無料のオンラインで伝えたい介護のしごと リアルを知りキャリア教育に生かすを開催します。



谷口洋一さん(44)は介護の世界で仕事を始めて22年、山口県防府市を拠点にサービスや、特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人「ひとつのおん」で、在宅支援部の室長を務める。

谷口さんの体格も大柄で、当時の体重は80キロくらい、男性が良かった。「あんちゃんみたいになってくれたら、ええじゃないかな」。当時は将来も野球を続けたいと思ってきたが、そう言われたことや力を生かした仕事をしてみたいと思ったという。

生み出す「ごまかせの福祉」という発想は、リハビリに関心が高齢者の関心が、伸びてきた子どもが楽な心算を込めて歩行器を使おうとした結果、重介護度が下がったことだったという。「地域の中でみんなが笑えようというごまかせの福祉には、人々を元気にする力があります」



京都市東山区の社会福祉法人「南山城学園」は障害者支援施設などを運営する。入社11年目の田中健さん(32)は、企業広報課で新卒採用を担当する傍ら、大学など他団体と連携して入所者の社会参加を促したり、現場スタッフの声を聞いてPRに設定したりと、施設の中と外をつなぐ活動も実行している。

ある介護職員から、一人の入所者と内食会などで学びを得た経験を聞いた。担当する入所者の命を救うべくもないうち、やっとなんか取れた保護者であるきょうだいは、延命治療を「望まない」と拒否した。取りの気持ちを聞いた健さんは、驚愕で涙が止まらなくなった。「こきょうだいの話、ちゃんとしたし、目も眩しい入所者ばかりに聴かされたけれど、きょうだいはずっと寂しい思いをしていたのかもしれない。笑顔がある上で将来までとらえることの大切さを思い知り、人として成長する機会になったという。

今回のウェビナーで専門講師を務めるは、千葉県野村市立社会福祉院の和田義人さん。大学卒業後、百貨店のグループ企業で「バー」を営んでいたが、会社の倒産を機として介護老人保健施設の職員に就いた。それから介護老人グループホームへ転職、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、病院などの立ち上げにあたった後、大学教員として2度目のキャリアチェンジを果たした。自身の経験を話す。

さまざまな介護現場を見た和田さんには、在宅介護・施設介護の違い、介護サービスの種類の違いなどにより、働き手にも求められる視点も、仕事内容も、一層ではなくなると感じる。「人口減少、高齢化が今後さらに進む中、さまざまな人と関わりながら新たな価値を創っていくことが重要になる。人に関わる介護という仕事の魅力を現場の現場の話を聞いて伝えていきたい」と話す。

<本文>
■11/20 開催 生徒に伝えたい介護のしごと リアルを知りキャリア教育に生かす
学生の就職数が増えている介護業界とはどんなものなのか、多様な働き方があり、地域とつながり、社会に貢献できる。肉体的な大変さがクローズアップされることが多いけれど、向き合う相手のことを想像する方も求められる。
本イベントに登壇する千葉商科大の和田義人さんは、介護とはそんな仕事だと言います。その社会的な役割や意義の解説や、現場で働く実践者とのクロストークをまじえて、介護の仕事のリアルを学んでいただけます。
介護という仕事への理解を深め、生徒やお子さんのへのキャリア教育の選択に「介護」を探り入れてみませんか。
実施主体：朝日新聞社・厚生労働省補助事業
【日時】
2024年11月20日(水) 19:30～20:50(予定)
【参加・視聴】
参加無料。Zoom ウェビナーで開催。
申込完了後、応募フォームにご記入いただいたメールアドレスに視聴用 URL が届きます。
【詳細・申し込み】
登壇者情報などのイベント詳細とお申し込みは、以下から。
https://terakoya.asahi.com/article/15457936
【申込締め切り】
2024年11月20日(水) 12:00
【お問い合わせ先】
寺子屋朝日 for Teachers 「生徒に伝えたい介護のしごと リアルを知りキャリア教育に生かす」お問い合わせ窓口(朝日カルチャーセンター内)
・お問い合わせ時間：平日(月曜日～金曜日) 10:00～17:00
・メール：webinar241120@asahiculture.com

朝日新聞デジタル会員向けのメルマガ配信 20万通

参加無料
生徒に伝えたい介護のしごと
リアルを知りキャリア教育に生かす
2024年11月20日(水)
19:30～20:50(予定) @Zoom
和田 義人
(徳大)

SNS各種広告配信 (LINE、Meta)

ウェビナーに開催に向け、登壇者をご紹介する記事を配信



5. 教職員向けイベントの開催



タイアップ採録記事・アーカイブ動画

生徒に伝えたい介護のしごと リアルを知りキャリア教育に生かす

2024年11月20日(水) 19:30~20:50 @Zoom

和田 龍人

介護という仕事をキャリア教育の題材として取り入れてある企業は多く「生徒に伝えたい介護のしごと」リアルを知りキャリア教育に生かす」と題したオンラインセミナーを開催しました。本セミナー前半は、卒業生和田龍人さんが「介護というキャリア 必要なものややりがい」をテーマに講演し、後半では社会福祉法人「ひとつゆの会」の山口洋一さん、社会福祉法人「あひやま福祉会」の柳田謙さん、社会福祉法人「南山福祉学苑」の田中龍さんをおゲストに招いて、仕事のやりがいや働き方を変えるクロストークが盛り込まれました。

イベント登壇者

和田龍人さん（わか ぶしと） 千葉商科大学人間社会学部教授。1958年生まれ。84年に成城大学経営学部卒業後、大手百貨店のグループ会社に就職。介護老人保健施設の立ち上げに関わった後、98年に医療法人社団聖会グループへ。特別養護老人ホームや病院などの施設に勤務。2014年4月から退職。共にこれからの『高度社会』を考える『福祉社会誌』、『はじめの人間社会学』(中絶経済社)。

山口洋一さん（たにぐち よういち） 山口県防府市を拠点にデザインサービスグループホーム、特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人「ひとつゆの会」で、在宅支援事業部長を務める。介護職員、児童相談官を10年ずつ経験し、現在はデザイン・ビジネスセンターや訪問介護ステーションなど事業の発展を促せる管理職を務める。

柳田謙さん（かたが たく） 京都府内海市の社会福祉法人「あひやま福祉会」常務理事。児童、高齢、障害の分野の領域を越えた複合型施設を運営する中で人々の交流を生み出す「ごちゃまぜの福祉」を実践している。

田中龍さん（たなか りゅう） 障害者支援施設などを運営する京都府城陽市の社会福祉法人「南山福祉学苑」の法人本部事務総企画課課長兼課長代理を務める。また、大学など他団体と連携して入居者の社会参加を促したり、現場スタッフの声を聞いてPRに設立したりと、施設の中と外をつなぐ活動も受け持つ。

介護というキャリア 必要なものややりがい



2010年から2020年の日本の人口の急激な減少を背景とし、少子高齢化が進む中、経済活動の中心となる15〜64歳の生産年齢人口も、0〜14歳の子どもたちの人口も、すでに減少しています。そんな中、唯一2042年において上昇していくのが65歳以上の高齢者世代です。若い世代が育ち、高齢者が受け入れていく2040年の社会を見据えて、今のうちから問題意識を持っていく必要があります。



和田 龍人



山口 洋一

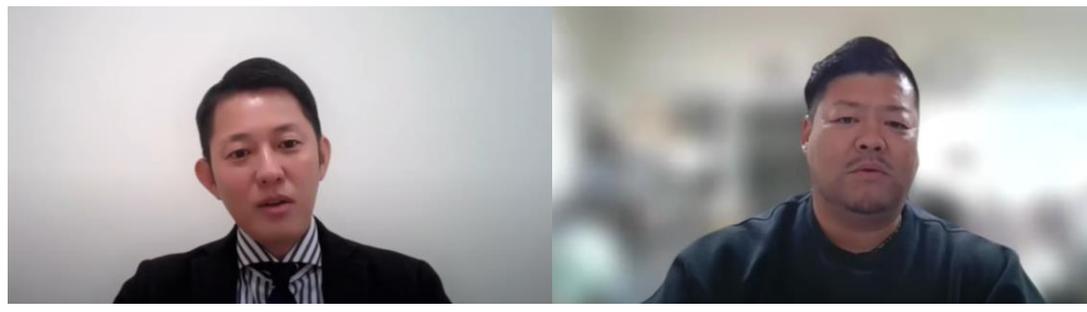


登壇者からのメッセージ

和田 介護の仕事は極めて2段。いちばん大変な仕事は、この仕事の一番の難点は、利用者さんお話を聞きながらどうやって話を聞いていくかです。若い世代にも聞いてもらう必要もありません。『人の役に立てる楽しさ』という言葉を覚えてもらいたいので、ぜひ今の高校生、中学生の皆さんに『人の役に立てる楽しさ』と、学校の先生から伝えていただけたらと思います。

柳田 『介護の仕事は楽しいんです』という誤解があるのかもしれないですが、介護でもどんな仕事でも、どう自分がキャリアを築くかによって報酬は変わってくるんです。自分のキャリアをデザインしてスキルを磨き、ノウハウを学んでキャリアアップしていく習慣も大事です。介護から始めたい人はぜひ聞いてほしいです。業界の現状は、若い世代からでも事業を拡大できる可能性がある業界なので、介護は成長のある仕事と認識いただけたら幸いです。

山口 福利の強がりましたが、南山福祉学苑は大学で3部門です。これを業として認めるか難しいところはお話しますが、介護から始めたいという目標を持っていくのは時代遅れではないかなと思います。社会福祉法人は経営がしっかりしているから、安心していいです。北の海という部分で福利を推進したいのが目的としてほしいです。介護は高年層に多いものの、介護をスタートしていきやすいという学生さんにもお話を聞けると思います。



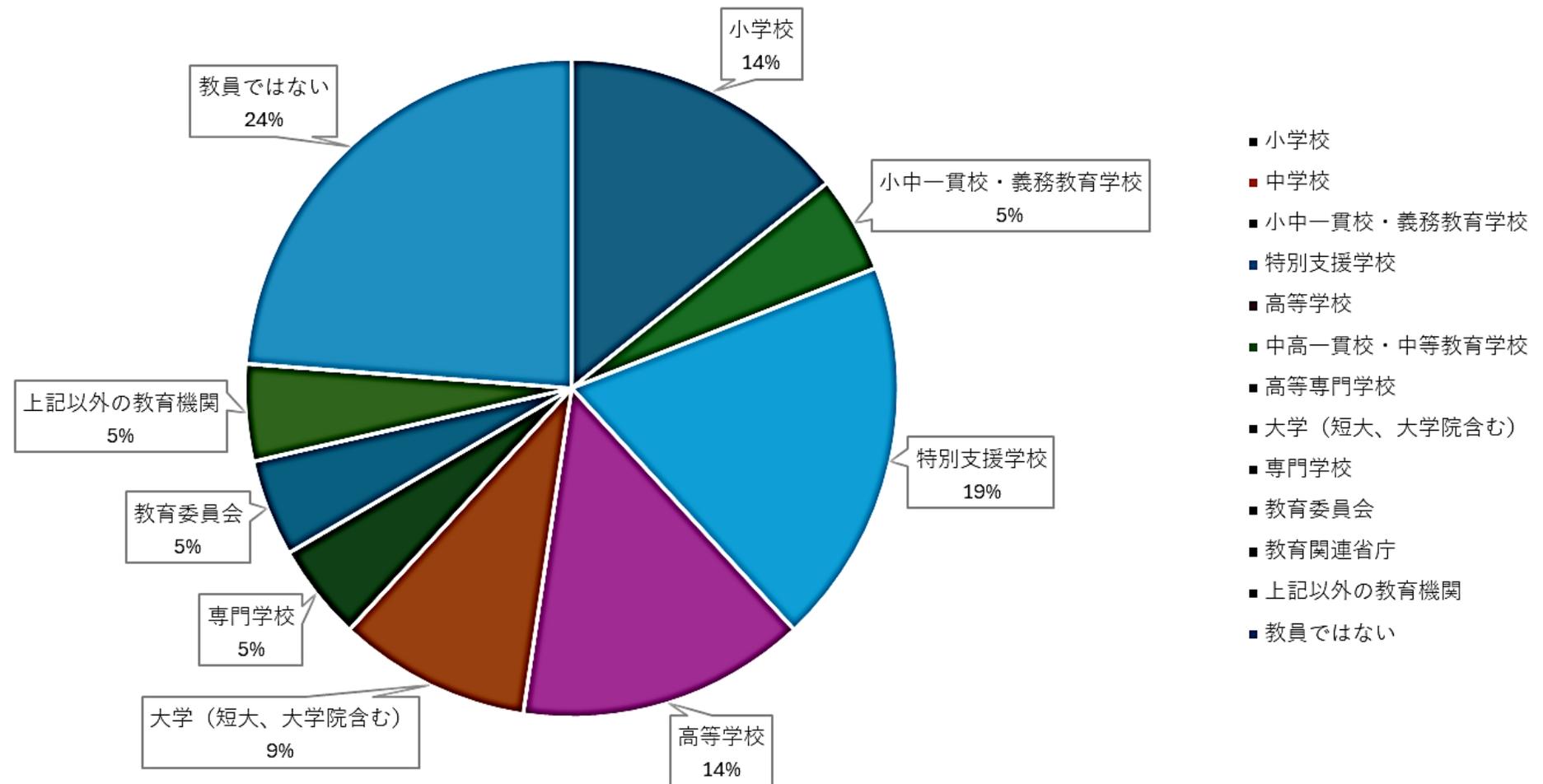
【開催概要】
開催時期：2024年11月20日(水)
19:30~20:50
形式：zoomにて実施
視聴数：当日参加最大約50名 事前応募78名
採録：寺子屋朝日HPに採録記事 12,370PV
アーカイブ動画配信 88,363回

事業内容

5. 教職員向けイベントの開催

参加者に向けたアンケートより n=21

【教員の方は、勤務校についてあてはまるものをお答えください。】

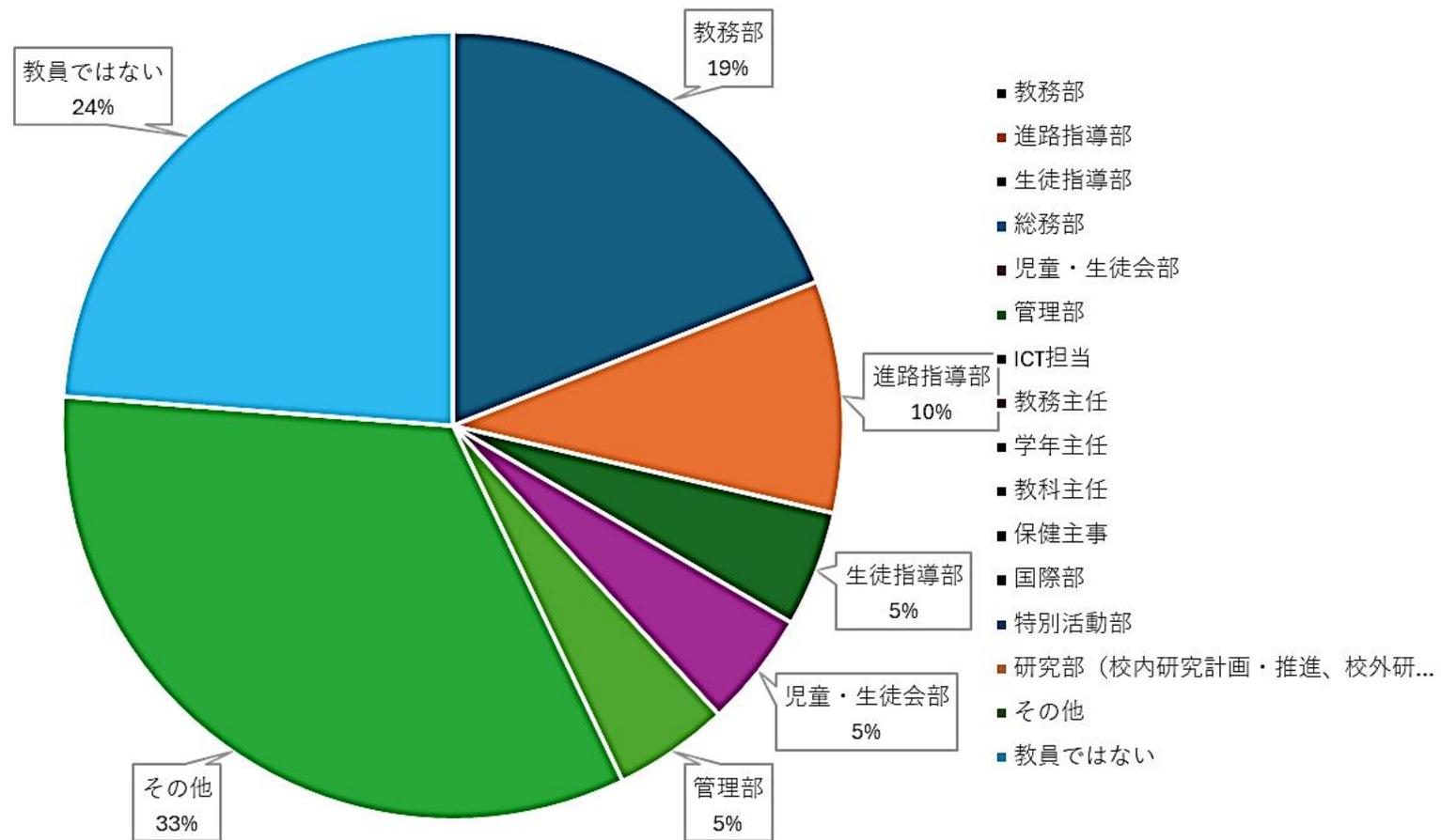


事業内容

5. 教職員向けイベントの開催

参加者に向けたアンケートより n=21

【教員の方は、ご担当の校務分掌をお答えください】

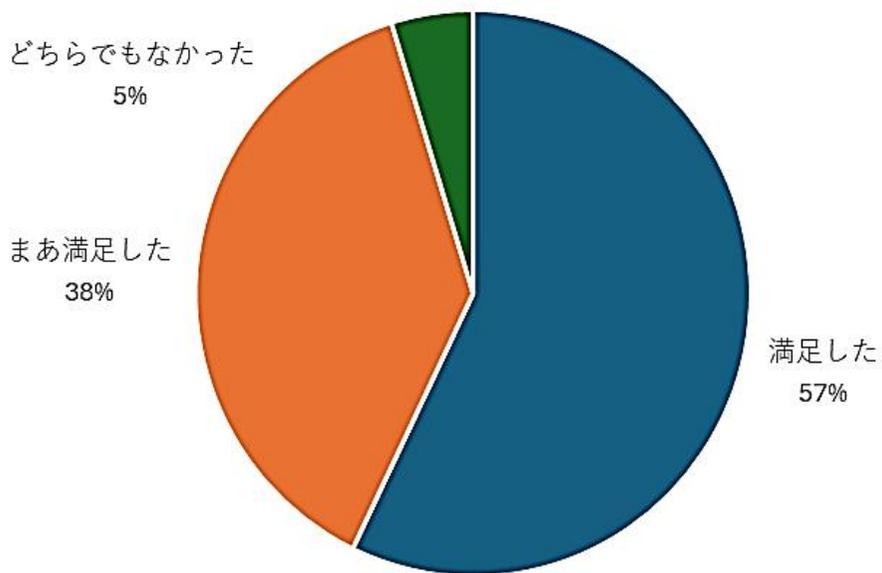


事業内容

5. 教職員向けイベントの開催

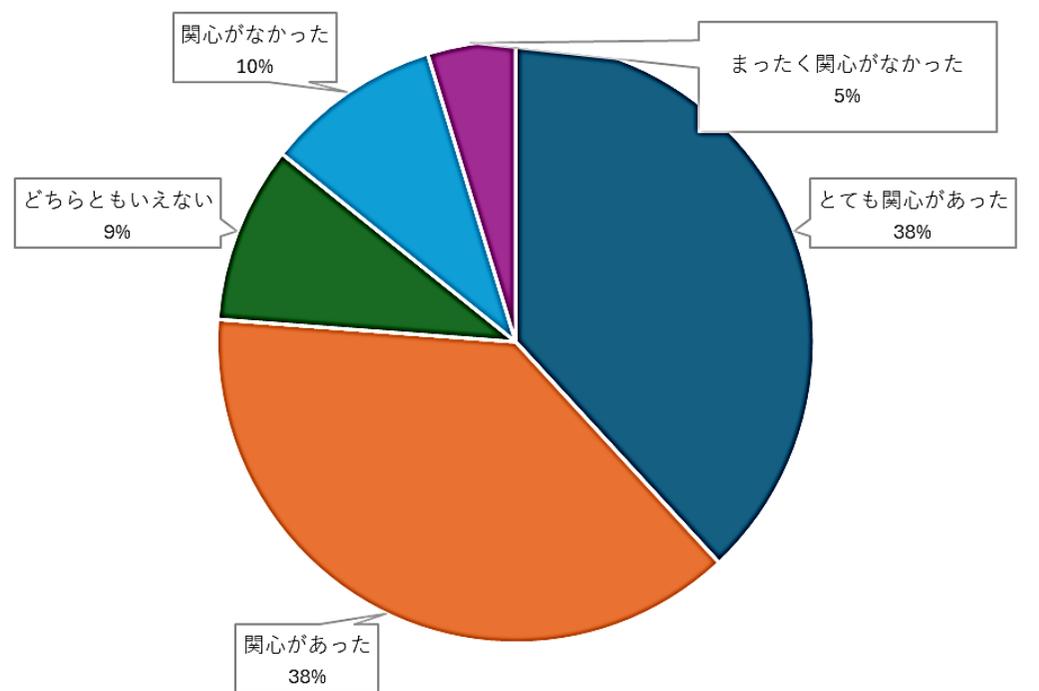
参加者に向けたアンケートより n=21

【今回のオンラインセミナーの内容はいかがでしたか？】



- 満足した
- まあ満足した
- どちらでもなかった
- あまり満足しなかった
- 満足しなかった

【セミナーに参加する前に介護業界に関心はありましたか？】



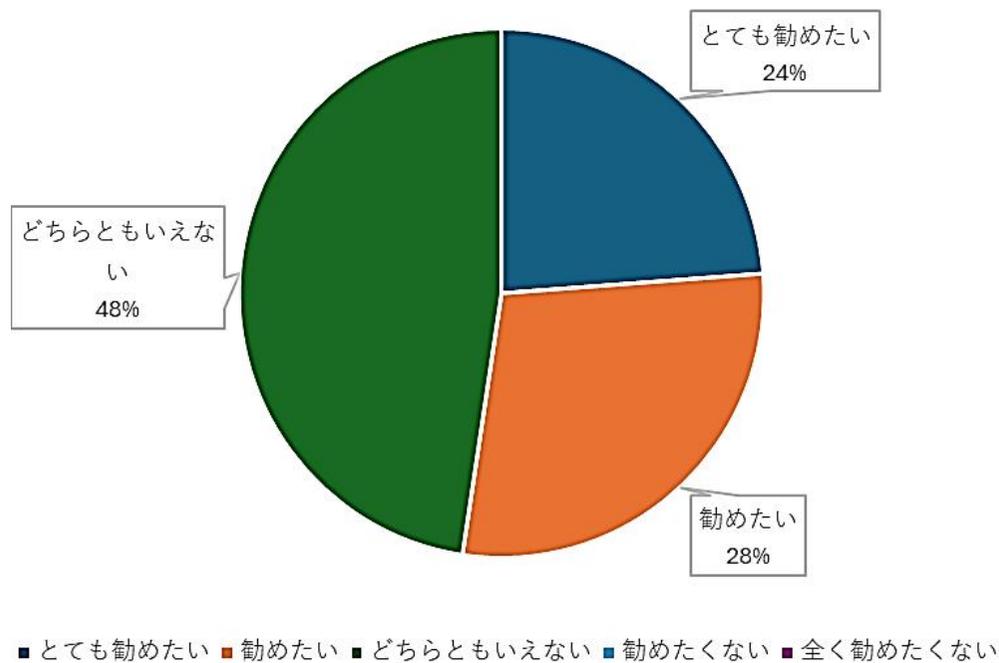
- とても関心があった
- 関心があった
- どちらともいえない
- 関心がなかった
- まったく関心なかった

事業内容

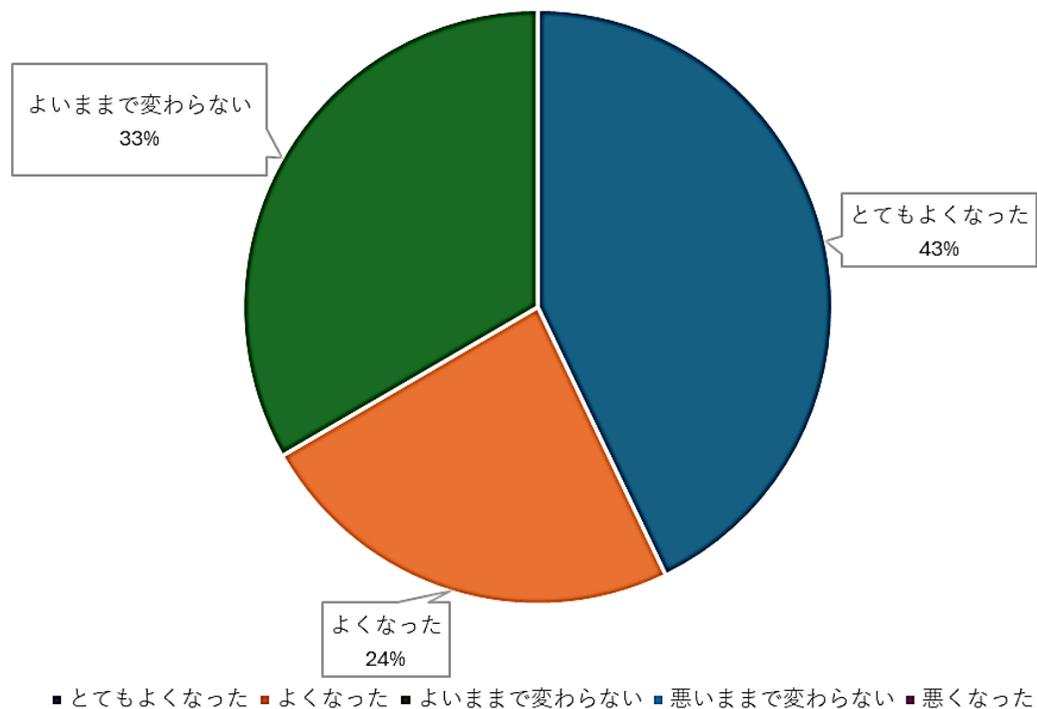
5. 教職員向けイベントの開催

参加者に向けたアンケートより n=21

【子どもや生徒の進路選択として介護のしごとを勧めたくなりまし
たか？】



【セミナーに参加する前に介護業界に関心はありましたか？】



事業内容

5. 教職員向けイベントの開催

参加者に向けたアンケートより n=21

- 「介護を輸出する」という表現がすごいと思った。日本の介護技術や精神やノウハウを海外に伝えたら、日本人ならではの心づかいや繊細さは世界に認められているから、受け入れやすいと思う。人が、人らしく生きて、生涯幸せに暮らしていくために、私たち日本人だからこそできることがあるのだなと思った。身近な介護施設にインドから来られている職員さんがいる。その方たちは日本語も堪能で、インドで十分勉強されてきている。その姿は、テレビのドキュメンタリー番組で見ただけだが、愛のある優しい心で、母国に自分の家族を残してきているにもかかわらず、献身的ですごい決意だと思った。その人たちがきっと母国で将来やってくる高齢化社会を力強く歩んでいくリーダーとなると思う。日本での経験や人とのつながりが大切に心に残しておきたいものになってくれることをすごく願う。
- 私にとって介護職の経験が蘇る良いセミナーでした。
- 直接介護の仕事と周辺介護の仕事は明確に違うのだろうか。特に勤務校の場合は特別支援学校なので周辺介護の業態の方が雇用される率が高いのでその辺のお話も聞きたかった。
- 普段は聞けないようなことが聞ける貴重な会でした
- 若者が減り高齢者が増える中、持続可能な社会づくりにおいて、介護の仕事が求められていることがわかった
- 介護の視点が明らかになった。
- 介護のイメージもマスコミ等のフィルターのかかったものに囚われていると気づくことが出来ました。リアルに具体的にに関わり、そこでの観察と気づきを学生に伝えていきたいと思います。実行します。
- 皆さんの熱い想い、率直な意気込みが伝わって、とてもよい企画でした！
最後に給与も具体的な数字で言ってくださって有り難かったです。やはり安いイメージがあり、そこは払拭していきたいですね
人の人生を一緒につくっていく醍醐味、チーム支援のダイナミクス、そして地域を巻きこんだ社会変革、本当に自分も周りも世界も幸せにする仕事だと思います!!

事業内容

5. 教職員向けイベントの開催

参加者に向けたアンケートより n=21

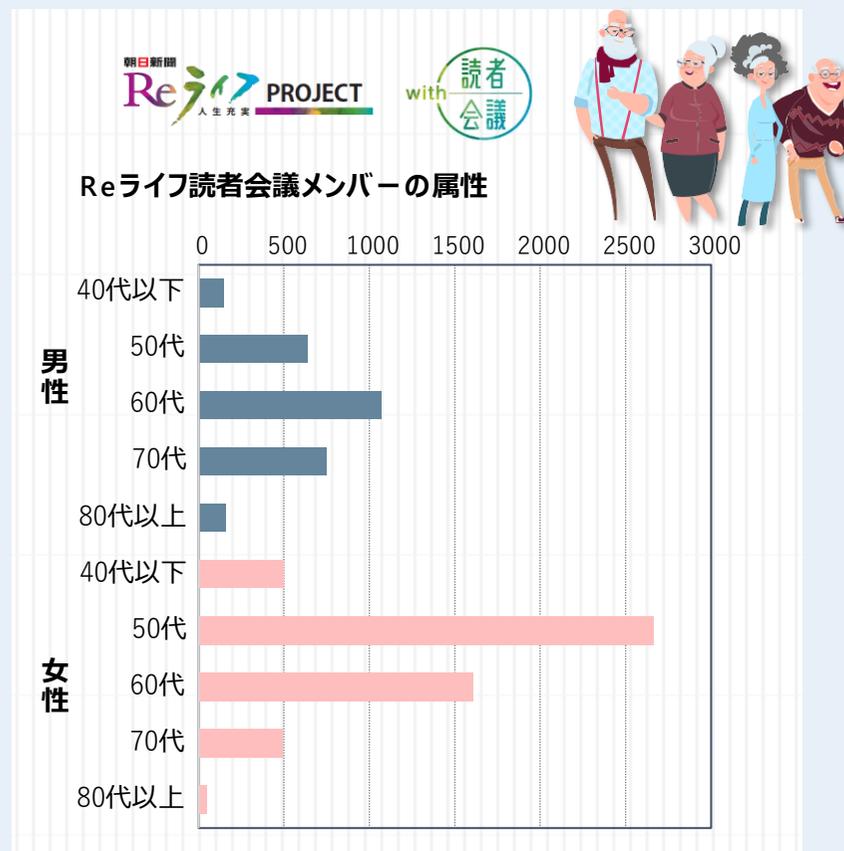
- 医療職を志す生徒は少なくないのですが、看護師や技師を目指す者が多く、「介護はたいへんそう」「大変なわりにお給料が低そう」という声をよく耳にしていました。実際のところを現場の方たちのご経験を踏まえて伺えてよかったです。生徒にも、将来の選択肢のひとつとして、介護についてもっときちんと現実を調べてみるように伝えたいと感じました。
- 和田先生の講義が特に素晴らしかった。登壇者の方々も具体事例を開示頂いたお話しがわかりやすかった。感動なエピソードも多く、介護職の魅力を高めたのではないかと。
- 介護を輸出するという考え方がすごいと思った。新たな市場を生み出すチャンスだと思ったのと、日本人の良さをとても発揮できる業種だと思った。
- 介護の仕事のクリエイティビティがよく分かった。
- 保護者の方から、「女性が自立するには看護師」「就職がいいのは経済・経営学部・・・」といった声が多く、生徒が影響を受けていると感じます。潜在的には（お金儲けよりも）人のためになる仕事をしたいという生徒は多く、社会の仕組みを知る上でも「福祉分野」への進路を増やしたいと日頃から考えていました。日本社会事業大学と高大連携をしていることもあり、今後も発信をしていきたいと思えます。ピアノが回復に導いたお話が印象的でした。（是非、本校でも講演をしていただきたいと思いました。）AIには代われない分野であることも、自分の中で具体化でき、大変有意義なセミナーでした。
- 現場で実際に介護に関わる方々の感じておられることと、日本の社会情勢の2つの視点から介護職について考える機会になりました。なかなか大変と思われがちな介護職のよさを生の言葉として伺う機会が教員には少なく、これを受けて子どもたちへの指導を考えていきたいと思いました。



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

大規模アクティブシニアコミュニティ「Reライフプロジェクト」が開催するリアルイベントでセミナーを実施。約3,000人のアクティブシニアが集まるイベント内でのセミナーやブース出展を通じた直接アプローチができる貴重な機会に、セカンドキャリアの一步を踏み出すきっかけ作りとともに、その選択肢としての介護の仕事の魅力を伝えました。

- タイトル** 朝日新聞Reライフフェスティバル2025春
- 実施日** 2025年3月3日（月）
- 実施時間** 9:00～18:00
- 実施会場** ロイヤルパークホテル（東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1）
- 来場者数** **3,016人**
- 参加費** 無料
- 応募方法** 朝日新聞本紙（編集紙面・広告）、朝日新聞デジタルなど
- 主催** 朝日新聞社





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

職場体験+介護に精通した著名人とのセミナーの開催

アクティブシニアに対してセカンドキャリアのきっかけ作りとともに、その選択肢としての介護のしごとの魅力を伝える施策です。朝日新聞のアクティブシニアプロジェクト「Reライフ」イベントを活用しました。

- イベント全体
- ▼ 応募総数：8,165名
- ▼ 当選者：5,454名
- ▼ 来場者数：3,016名

- 本セミナー
- ▼ 応募総数：4,148名（第1～3希望）
- ▼ 当選者：500名
- ▼ 来場者数：**175名**
- ▼ ブース：**約200名**



体験会の実施



集まった読者メンバー（2名）による福祉施設等での職場体験会を実施。体験会を撮影。

3月3日
セミナー開催



職場体験会に参加した読者メンバーや介護経験のある著名人を交えたセミナーを開催。仕事相談ブースへも誘導。



アーカイブ
配信



紙面採録+セミナーの様子を後日アーカイブ配信（10万回再生目標）



内多 勝康 さん



駒村 多恵 さん

- ・社会福祉法人 村山苑 相原 弘子 さん
- ・朝日新聞読者会議メンバー 城戸 さん 西山 さん

■ セミナーテーマ

～人生100年時代の、新・セカンドキャリア～ あなたもできる、介護のしごと

■ 出演者

- ・内多勝康さん 駒村多恵さん 社会福祉法人村山苑 相原弘子さん
- ・体験会参加の読者メンバー 城戸さん、西山さん

■ 内容

アナウンサーから転身して医療福祉の現場で働く内多勝康さんと実母の介護を15年以上続け、仕事のかたわら介護福祉士や介護食士の資格を取得した駒村多恵さんに、職場体験に参加した読者メンバーが介護の仕事の魅力について語り合うトークショーを開催しました。



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

Reライフプロジェクトとは

人生100年と言われる長寿時代に、50代からの人生後半をアクティブに生きるための暮らしの悩みや楽しみを共有しようと、2014年に朝刊で「Reライフ」面がスタートしました。子育てが一段落したり、定年したりして、ライフステージが大きく変化した方々が“充実した人生”を送るために役立つ情報をお届けしています。紙面やWEBサイトなどのメディアを活用しながら、リアルなイベントなども実施。読者コミュニティ「読者会議」をベースに、情報感度の高いアクティブシニアと強く繋がっています。

メディア

朝日新聞朝刊「Reライフ」面



第1・第2日曜 発行：約500万部

ウェブサイト Reライフ.net



<https://www.asahi.com/relife/>

- ・月間PV数 **150万PV**
- ・ユニークユーザー数 **40万**
- ・Facebook フォロワー **4800人**
- 「X」も2020年4月からスタート



2023.4月現在

コミュニティ



読者会議メンバー **約25,000人**が登録

(2024.1月現在)

発足から約5年で、体験会・座談会、アンケートをのべ**400回以上**実施。

- 体験型イベント：ファッション講座や家電のお試しモニター、映画試写会、展覧会鑑賞など
- オンラインイベント：不定期にセミナーを開催。様々な課題について、読者同士が意見交換するものも。

メールマガジン

Reライフメール毎週発行 **約4.5万人**

イベント

Reライフフェスティバル



アクティブシニア
約3,000名が集う
大型イベント



2016年春より東京・日本橋（ロイヤルパークホテル）で定期開催（応募数約**10,000名**）。

2020年1月には大阪で開催、コロナ渦では「@home」と題してオンライン開催。

2024年3月には東京でリアル開催！

約3,200名が来場しました。



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

イベント当日の様子（セミナー）





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

イベント当日の様子（ブース）





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

社会福祉法人村山苑体験会の様子





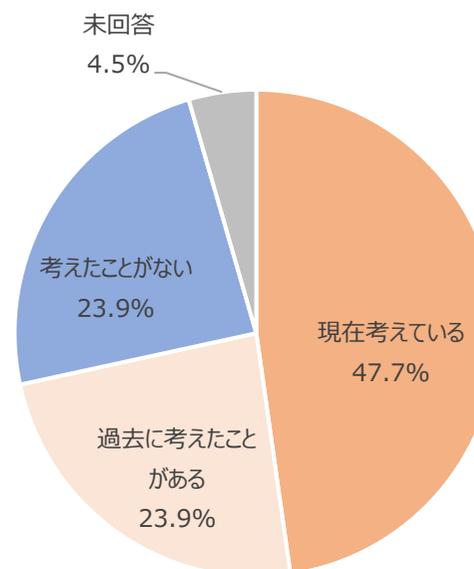
6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

【アンケート集計】2025年3月3日(月)開催 朝日新聞ReライフFESTIVAL2025春
「人生100年時代の、新・セカンドキャリア～あなたもできる、介護のしごと」
回答数：155件

Q1.あなたは、ライフシフトを考えたことがありますか

回答	件数	比率
現在考えている	74	47.7%
過去に考えたことがある	37	23.9%
考えたことがない	37	23.9%
未回答	7	4.5%
合計	155	100%





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

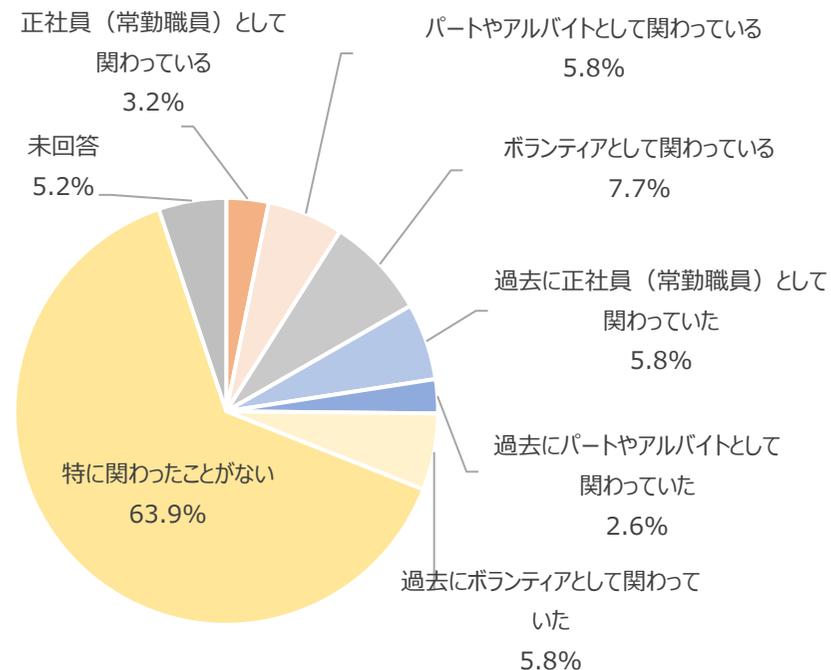
【アンケート集計】2025年3月3日(月)開催 朝日新聞ReライフFESTIVAL2025春

「人生100年時代の、新・セカンドキャリア～あなたもできる、介護のしごと」

回答数：155件

Q2.これまで、介護や福祉の仕事とどのような関わりがありますか

回答	件数	比率
正社員（常勤職員）として関わっている	5	3.2%
パートやアルバイトとして関わっている	9	5.8%
ボランティアとして関わっている	12	7.7%
過去に正社員（常勤職員）として関わっていた	9	5.8%
過去にパートやアルバイトとして関わっていた	4	2.6%
過去にボランティアとして関わっていた	9	5.8%
特に関わったことがない	99	63.9%
未回答	8	5.2%
合計	155	100.0%





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

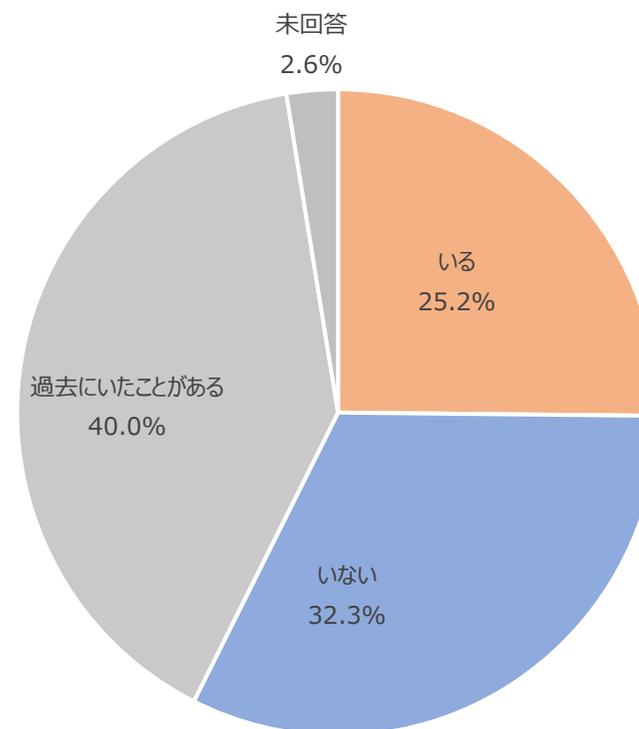
【アンケート集計】2025年3月3日(月)開催 朝日新聞ReライフFESTIVAL2025春

「人生100年時代の、新・セカンドキャリア～あなたもできる、介護のしごと」

回答数：155件

Q3.あなたの身の回りに介護を必要とされている人はいますか

回答	件数	比率
いる	39	25.2%
いない	50	32.3%
過去にいたことがある	62	40.0%
未回答	4	2.6%
合計	155	100.0%





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

【アンケート集計】2025年3月3日(月)開催 朝日新聞ReライフFESTIVAL2025春

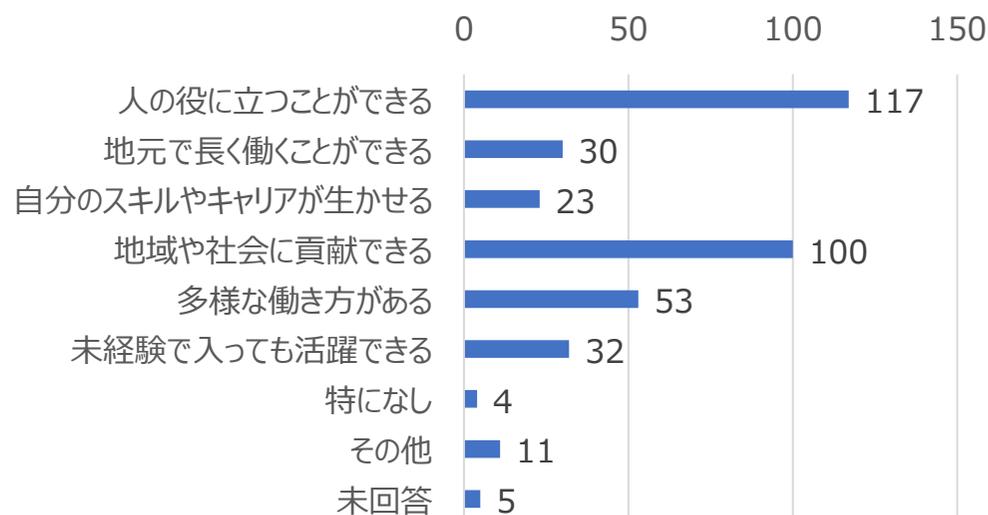
「人生100年時代の、新・セカンドキャリア～あなたもできる、介護のしごと」

回答数：155件

Q4.介護の仕事イメージについて、あてはまるものをすべて選んでください（複数回答可）

回答	件数	比率
人の役に立つことができる	117	75.5%
地元で長く働くことができる	30	19.4%
自分のスキルやキャリアが活かせる	23	14.8%
地域や社会に貢献できる	100	64.5%
多様な働き方がある	53	34.2%
未経験で入っても活躍できる	32	20.6%
特になし	4	2.6%
その他	11	7.1%
未回答	5	3.2%
合計	375	

※比率は回答数(155)に対する比率です。



「その他」の回答	
大変だ	1件
たいへん	1件
自分に活動が活きる	1件
向き不向きがある。キツイ。重労働。	1件
人生の喜怒哀楽と一緒に経験できる	1件
3K、環境が良くない。報酬が低い。	1件
低賃金	1件
多忙・体力がいる	1件
大変だが尊敬出来る仕事	1件
3K 感情疲労・腰痛には辛い	1件
精神的にも体力的にもつらい大変な仕事	1件



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

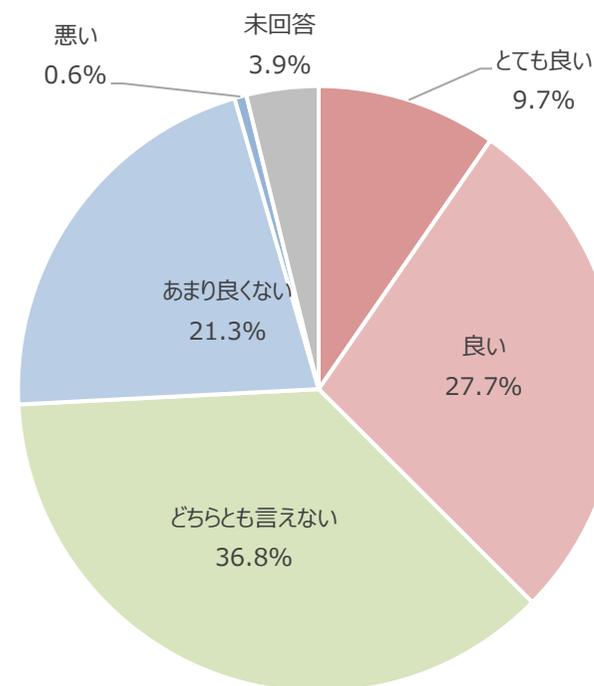
【アンケート集計】2025年3月3日(月)開催 朝日新聞ReライフFESTIVAL2025春

「人生100年時代の、新・セカンドキャリア～あなたもできる、介護のしごと」

回答数：155件

Q5.セミナー参加前の「介護の仕事の印象」についてお聞かせください。

回答	件数	比率
とても良い	15	9.7%
良い	43	27.7%
どちらとも言えない	57	36.8%
あまり良くない	33	21.3%
悪い	1	0.6%
未回答	6	3.9%
合計	155	100.0%





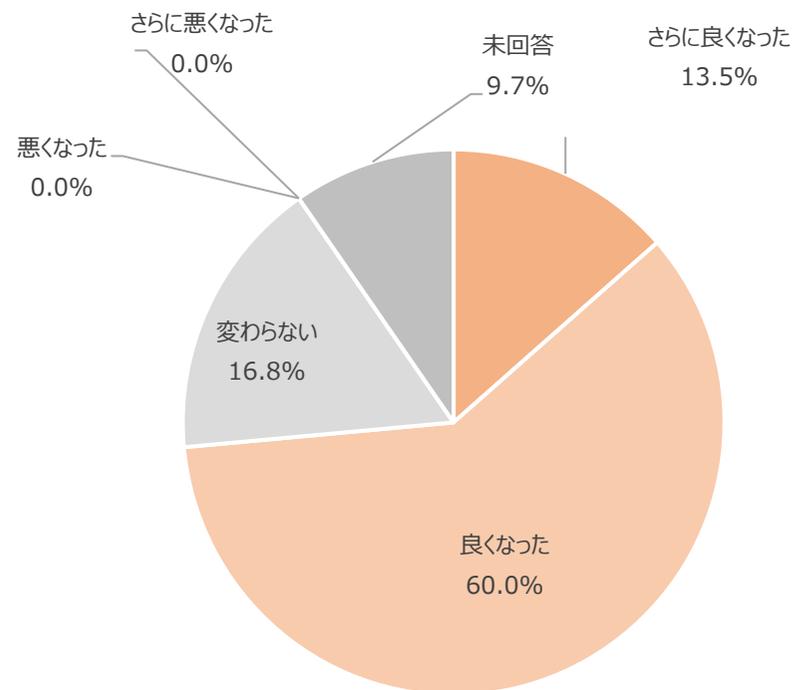
6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

【アンケート集計】2025年3月3日(月)開催 朝日新聞ReライフFESTIVAL2025春
「人生100年時代の、新・セカンドキャリア～あなたもできる、介護のしごと」
回答数：155件

Q6.セミナー参加後の「介護の仕事の印象」の変化についてお聞かせください。

回答	件数	比率
さらに良くなった	21	13.5%
良くなった	93	60.0%
変わらない	26	16.8%
悪くなった	0	0.0%
さらに悪くなった	0	0.0%
未回答	15	9.7%
合計	155	100.0%





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

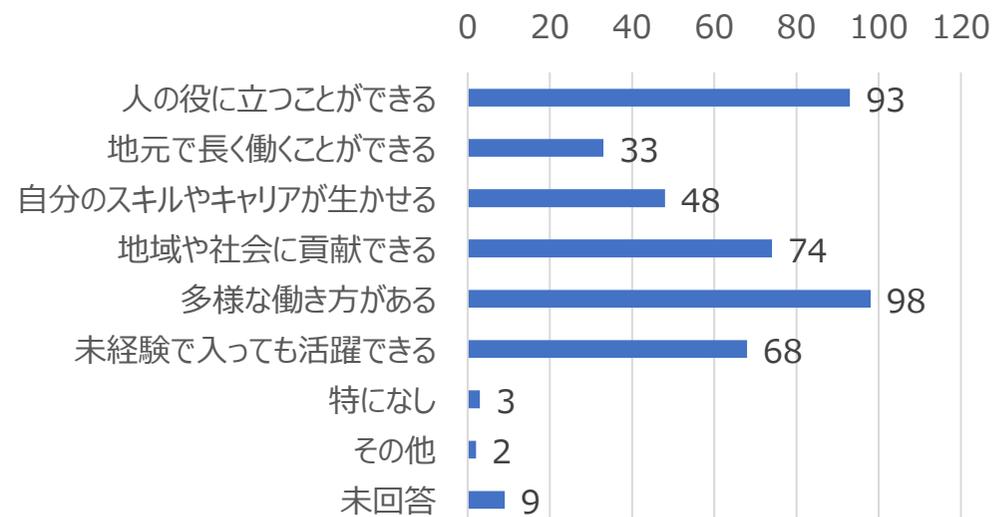
Q7.本日のセミナーに参加して、介護の仕事に対して具体的にどのような印象を持ちましたか。

あてはまるものをすべてお選びください（複数回答可）

回答	件数	比率
人の役に立つことができる	93	60.0%
地元で長く働くことができる	33	21.3%
自分のスキルやキャリアが活かせる	48	31.0%
地域や社会に貢献できる	74	47.7%
多様な働き方がある	98	63.2%
未経験で入っても活躍できる	68	43.9%
特になし	3	1.9%
その他	2	1.3%
未回答	9	5.8%
合計	428	

※比率は回答数(155)に対する比率です。

「その他」の回答	
これから自分が介護される側になるので	1件
未記入	1件



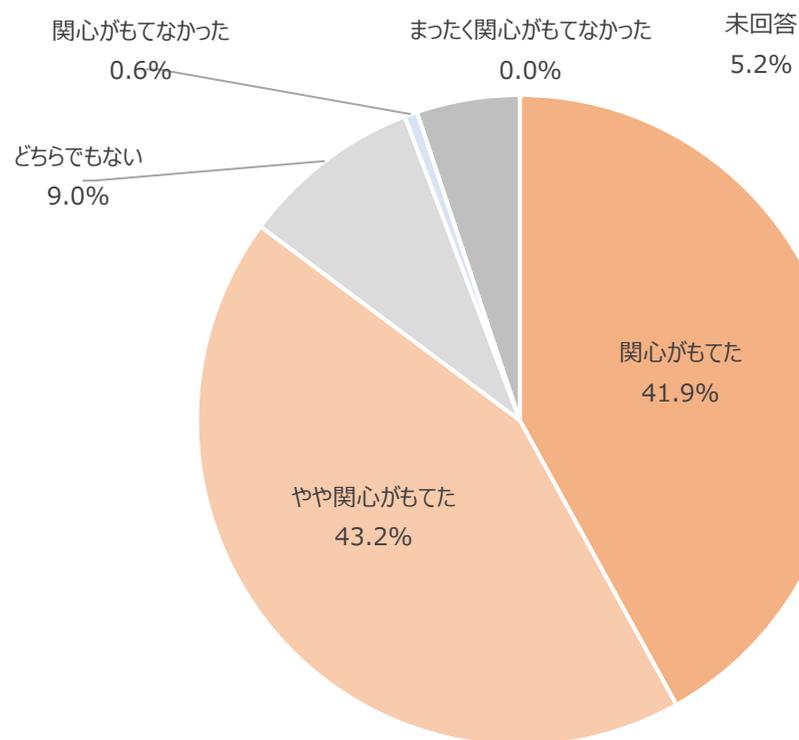


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

Q8. 本日のセミナーに参加して、介護の仕事に関心がもてましたか

回答	件数	比率
関心もてた	65	41.9%
やや関心もてた	67	43.2%
どちらでもない	14	9.0%
関心もてなかった	1	0.6%
まったく関心もてなかった	0	0.0%
未回答	8	5.2%
合計	155	100.0%



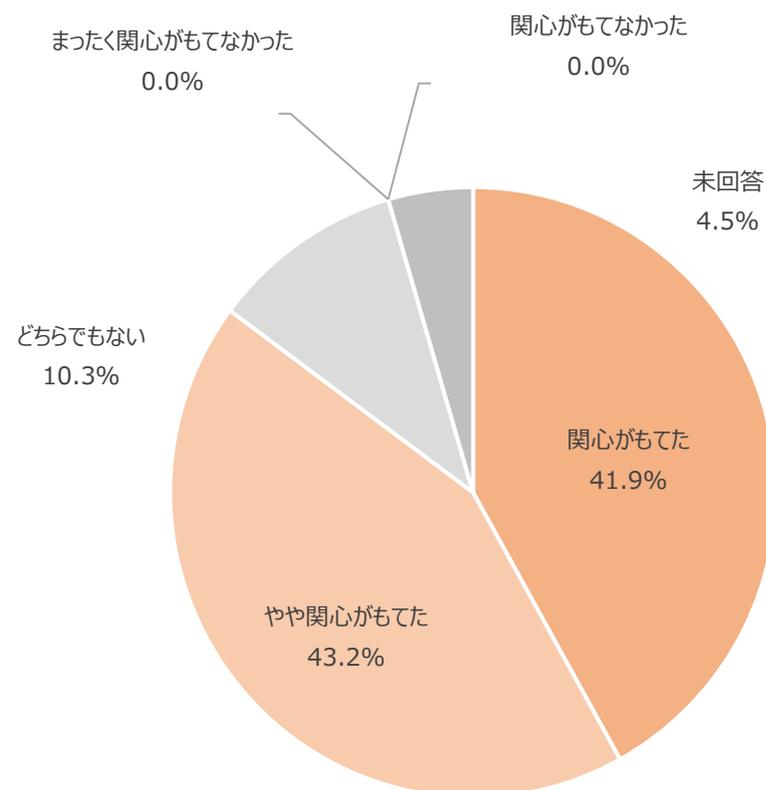


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

Q9.本日のセミナーに参加して、介護助手の「周辺業務」に関心がありましたか

回答	件数	比率
関心をもてた	65	41.9%
やや関心をもてた	67	43.2%
どちらでもない	16	10.3%
関心がもてなかった	0	0.0%
まったく関心がもてなかった	0	0.0%
未回答	7	4.5%
合計	155	100.0%



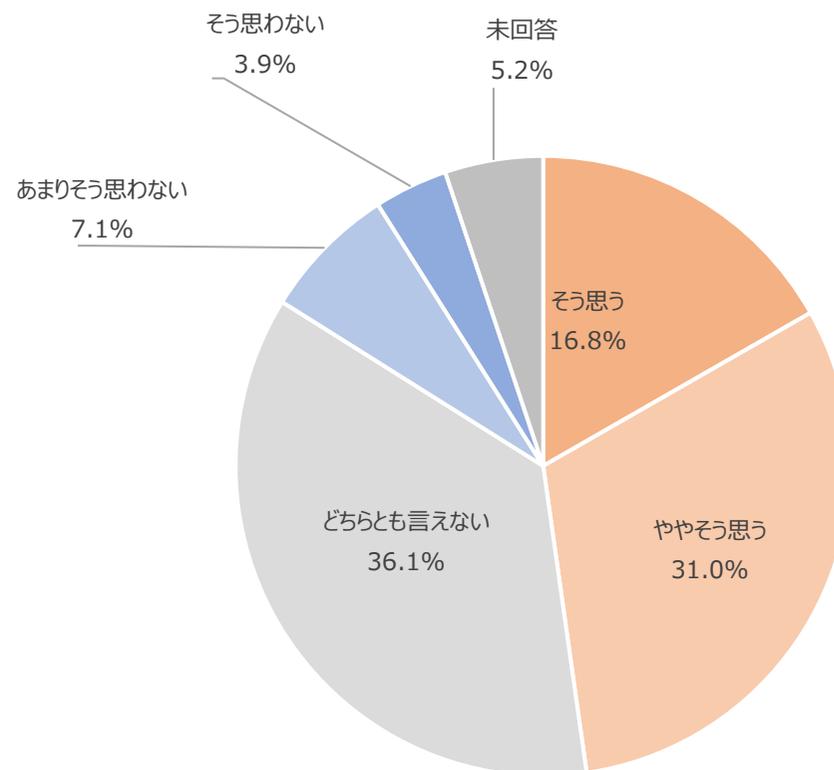


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

Q10.本日のセミナーに参加して、ライフシフトの選択肢として介護の現場で働いてみたいと思いますか

回答	件数	比率
そう思う	26	16.8%
ややそう思う	48	31.0%
どちらとも言えない	56	36.1%
あまりそう思わない	11	7.1%
そう思わない	6	3.9%
未回答	8	5.2%
合計	155	100.0%



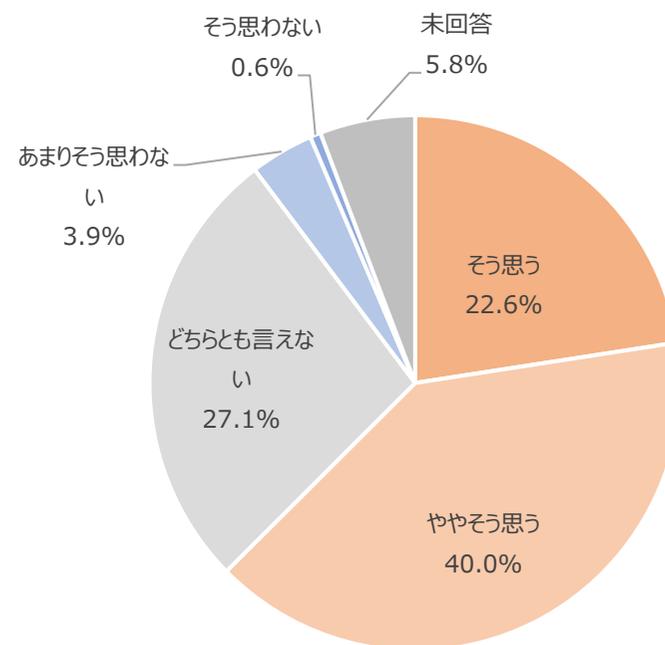


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

Q11.本日のセミナーに参加して、ライフシフトの選択肢として地域の福祉施設などでの現場体験やボランティアとして活動してみたいと思いますか

回答	件数	比率
そう思う	35	22.6%
ややそう思う	62	40.0%
どちらとも言えない	42	27.1%
あまりそう思わない	6	3.9%
そう思わない	1	0.6%
未回答	9	5.8%
合計	155	100.0%



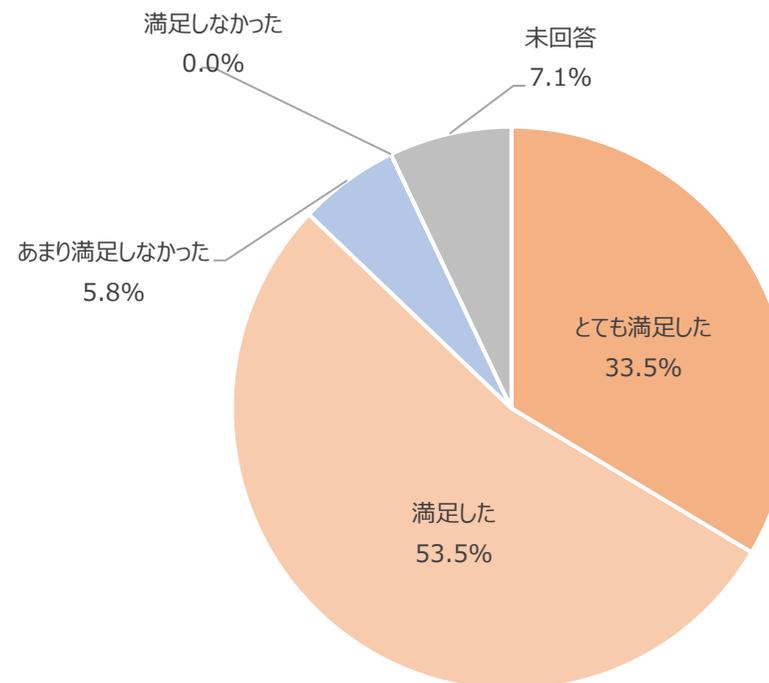


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

セミナーアンケート結果

Q12.本日のセミナーの満足度を教えてください

回答	件数	比率
とても満足した	52	33.5%
満足した	83	53.5%
あまり満足しなかった	9	5.8%
満足しなかった	0	0.0%
未回答	11	7.1%
合計	155	100.0%



事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

※アンケート自由回答抜粋

- ・4人の介護中で働くことが難しかったのですが、ボランティアや短時間の補助事務から始めると、介護の仕事も興味深いと関心を持つことが出来て、今回参加出来て良かったです。ありがとうございました。（50代 女性）
- ・「介護職」というと、敷居の高いもの、というイメージで敬遠しがちでしたが、自分にも、できることがあるかもしれないという気持ちが芽生えました。ありがとうございました。脚・腰が弱る→いつの間にか、フットワークが重くなる、可能性がある、と思いました。動くなら、早いほうが良い、でしょうか。（60代 女性）
- ・夫が定年後介護士に転職し、来年は介護福祉士の受験を目指しています。この選択は間違っていなかったと思いました。今後の展望も明るいものを感じられます。（60代 女性）
- ・私は60歳で介護職に就きましたが、共感できる事がたくさんありました。ありがとうございました。（60代）
- ・大変聞きやすく理解しやすかった。キャストの方々はさすが、進行も上手でわかりやすかった。そのせいで内容も興味深くきくことができた。具体的に日数や賃金の話もあると良かった。（60代 男性）
- ・今月より親（母）88才の介護がまさに始まりました。息子25才も、知的障害で様々な介護を受けています。今後、自分でも出来ること、貢献できること等あるのか、介護仕事の世界はどのようになっているのか知見を得たいと思い応募しました。今回の企画ありがとうございました。（60代 男性）
- ・内多さんの「使っていないと能力が衰える・・・」の言葉にドキリとしました。そして飛びこんでみる行動力の重要さもあらためて認識しました。ありがとうございました。（60代 男性）

事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

※ブースでの声抜粋

■ Reライフフェス 介護相談ブース相談内容

- ・無資格なので、自分のキャリアアップの方法を教えて欲しい。
- ・話を聞いて介護の仕事に補助の仕事があると知って驚いた。知らないと選択肢にならない為、もっと多くの人に周知する必要があると思う。
- ・介護の仕事に一步踏み出せなくても携わるきっかけになる活動があることを知れて良かった。
- ・3月末で定年退職の予定だが、働く場所を探している。介護は大変そうだが、興味がある。
- ・昨年IT関連の仕事を退職したが、介護現場でも、IT関連の専門知識を活かせる仕事もあることが知れた。
- ・ヘルパーの研修を10年以上前に取得しているが やらずにきている。親の介護もあったので仕事は休んでいた今更できるか不安だが関心はある。
- ・夫が去年亡くなって介護が大変だった。息子夫婦が介護の仕事をしていて助かった。体力が続けば自分もやってみたいと思っている。
- ・介護は大変のイメージしかないが 自分の将来の事を考えると技術など知っておきたい
- ・親の介護が必要になった時のことを考えると、このような仕事に携わることで、身内の予習にもなると思う。まずは入門研修を受けたいと思う。
- ・セミナーを聞いた後にブースに立ち寄った。有償ボランティアなど、介護の仕事に一步ふみだせなくても携わるきっかけになる活動があることを知れて良かった。
- ・64歳で初任者研修を受講して、現在はボランティア活動で無償で高齢者施設に行っている。
- ・介護の仕事には関心がある。定年を迎えたら、週に1回でもやってみたい。



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

全国紙での掲載

「Reライフフェスティバルセミナー」の採録記事を全国紙である朝日新聞に掲載。

ターゲットである50代以上の **アクティブシニア層** に向けて、イベント内容を効率的・効果的に届けました。



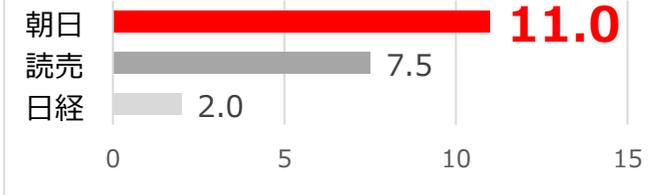
朝日新聞

圧倒的なリーチに加え**介護・福祉職**や**教育・自治体関係者**を読者に多く抱える

掲載概要

- 媒体：朝日新聞 全国版朝刊
- 体裁：全15段カラー
- 部数：**3,974,942部**
- 時期：2025年3月29日（土）

介護・福祉職が宅配購読している新聞



介護・福祉職(n=200) 2020年全国



朝日新聞 **ReLife.net** つながる。変わる。人生ここから

ウェブサイト「Reライフ.net」にて、
後日アーカイブ配信
10万回 再生以上



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

J-MONITORとは

新聞広告共通調査プラットフォーム「J-MONITOR(ジェイ・モニター)」は、株式会社ビデオリサーチが、各新聞社の読者モニターパネルを定められた共通の手続き・手順で募集・管理し、同じ調査システム上で各紙の実査を行いデータ提供を行う一連の調査システムの総称です。

調査概要

調査地域	首都圏(東京・神奈川・埼玉・千葉)
調査対象者	調査対象地域に居住し、朝日新聞を朝夕刊セットで定期購読する15～69歳の男女個人
抽出方法	新聞広告及びインターネット調査モニターパネルからの公募。応募者をJ-READ及びACR/ex*の当該地域・対象者の性×年齢・職業・家族人数等の属性に従い割付
調査方法	パソコンを利用したウェブ調査 (新聞紙面に関する設問は原則として新聞紙面を手元に用意回答する再認法)
標本サイズ	1パネルあたり約300人の複数パネルを交互に運用
調査実施日	掲載翌日0時～24時
調査実施機関・レターヘッド	株式会社ビデオリサーチ

※J-READ(全国新聞総合調査)(株)ビデオリサーチが年1回全国47都道府県で主要新聞(約110紙)の閲読状況などを測定する単媒体調査
ACR/ex 同社が主要7地区で毎年実施している、生活者の「意識」「商品」「メディア関与」などを網羅的に調査

調査ワード

「あなたもできる、介護のしごと」





6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

調査対象広告

対象広告 : あなたもできる、介護のしごと

掲載日 : 2025年3月29日(土)
 掲載新聞 : 朝日新聞東京本社版
 刊別 : 朝刊
 段数 : 全15段
 色 : 多色

算出方法について

- 【有効回収数率】
有効回答者/パネル登録者 × 100
- 【当該刊閲読率】
当該刊閲読者/有効回答者 < 新聞購読者 > × 100
- 【当該刊保有率】
当該刊保有者/有効回答者 < 新聞購読者 > × 100
- 【当該刊閲読かつ保有率】
当該刊閲読かつ保有者/有効回答者 < 新聞購読者 > × 100
- 【広告接触率】
(当該広告「確かに見た」+「見たような気がする」)
/有効回答者 < 新聞購読者 > × 100
- 【広告注目率】
当該広告「確かに見た」/当該刊閲読かつ保有者 × 100

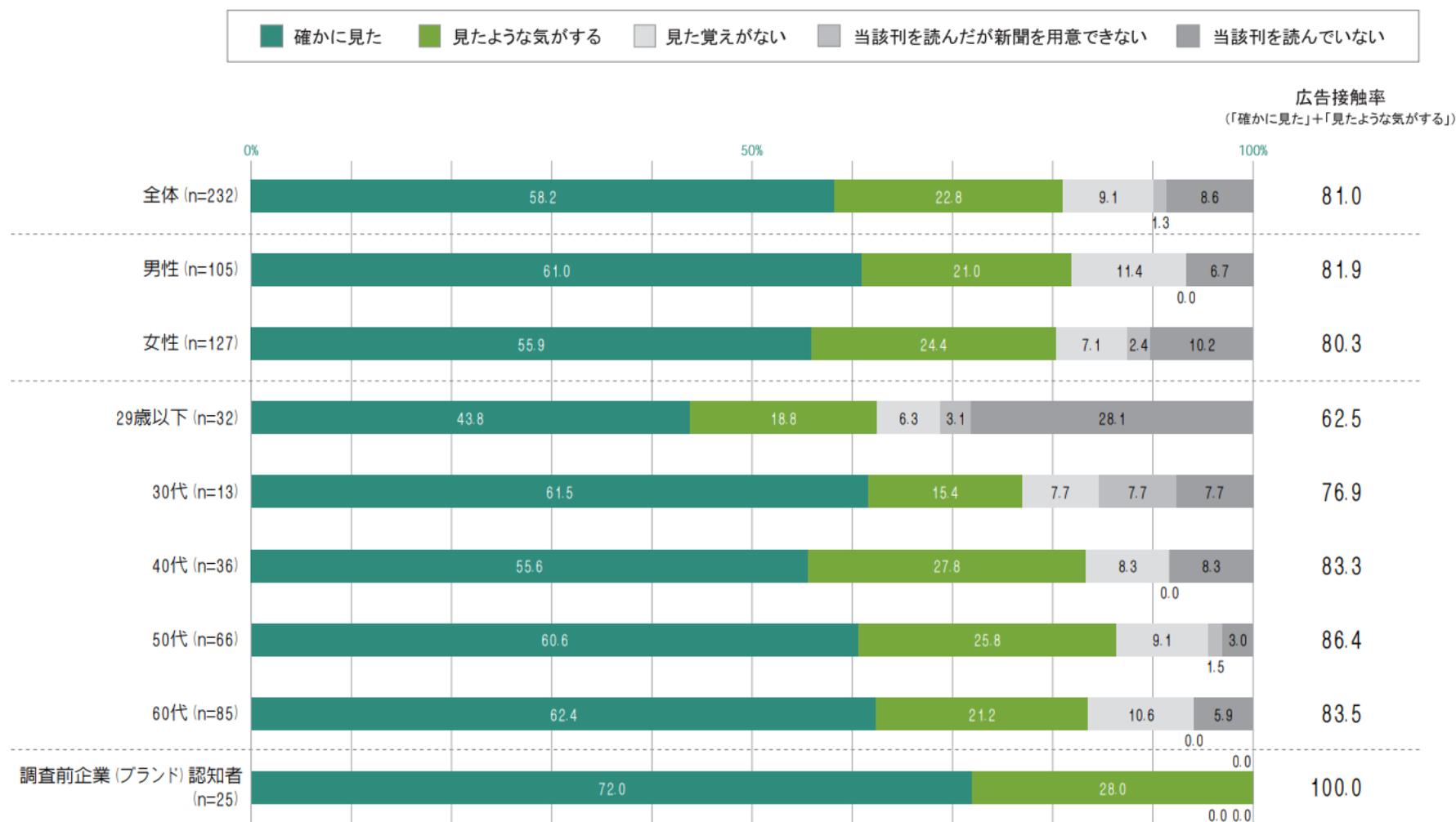
パネル登録者構成比	<性・年代構成>												上段:実数 下段:%													
	全体	男性	女性	男性					女性					29歳以下	30代	40代	50代	60代								
				29歳以下	30代	40代	50代	60代	29歳以下	30代	40代	50代	60代													
300	137	163	29	7	21	36	44	31	10	26	44	52	100.0	45.7	54.3	9.7	2.3	7.0	12.0	14.7	10.3	3.3	8.7	14.7	17.3	
有効回答者(率)	<職業構成>												上段:実数 下段:%													
	全体	給料事務・研究職	給料労務・作業職	販売・サービス職	経営・管理職	専門職・自由業	商工自営業	農・林・漁業	学生	主婦	その他	無職														
													300	63	17	30	18	28	5	0	35	65	13	26	100.0	21.0
当該刊閲読者(率)	<性・年代別>												上段:実数 下段:%													
	全体	男性	女性	男性					女性					29歳以下	30代	40代	50代	60代								
				29歳以下	30代	40代	50代	60代	29歳以下	30代	40代	50代	60代													
232	105	127	14	7	16	29	39	18	6	20	37	46	77.3	76.6	77.9	48.3	100.0	76.2	80.6	88.6	58.1	60.0	76.9	84.1	88.5	
当該刊保有者(率)	<職業別>												上段:実数 下段:%													
	全体	給料事務・研究職	給料労務・作業職	販売・サービス職	経営・管理職	専門職・自由業	商工自営業	農・林・漁業	学生	主婦	その他	無職														
													232	50	16	15	15	24	4	0	16	59	10	23	77.3	79.4
当該刊閲読かつ保有者(率)	<性・年代別>												上段:実数 下段:%													
	全体	男性	女性	男性					女性					29歳以下	30代	40代	50代	60代								
				29歳以下	30代	40代	50代	60代	29歳以下	30代	40代	50代	60代													
212	98	114	11	6	16	28	37	12	6	17	36	43	91.4	93.3	89.8	78.6	85.7	100.0	96.6	94.9	66.7	100.0	85.0	97.3	93.5	
当該刊保有者かつ保有者(率)	<職業別>												上段:実数 下段:%													
	全体	給料事務・研究職	給料労務・作業職	販売・サービス職	経営・管理職	専門職・自由業	商工自営業	農・林・漁業	学生	主婦	その他	無職														
													212	45	14	13	14	24	4	0	13	56	7	22	91.4	90.0
当該刊閲読かつ保有者(率)	<性・年代別>												上段:実数 下段:%													
	全体	男性	女性	男性					女性					29歳以下	30代	40代	50代	60代								
				29歳以下	30代	40代	50代	60代	29歳以下	30代	40代	50代	60代													
228	105	123	14	7	16	29	39	17	5	19	36	46	98.3	100.0	96.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	94.4	83.3	95.0	97.3	100.0
当該刊保有者かつ保有者(率)	<職業別>												上段:実数 下段:%													
	全体	給料事務・研究職	給料労務・作業職	販売・サービス職	経営・管理職	専門職・自由業	商工自営業	農・林・漁業	学生	主婦	その他	無職														
													228	50	16	15	15	24	4	0	16	55	10	23	98.3	100.0
当該刊閲読かつ保有者(率)	<性・年代別>												上段:実数 下段:%													
	全体	男性	女性	男性					女性					29歳以下	30代	40代	50代	60代								
				29歳以下	30代	40代	50代	60代	29歳以下	30代	40代	50代	60代													
209	98	111	11	6	16	28	37	11	5	17	35	43	90.1	93.3	87.4	78.6	85.7	100.0	96.6	94.9	61.1	83.3	85.0	94.6	93.5	
当該刊保有者かつ保有者(率)	<職業別>												上段:実数 下段:%													
	全体	給料事務・研究職	給料労務・作業職	販売・サービス職	経営・管理職	専門職・自由業	商工自営業	農・林・漁業	学生	主婦	その他	無職														
													209	45	14	13	14	24	4	0	13	53	7	22	90.1	90.0



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の接触状況



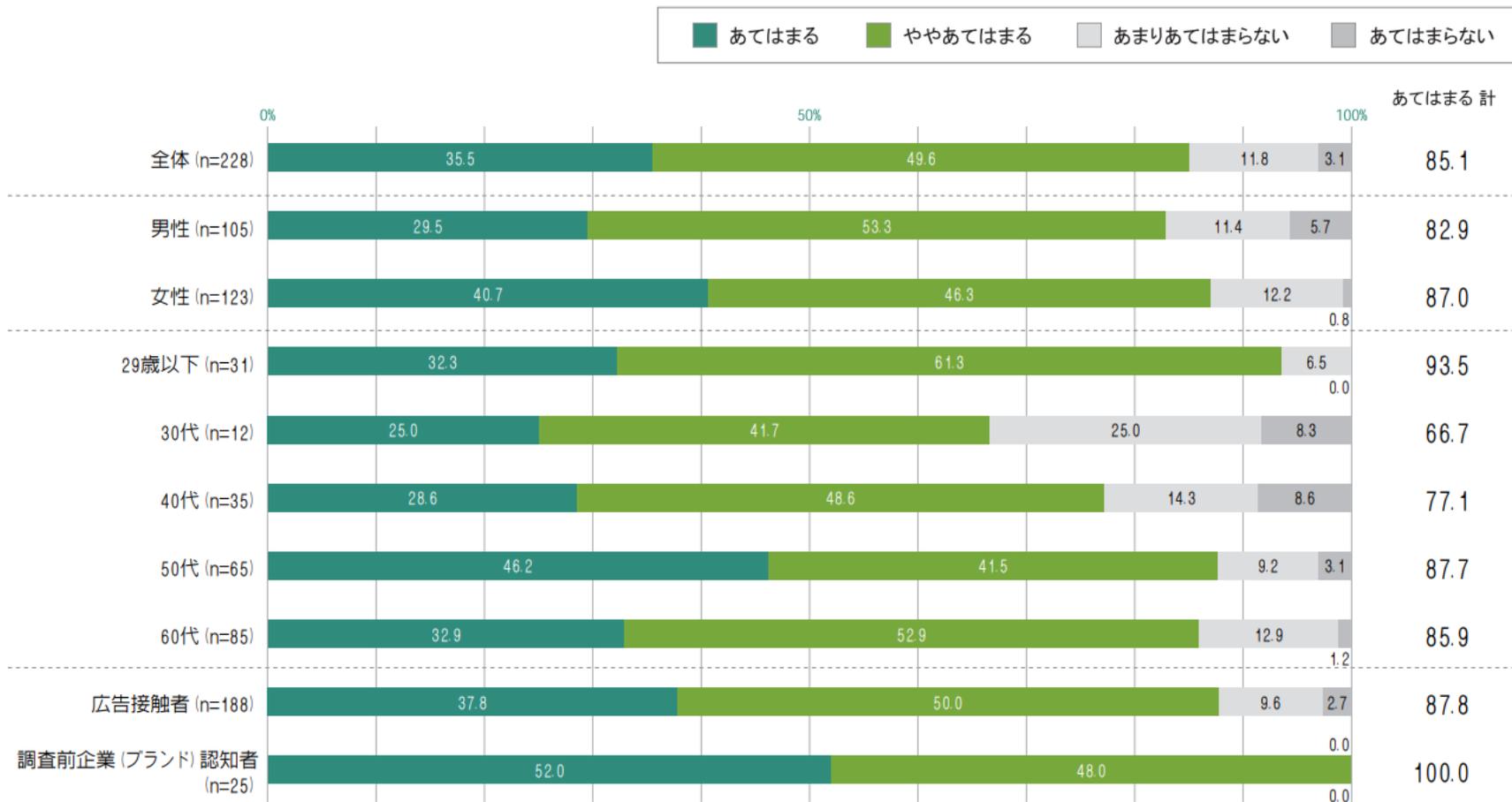


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の理解度

Q. あなたは『あなたもできる、介護のしごと』の広告をご覧になって、どのように感じましたか。※広告が理解できた(単数回答)



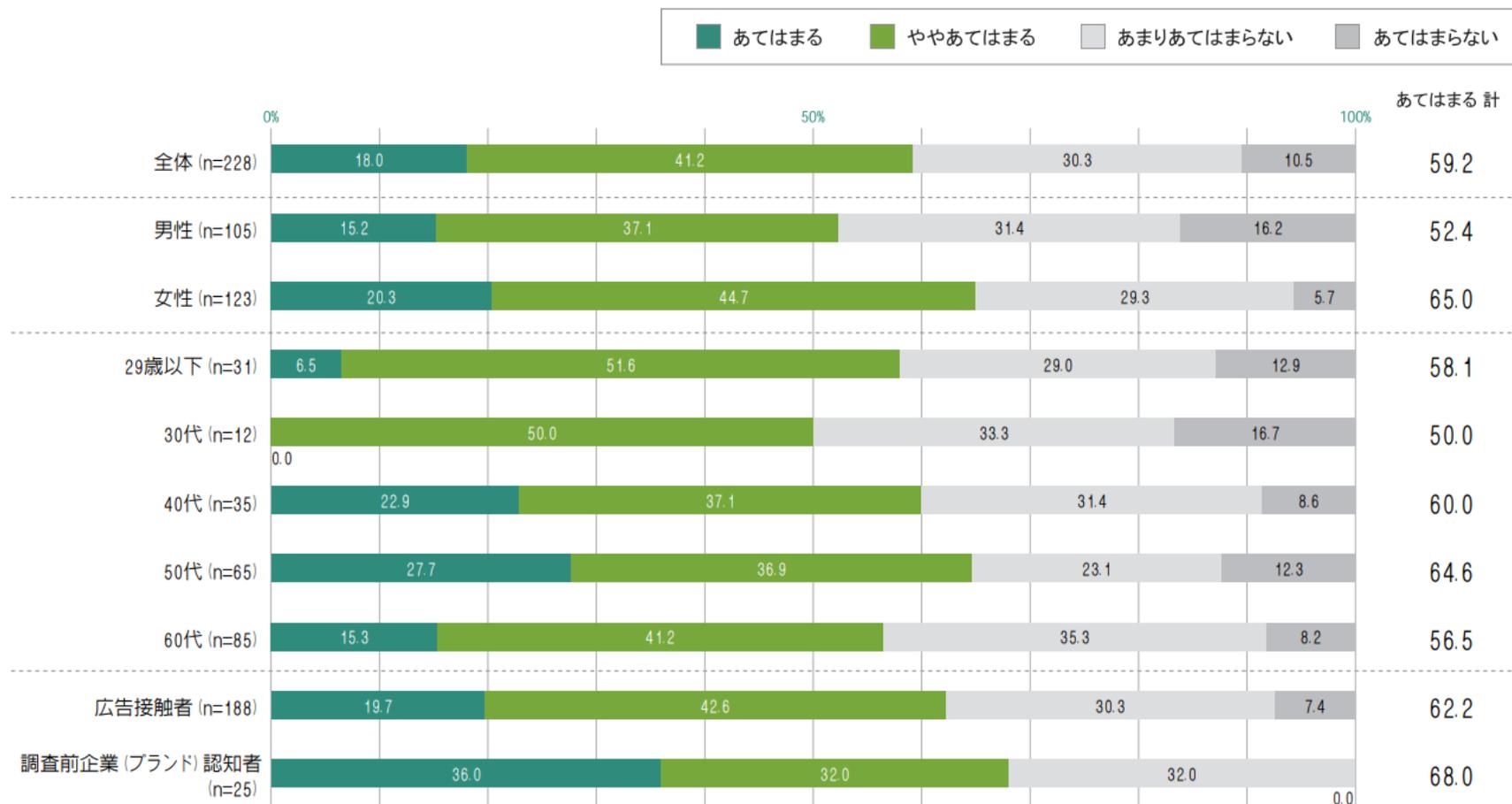


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の興味度

Q. あなたは『あなたもできる、介護のしごと』の広告をご覧になって、どのように感じましたか。※広告に興味を持った(単数回答)

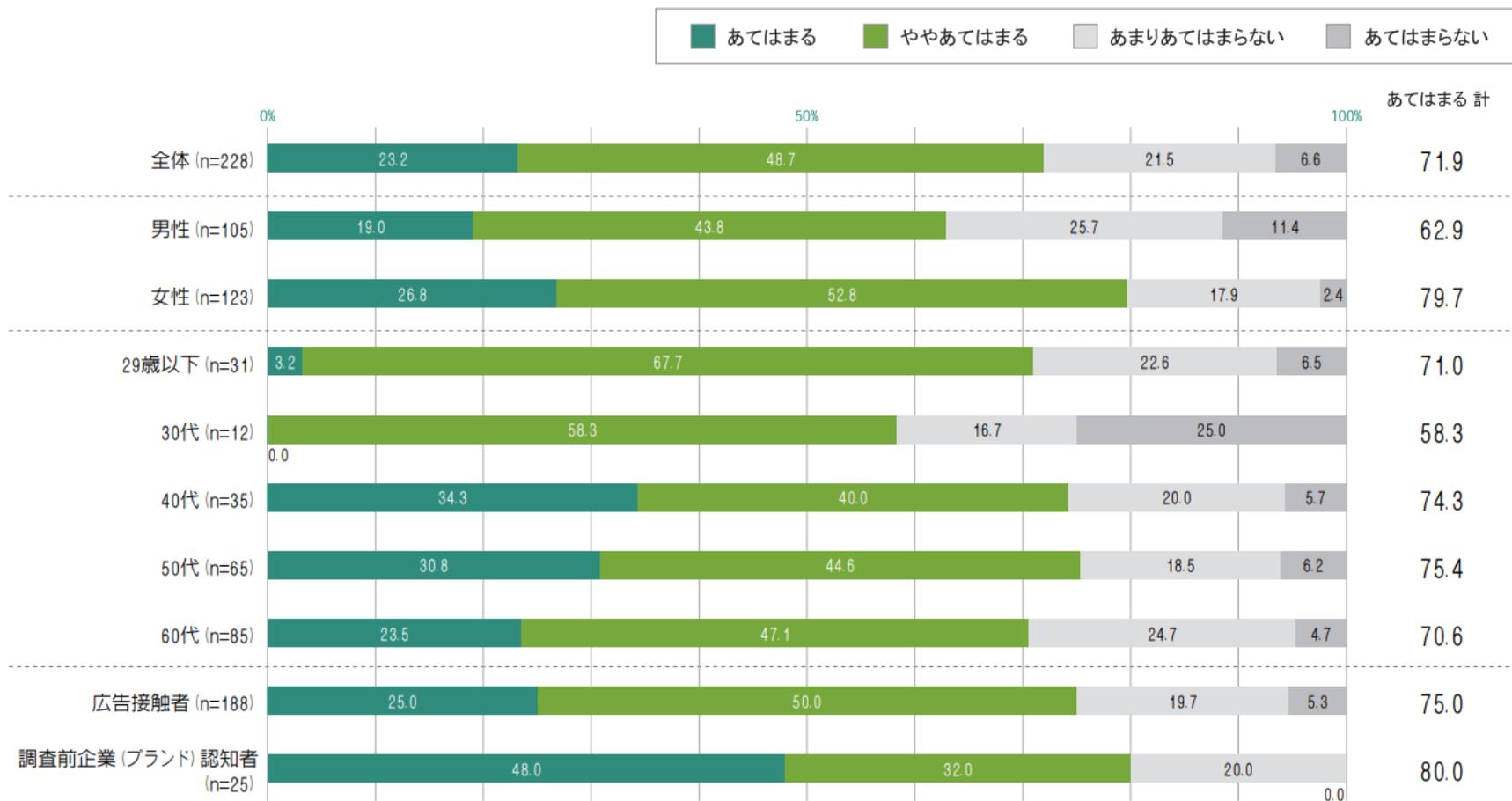


6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の好感度

Q. あなたは『あなたもできる、介護のしごと』の広告をご覧になって、どのように感じましたか。※広告に好感を持った(単数回答)



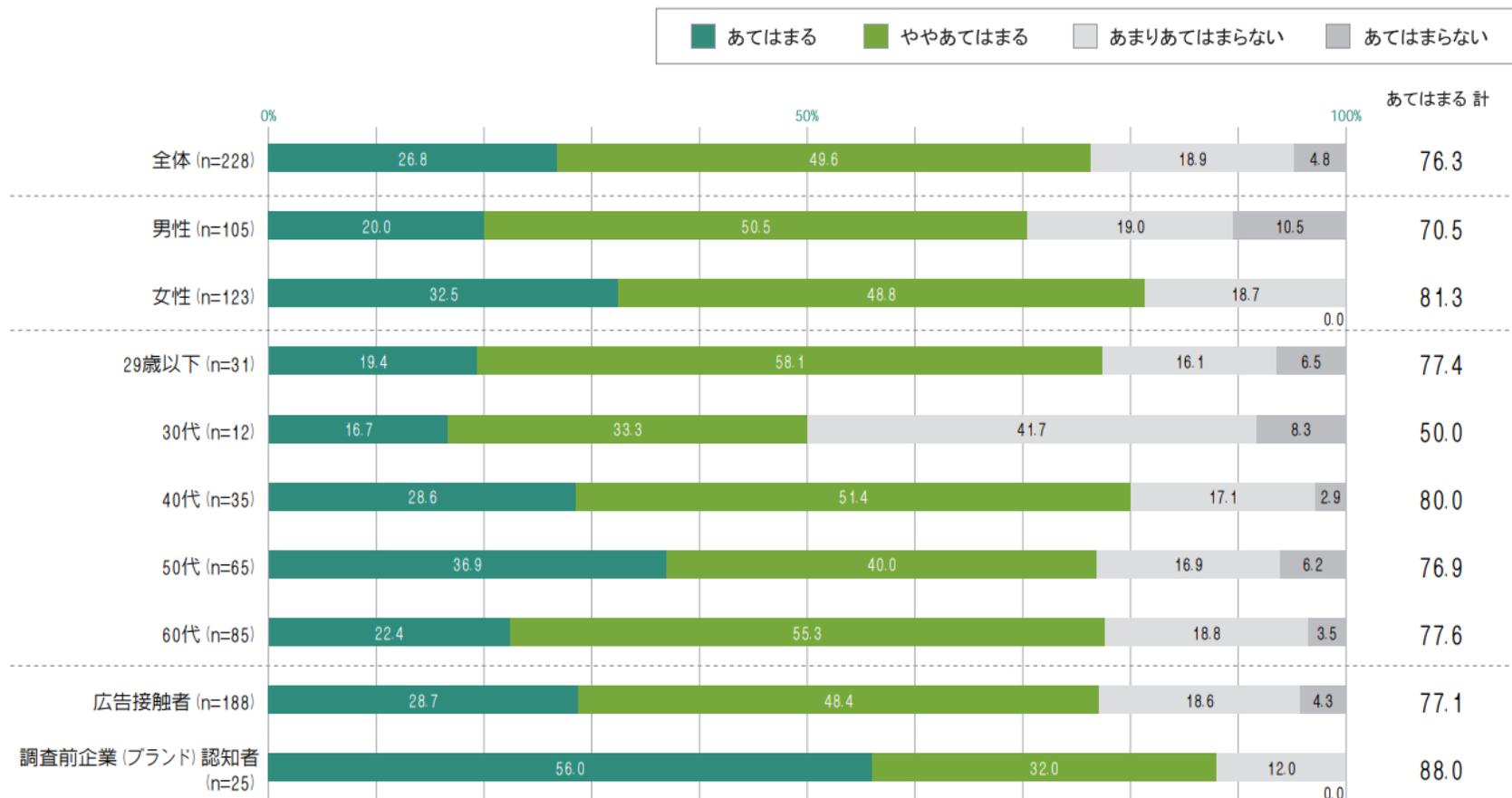
事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の信頼度

Q. あなたは『あなたもできる、介護のしごと!』の広告をご覧になって、どのように感じましたか。※広告が信頼できる(単数回答)



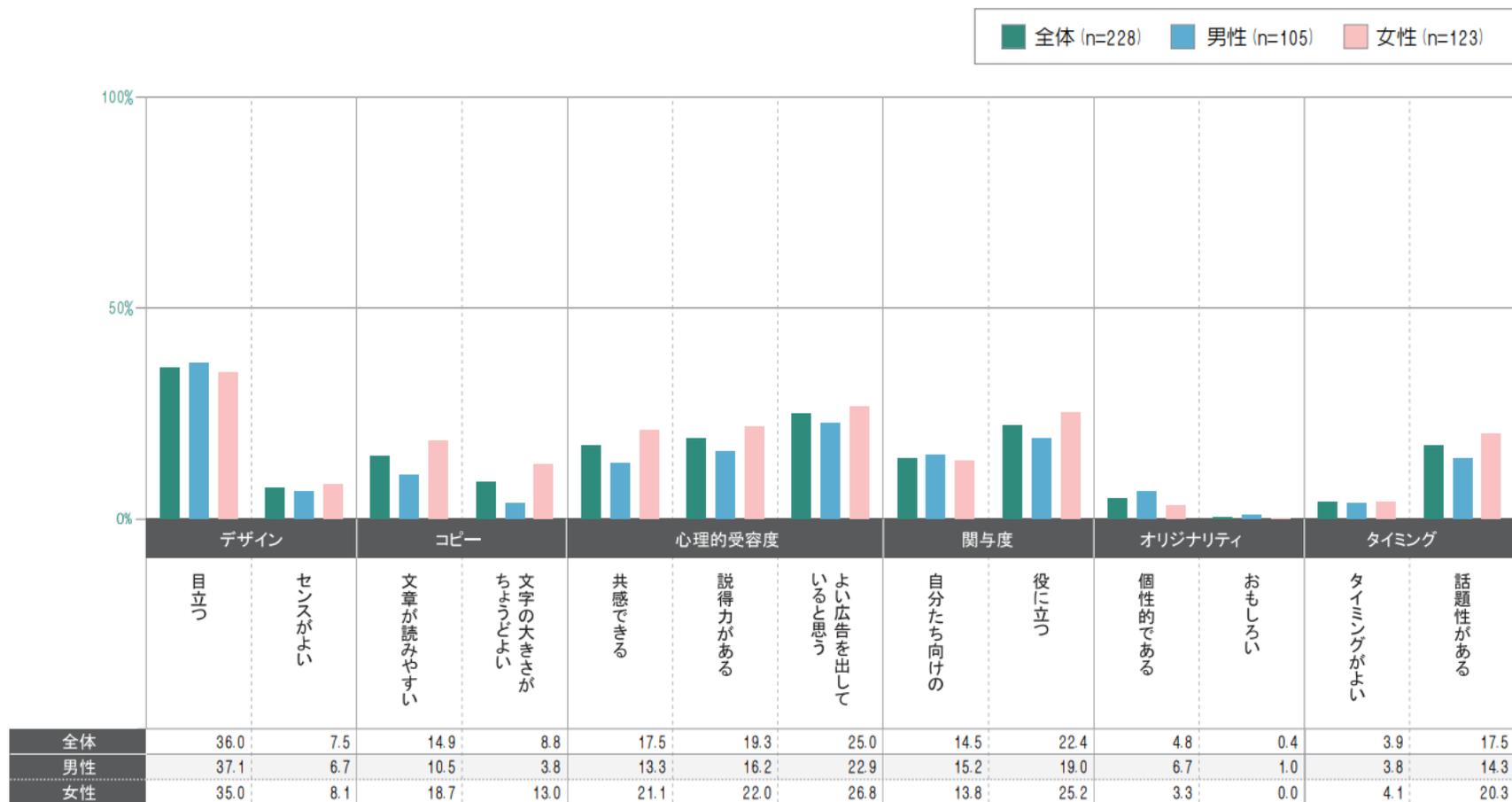
事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の印象

Q. あなたは『あなたもできる、介護のしごと』の広告をご覧になって、どのような印象をお持ちになりましたか。あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)



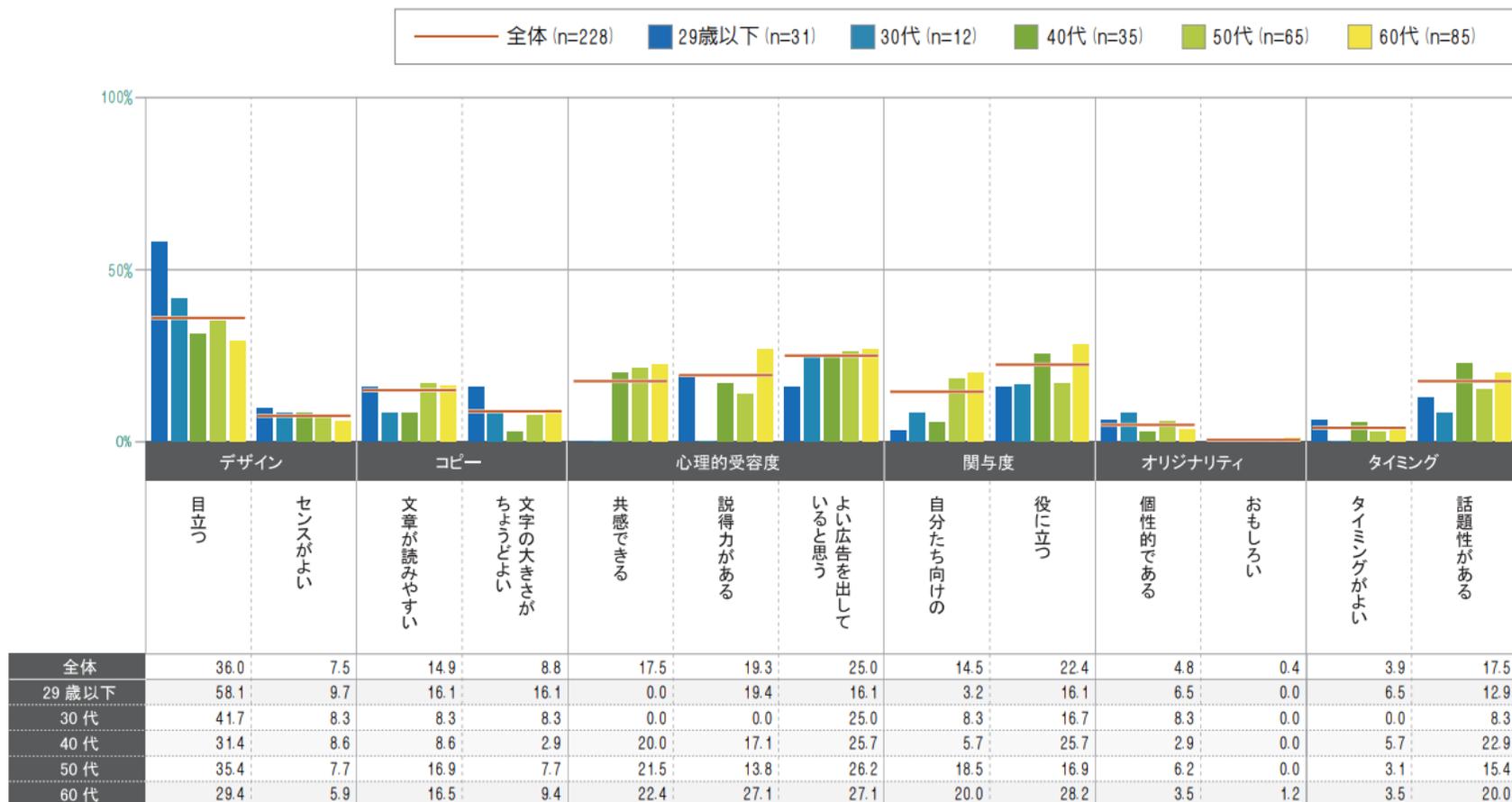
事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・新聞 J-MONITOR調査

広告の印象（年代別）

Q. あなたは『あなたもできる、介護のしごと』の広告をご覧になって、どのような印象をお持ちになりましたか。あてはまるものをすべてお選びください。（複数回答）



事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

※自由回答抜粋

・新聞 J-MONITOR調査

- ・内多さんが身内に介護が必要ではなく、アナウンサーの仕事としてかかわった番組から福祉の仕事に目を向けるようになったという点が印象的でした。30代のため、セカンドキャリアについてはまだ考える段階ではないと思っていますが、資格だけなら挑戦してみるものいいかもしれないと思いました。（男性30代）
- ・実際に働いてみないとわからない部分が多いので、その辺りのギャップや詳しい仕事紹介をもう少し知りたい。（男性30代）
- ・経験者の意見は参考になります。（男性50代）
- ・介護関係の情報は、たくさんあってもいいと思います。もっともっと、官民合わせ、情報を出して欲しいと思います。（男性50代）
- ・高齢化社会で介護が必要な人が増えていくので、元気な高齢者が介護の仕事ができるなら、いいことだと思う。実例が知られてよかったと思った。（男性50代）
- ・職員さんには向き不向き・適不適があると感じた。今広く介護職の門戸を開こうとしているが、ホスピタリティ、心根の教育・指導は部分はどうなっているのか。今後、家族や自分が世話になるだろうし、考え続けなければならない。（男性60代）
- ・仕事に真摯に向かい合っている人の話は好感を感じたが、現実には従事者の全てがこのような考えを持った人ばかりだとは思えなかった。（男性60代）

事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

※自由回答抜粋

・新聞 J-MONITOR調査

- ・高齢化が進み、介護職の人員確保の必要性が話題になっていたので、挑戦しやすい仕事だということが広まるといいと思った。（女性29歳以下）
- ・高齢化が進む中で、介護の仕事の需要はこれからますます高まると思う。介護の仕事は、賃金が低く、重労働と言うイメージが多いが、それを少しずつでも払拭できると良いと思う。（女性30代）
- ・これからもこのような試みを続けて行ってほしい。（女性30代）
- ・少しの時間で、ひとつのことだけでも良いなら、高齢者でもできることはあるのかもと思った。（女性40代）
- ・介護の仕事は大変で、人手不足なので、解消の一助となるべく、この広告があるんだろうと推測します。介護現場での喜びの声から、そして実際に携わる高齢者の声から、介護職の良い面を紹介しているのはイメージアップするためには大切なことだと思います。（女性50代）
- ・セカンドキャリアとしての介護の仕事について目を向けてもいいのかもしれないと感じた。（女性50代）
- ・親族の介護を6年ほどしています。最近、施設を利用することになり、少し時間ができたので、介護に関わる仕事を始めました。そのため、アンケート前にこの広告は全て読んでいました。介護の現場は常に人手不足状態ですから、このような広告で少しでも人手不足解消になれば良いと思いました。（女性60代）

事業内容

6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

※自由回答抜粋

・新聞 J-MONITOR調査

・とても今の時代に合った広告だと感じた。私自身、母の介護を体験しているため、なるほどと思いながら読んだ。介護はとても精神的にも肉体的にも大変なしごとだ。この広告を読んで、改めてその大変さがわかり、また新しい発見もあった。高齢者でも介護をしごととしてしている方たちがいるのだと改めて驚かされる。人材不足も深刻な問題だ。私自身も、時間が許され体力に自信があればやってみたいとずっと思ってきた。経験者なら余計に役に立つのではないか。仕事ではなくしごととすることで、温かさが感じられた。誰もが経験すること、真剣に議論していくことが大切だと思った。（女性60代）

・介護の仕事は何歳からでも始められるが生半可な気持ちではなかなか出来るものではないと思う。ただ、御老人のお世話という仕事だけでなく楽器の演奏や特技などを披露するといういろんな働き方があるというのを知ったので、自分に出ることがあるか調べてみようと思う。（女性60代）

・高齢の親がいて介護は身近な問題である。仕事としては資格がないとできないと思っていたが、これからはいろいろな立場でかかわることが出来る仕事になるかもしれないと思った。（女性60代）

・介護の仕事も多種多様な仕事内容や働き方があることもこの広告でわかりました。これからは介護の仕事を選べる多様な働き方のできる時代であり、誰にでも携わることができるのだと思いました。（女性60代）

・「資格がなくても、お手伝いできる仕事はたくさんある」ことがわかりました。（女性60代）



6. 大規模アクティブシニアコミュニティを活用した大型イベントの開催

・セミナー アーカイブ動画



総計データ

(集計期間:2025/3/17-25/03/31)

視聴回数

172,038

ユニーク視聴者数

150,000

総再生時間

52,000 (時間)

視聴者の性別

女性:41.4% 男性:58.6%



7. ポータルサイトの利活用

- 既存のポータルサイト「これからのKAIGO」の中に、各種制作したコンテンツを格納し、将来的な職業の選択肢となるよう、情報発信をしました。
- 今年度は他事業者とコンテンツ連携を行い発信しました。



朝日小学生新聞
朝日中高生新聞
Asahi Student Newspaper



寺子屋朝日
for Teachers



事業ポータルサイト「これからのKAIGO」



「知りたい」に応え、介護の仕事に
対する理解を深める役割

本事業の他事業者コンテンツ (経営者協議会様)



主演 本島純政
実話に基づくショートムービー「おかえり」



ドキュメンタリーA DAY in FUKUSHI～あるICT担当の介護福祉士の日々

ポータルサイト : 13,153PV